

第4章 食肉販売店の販売動向

－ 要 約 －

- 牛肉の最も売れ行きの良い部位は、「和牛肉」では「もも」(平均売れ筋価格:519 円/100g 以下同様)、「かたロース」(735 円)、「国産乳用種」でも同様に「もも」(278 円)、「かたロース」(374 円)、「国産交雑種」も同様に「もも」(367 円)、「かたロース」(510 円)、「輸入牛肉」は「ばら」(191 円)、「かたロース」(210 円)であった。「和牛肉」の高級部位である「ヒレ」は 1,225 円、「サーロイン」は 1,064 円であった。
- 豚肉の最も売れ行きの良い部位は、「ばら」、「ロース」、「かたロース」。売れ筋価格は「国産豚肉」は「ばら」(158 円)、「ロース」(213 円)、「かたロース」(186 円)、「輸入豚肉」は「ばら」(107 円)、「ロース」(116 円)、「かたロース」(112 円)であった。「国産豚肉」の高級部位「ヒレ」は 238 円であった。
- 鶏肉の最も売れ行きの良い部位は、「もも肉」(117 円)、「むね肉」(76 円)であった。
- 牛肉は全般的に低価格化が進んだ。豚肉、鶏肉は部位や業態にもよるが、総じてやや価格が上昇した。
- 販売店の考える受容価格帯と消費者の受容価格帯とは、「国産牛ばら肉」で消費者 188.4~248.8 円/100g に対し、販売店 291.3~338.8 円/100g とギャップが生じていた。
- 和牛肉は種類に関わらず現状の売れ行きも、今後の見通しも良くない状況となった。「褐色和種」が比較的減少幅が低いことが見込まれた。
- JAS 規格品の認知状況は十分とは言えず、特に特定 JAS 規格品の認知率は商品に関わらず半分に満たない状況であった。今後の取扱量平均ポイントは全ての商品がマイナスとなったが、比較して最も高かったのは、「特定 JAS 規格品(地鶏)」の-0.04 ポイントで、逆に最も低かったのが「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」の-0.15 ポイントであった。

1. 食肉の売れ筋価格帯

1. 1. 牛肉の売れ筋価格帯(100g 当たり)

1. 1. 1. 「和牛肉」(部位別)

- 「和牛肉」の売れ筋価格帯の平均(推計)は、「切り落とし」が 332 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 1,225 円/100g と最も高くなった。

今回調査より、部位ではないものの、消費者にとって買い求めやすい「切り落とし」というジャンルを追加して分析を行った。

平均価格は、「切り落とし」、「ばら」、「かた」、「もも」、「かたロース」、「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」の順で高くなってきている。

「切り落とし」は 400 円/100g 以下の価格帯に 70%近くが集中していた。

「ばら」は 401~500 円/100g の価格帯が最も多く、次いで 301~400 円/100g の価格帯が多くなっており、切り落としよりやや高め価格帯が売れ筋となっていることがわかる。

「かた」、「もも」ともに、「ばら」同様、401~500 円/100g の価格帯が最も多くなっているが、次に 501~600 円/100g の価格帯が多くなっている点が、「ばら」よりも高めの売れ筋価格帯になっている要因である。また、3 番目の売れ筋価格帯が、「かた」が 301~400 円/100g であるのに対し、「もも」は 601~700 円/100g であることから、「もも」の平均価格が「かた」よりも高くなっている。

「かたロース」は 801~1,000 円/100g の価格帯が最も多く、幅広い価格帯に分散していた。

以降、「リブロース」が 801~1,000 円/100g に 33.1%、「サーロイン」と「ヒレ」が 1,001~1,500 円/100g にそれぞれ 37.0%、39.4%と、多くを占めており、ワンランクずつ価格帯がアップしてきているのがわかる。

図 4-1 「和牛肉」部位の売れ筋価格帯

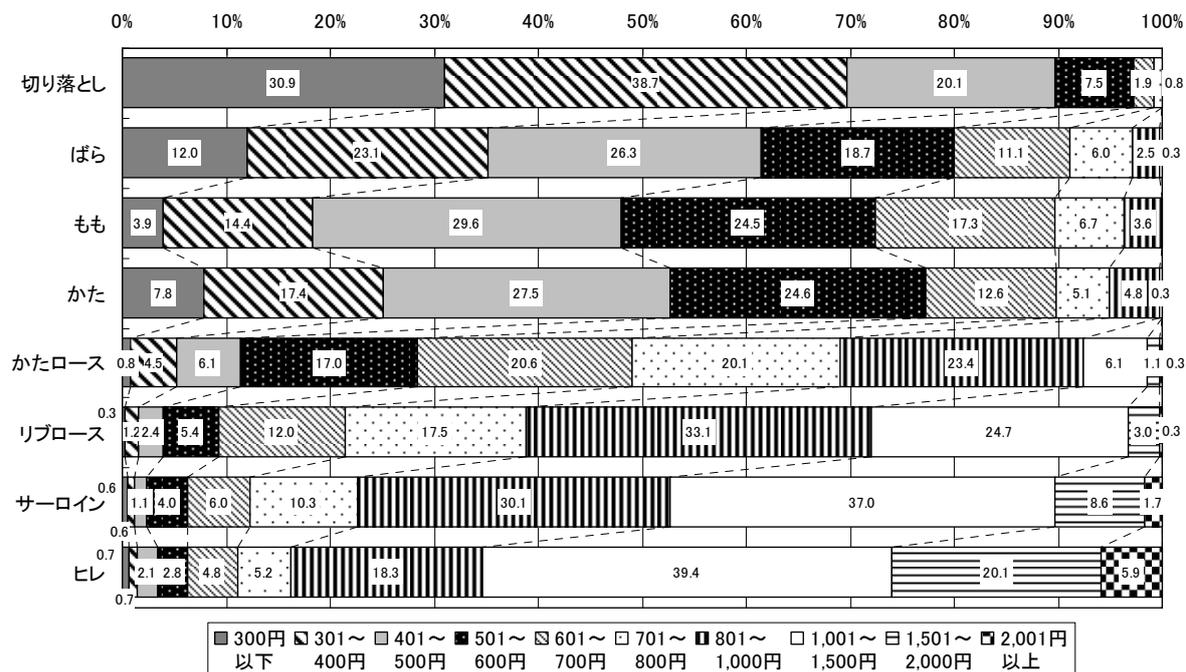


表 4-1 「和牛肉」部位別の売れ筋価格帯

単位: %、円/100g

部位別	総数	300円以下	301~400円	401~500円	501~600円	601~700円	701~800円	801~1,000円	1,001~1,500円	1,501~2,000円	2,001円以上	平均価格
切り落とし	359	30.9	38.7	20.1	7.5	1.9	0.8	-	-	-	-	332
ばら	316	12.0	23.1	26.3	18.7	11.1	6.0	2.5	0.3	-	-	464
もも	388	3.9	14.4	29.6	24.5	17.3	6.7	3.6	-	-	-	519
かた	334	7.8	17.4	27.5	24.6	12.6	5.1	4.8	0.3	-	-	498
かたローズ	359	0.8	4.5	6.1	17.0	20.6	20.1	23.4	6.1	1.1	0.3	735
リブローズ	332	0.3	1.2	2.4	5.4	12.0	17.5	33.1	24.7	3.0	0.3	920
サーロイン	349	0.6	0.6	1.1	4.0	6.0	10.3	30.1	37.0	8.6	1.7	1,064
ヒレ	289	0.7	0.7	2.1	2.8	4.8	5.2	18.3	39.4	20.1	5.9	1,225

【経年比較調査】

「和牛肉」の部位別平均価格は、平成 18 年から平成 19 年にかけて上昇したが、平成 20 年には、平成 18 年以下の水準に下がっている。販売店からは、消費者の低価格志向が強まっていることが指摘されており、その流れとも一致する。

表 4-2 「和牛肉」部位別の売れ筋価格の経年比較

単位: 円/100g、店舗数

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
切り落とし	-	-	332	-	-	359
ばら	496	518	464	564	572	316
もも	540	547	519	617	653	388
かた	523	536	498	566	579	334
かたローズ	752	785	735	573	596	359
リブローズ	927	960	920	564	585	332
サーロイン	1,076	1,107	1,064	575	603	349
ヒレ	1,213	1,254	1,225	540	526	289

- 業態別「和牛肉」の売れ筋価格は、部位に関わらず「百貨店」が高く、「食品スーパー」が総じて安い。安い部位では「農協・生協ストア」が高く、高級部位では、「総合スーパー」、「食肉専門店」が高い。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

どの部位においても、「百貨店」の売れ筋価格帯が最も高くなっている。「食品スーパー」は、ほとんどの部位で最も安くなっているが、「ばら」については、「農協・生協ストア」や「食肉専門店」の方が安くなっている。また、部位ではないが、「切り落とし」も「食肉専門店」の方が安い。「もも」や「かた」などの安い部位で、「百貨店」に続いて「農協・生協ストア」が高くなっている。逆に、「リブロース」や「ヒレ」のような高い部位では、「百貨店」に「総合スーパー」や「食肉専門店」が続いて高くなっていた。

経年で比較すると、ほとんどの業態で、売れ筋価格帯が前年よりも安くなっている。但し、高級部位については、総合スーパーでは前年よりも高く、百貨店や食品スーパーでは前年よりも安くなっている点が特徴的であった。

図 4-2 業態別・「和牛肉」・切り落としの売れ筋価格の平均

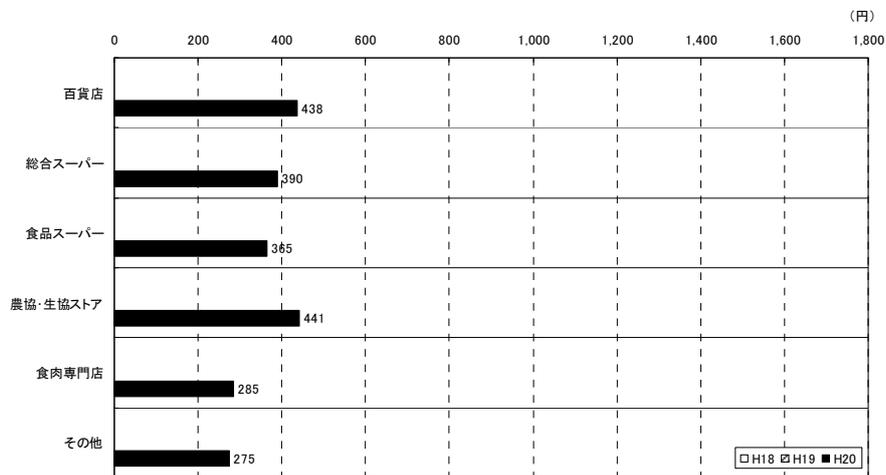


図 4-3 業態別・「和牛肉」・ばらの売れ筋価格の平均

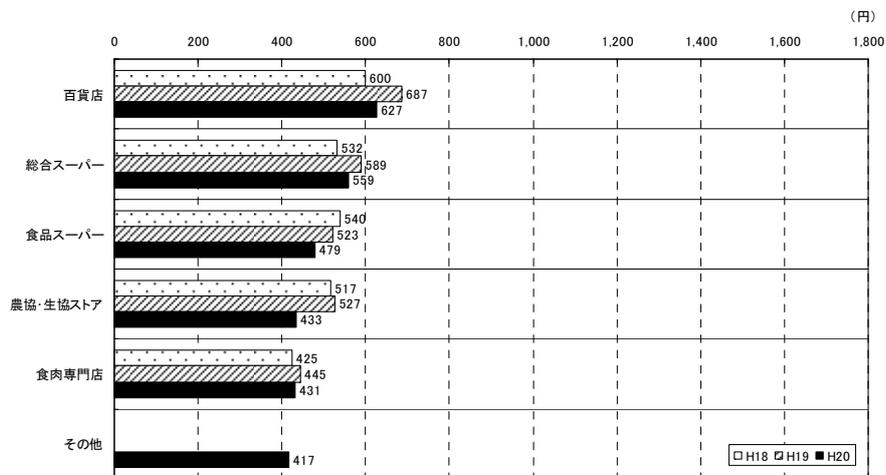


図 4-4 業態別・「和牛肉」・ももの売れ筋価格の平均

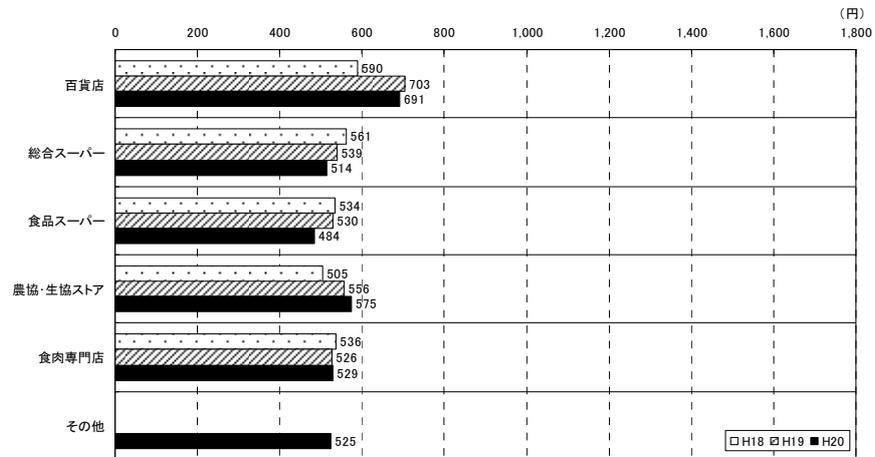


図 4-5 業態別・「和牛肉」・かたの売れ筋価格の平均

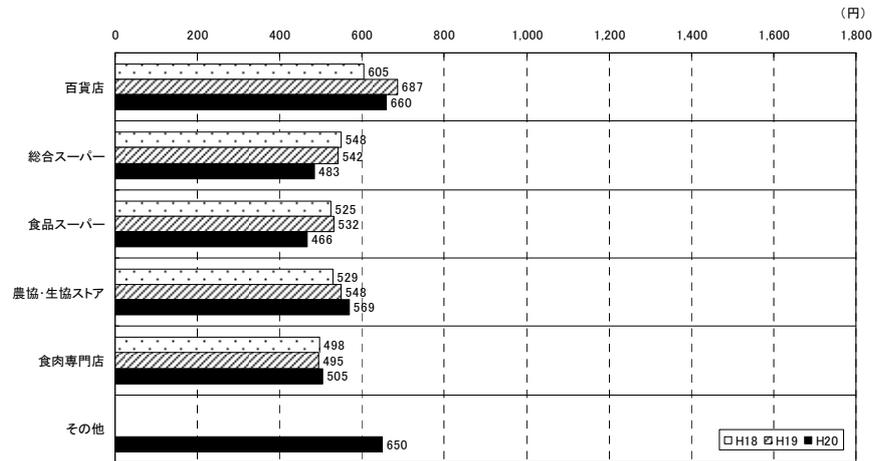


図 4-6 業態別・「和牛肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

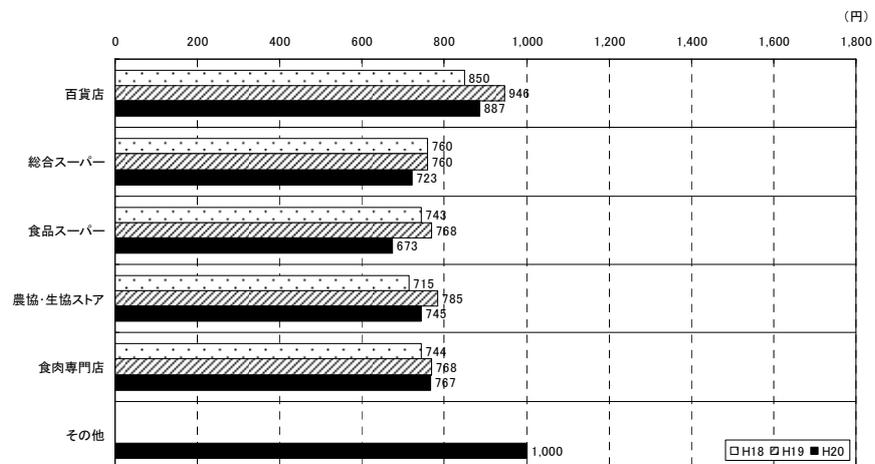


図 4-7 業態別・「和牛肉」・リブロースの売れ筋価格の平均

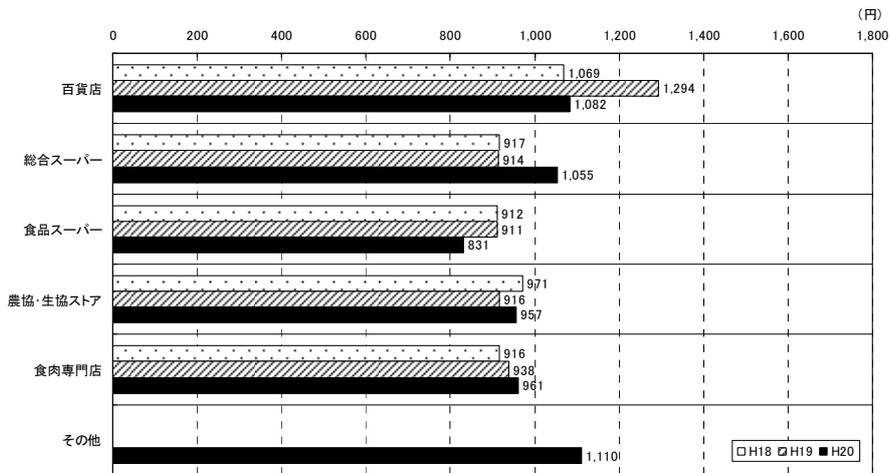


図 4-8 業態別・「和牛肉」・サーロインの売れ筋価格の平均

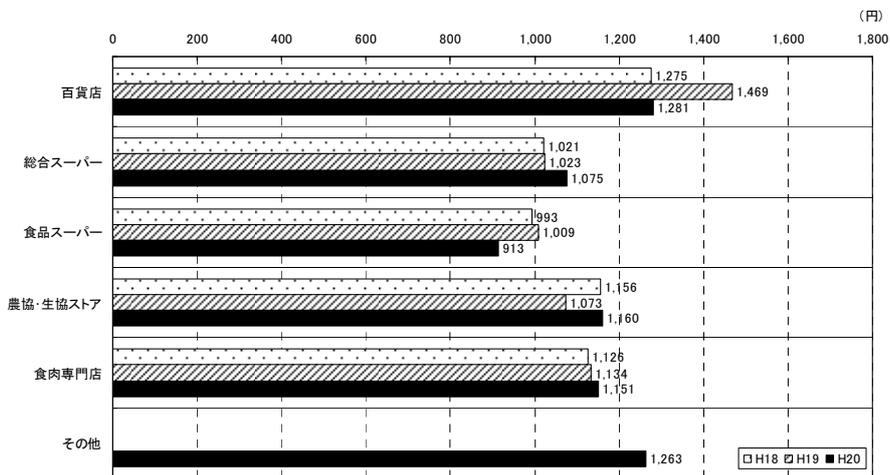
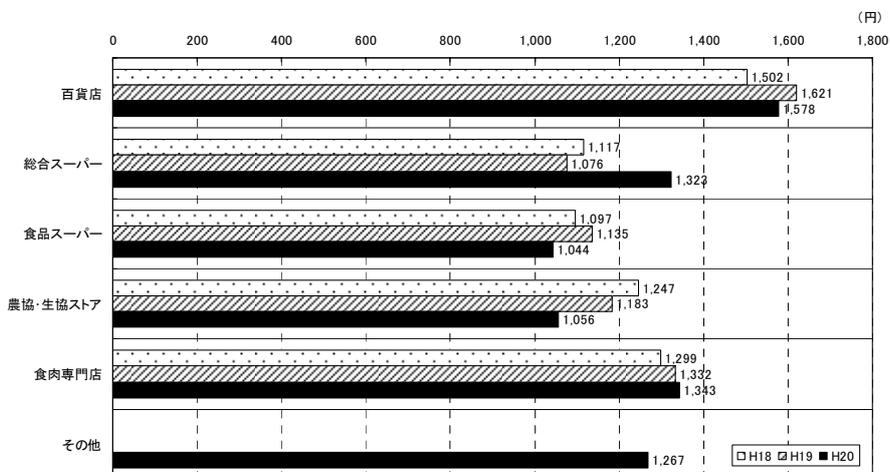


図 4-9 業態別・「和牛肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



- 地域別「和牛肉」売れ筋価格は、総じて大都市圏の売れ筋価格が高かった。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

総じて「関東」、「東海」、「近畿」の大都市圏の売れ筋価格帯が高く、「北陸」や「中国」の売れ筋価格帯が安くなっていた。今回調査では、「ばら」、「もも」については「北海道」が、「かたロース」、「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」については「四国」が高かった点が、例年にない傾向として挙げられる。

図 4-10 地域別・「和牛肉」・切り落としの売れ筋価格の平均

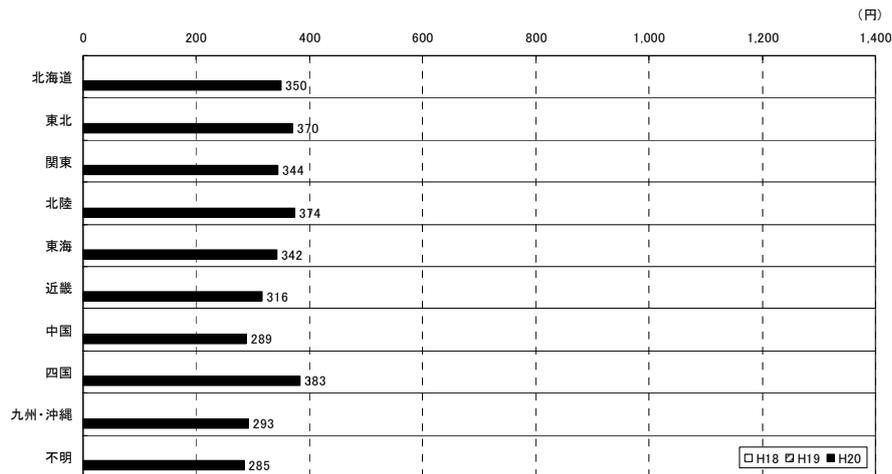


図 4-11 地域別・「和牛肉」・ばらの売れ筋価格の平均

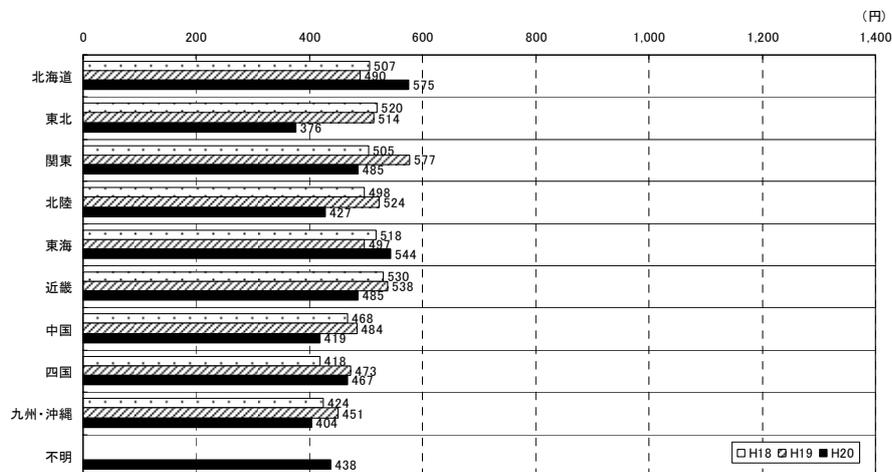


図 4-12 地域別・「和牛肉」・ももの売れ筋価格の平均

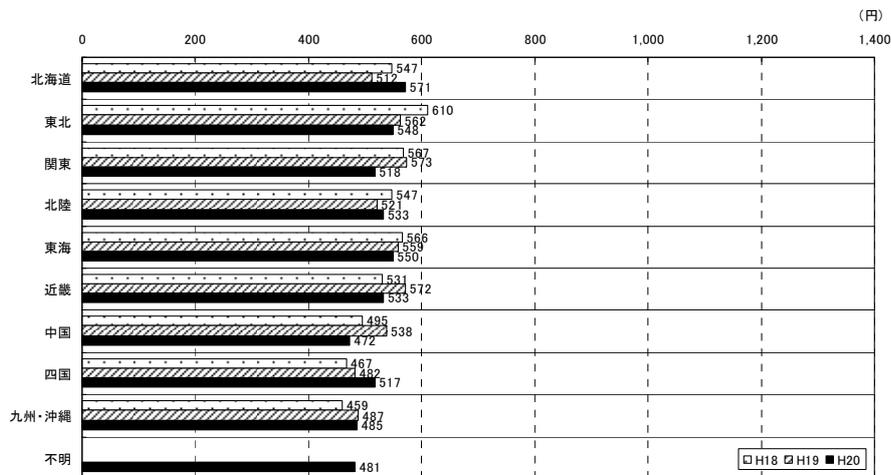


図 4-13 地域別・「和牛肉」・かたの売れ筋価格の平均

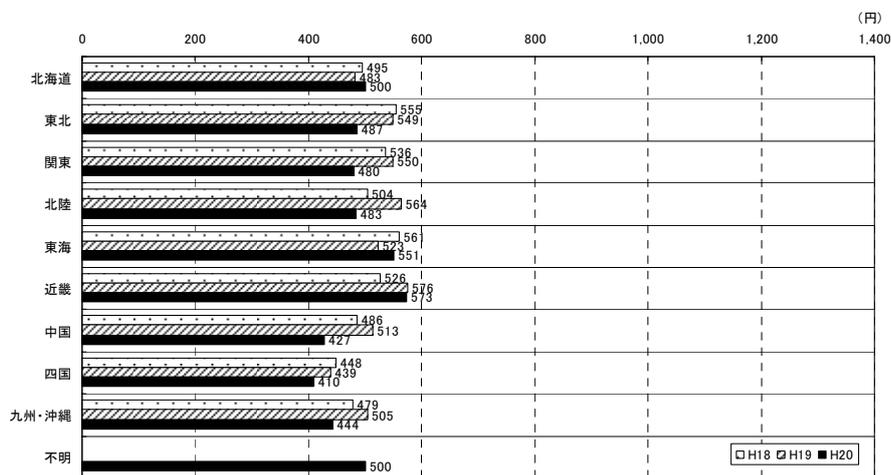


図 4-14 地域別・「和牛肉」・かたローズの売れ筋価格の平均

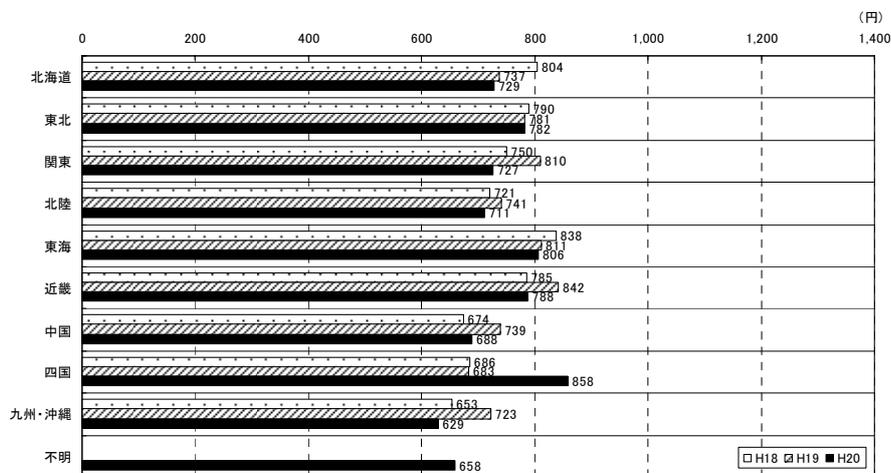


図 4-15 地域別・「和牛肉」・リブロースの売れ筋価格の平均

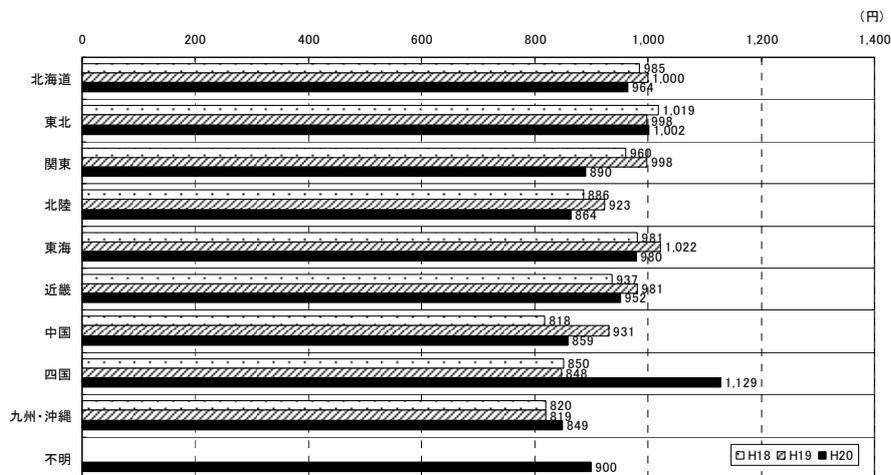


図 4-16 地域別・「和牛肉」・サーロインの売れ筋価格の平均

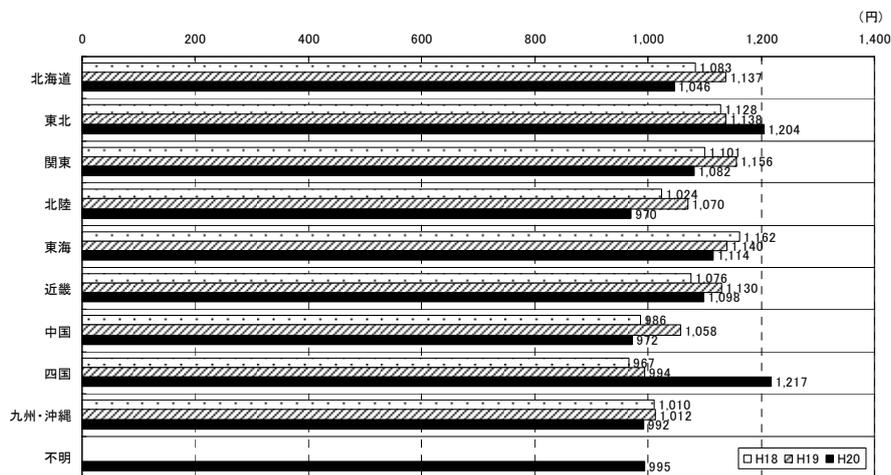
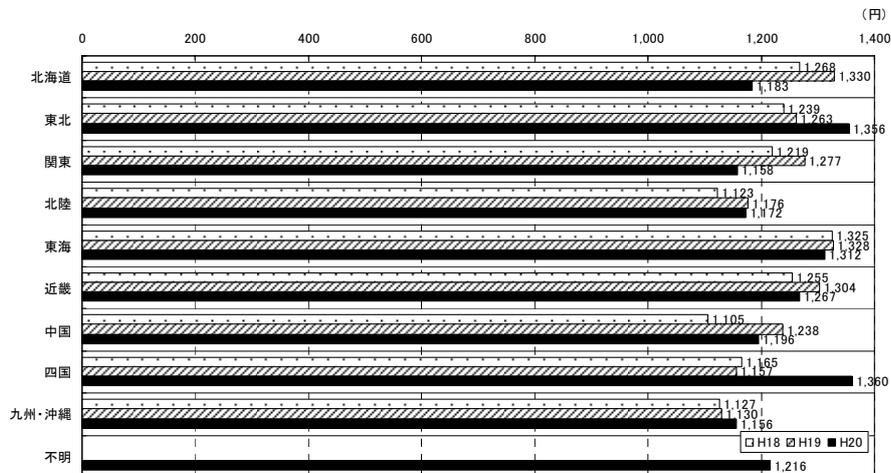


図 4-17 地域別・「和牛肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 1. 2. 「国産乳用種」(部位別)

● 「国産乳用種」の売れ筋価格帯は、「切り落とし」が 230 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 539 円/100g と最も高くなった。

平均価格は、「切り落とし」、「かた」・「もも」、「ばら」、「かたロース」、「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」の順で高くなってきている。「ばら」が、「かた」や「もも」よりも高くなっている点が「和牛肉」と異なる。

「切り落とし」は、300 円/100g 以下の価格帯が 92.1%を占め、最も安い価格帯になっていることがわかる。

「ばら」、「もも」、「かた」はいずれも、251～300 円/100g の価格帯が最も多い。特に「もも」は 46.3%と、半数近くの販売店がこの価格帯を売れ筋としていることから、「国産乳用種」の「もも」は 251～300 円/100g の価格帯に値頃感が形成されている可能性がある。

「ばら」は「もも」や「かた」以上に、401～500 円/100g の価格帯もそれなりに売れ筋となっている(12.3%)ことから、「もも」や「かた」よりも平均価格帯が高くなっていることがわかる。

「かたロース」は、301～400 円/100g の価格帯が 36.0%と最も多く、次いで 401～500 円/100g の価格帯が 25.9%と多くなっている。

以降、「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」と部位が高級になっていくに従って、売れ筋価格帯が高い価格にシフトしてきている。

図 4-18 「国産乳用種」部位の売れ筋価格帯

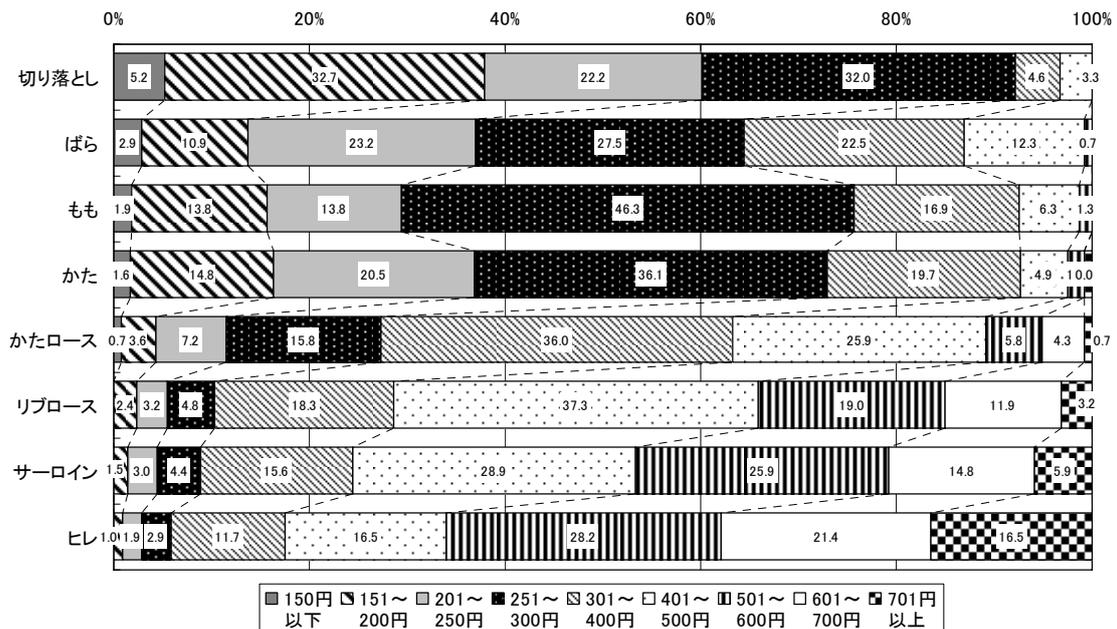


表 4-3 「国産乳用種」部位別の売れ筋価格帯

部位別	総数	単位: %、円/100g									平均価格
		150円以下	151~200円	201~250円	251~300円	301~400円	401~500円	501~600円	601~700円	701円以上	
切り落とし	153	5.2	32.7	22.2	32.0	4.6	3.3	-	-	-	230
ばら	138	2.9	10.9	23.2	27.5	22.5	12.3	0.7	-	-	287
もも	160	1.9	13.8	13.8	46.3	16.9	6.3	1.3	-	-	278
かた	122	1.6	14.8	20.5	36.1	19.7	4.9	1.6	-	0.8	278
かたロース	139	0.7	3.6	7.2	15.8	36.0	25.9	5.8	4.3	0.7	374
リブロース	126	-	2.4	3.2	4.8	18.3	37.3	19.0	11.9	3.2	461
サーロイン	135	-	1.5	3.0	4.4	15.6	28.9	25.9	14.8	5.9	486
ヒレ	103	-	1.0	1.9	2.9	11.7	16.5	28.2	21.4	16.5	539

【経年比較調査】

「国産乳用種」の部位別平均売れ筋価格は、平成 18 年から平成 19 年にかけて微増したが、平成 20 年には全ての部位において平成 18 年よりも低い水準にまで安くなっている。

表 4-4 「国産乳用種」部位別の売れ筋価格の経年比較

単位：円/100g、店舗数

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
切り落とし	-	-	230	-	-	153
ばら	305	312	287	427	311	138
もも	300	302	278	455	346	160
かた	285	285	278	421	302	122
かたロース	409	423	374	431	305	139
リブロース	487	489	461	418	290	126
サーロイン	522	528	486	424	310	135
ヒレ	576	582	539	400	253	103

- 業態別に「国産乳用種」の価格帯を見ると、「食肉専門店」がいずれの部位でも安い価格帯になっている。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

「国産乳用種」については、「農協・生協ストア」が、どの部位においても価格帯が高くなっているが、これまでに見られない特殊な動きであるため、データに偏りが生じてこのような価格帯になっている可能性が考えられた。「食品スーパー」と「食肉専門店」について比較すると、いずれの部位でも「食肉専門店」の売れ筋価格帯が安くなっている点が、「和牛肉」と異なる特徴として挙げられる。

「食品スーパー」と「食肉専門店」の各部位の売れ筋平均価格帯を経年比較してみると、「食品スーパー」の売れ筋価格帯は、全ての部位において平成 19 年よりも安くなっている。「食肉専門店」もほとんどの部位で平成 19 年よりも安くなっているが、「かた」と「リブロース」においてのみ、わずかに高くなっている。

図 4-19 業態別・「国産乳用種」・切り落としの売れ筋価格の平均

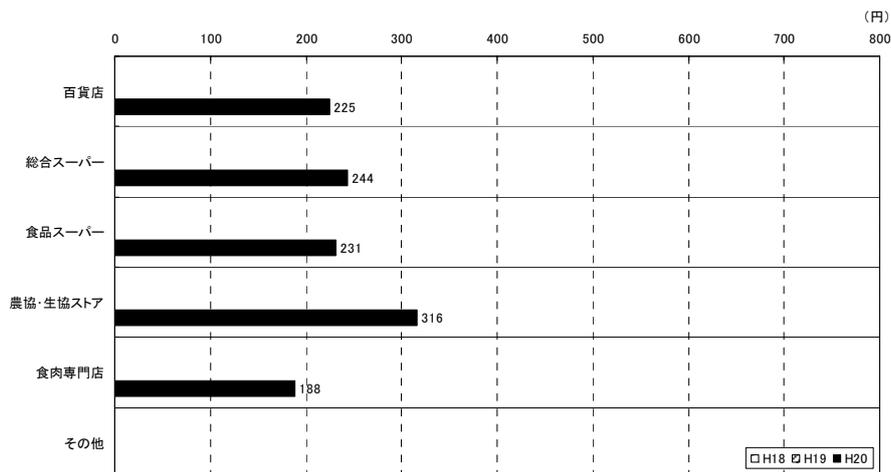


図 4-20 業態別・「国産乳用種」・ばらの売れ筋価格の平均

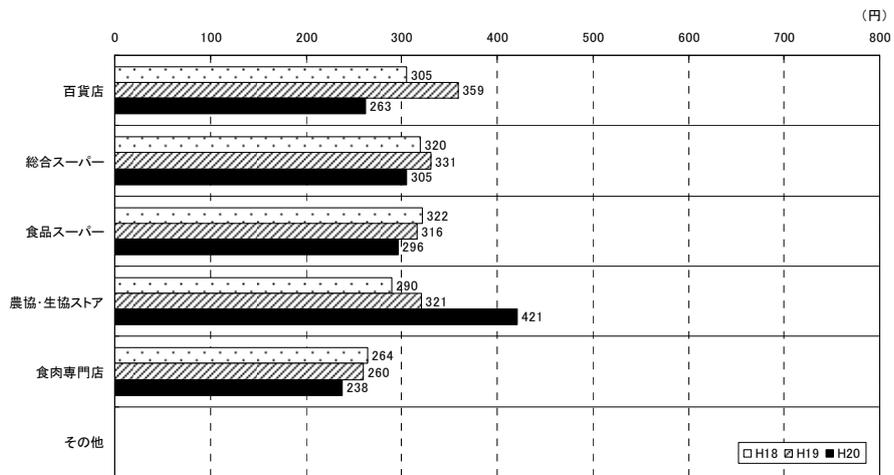


図 4-21 業態別・「国産乳用種」・ももの売れ筋価格の平均

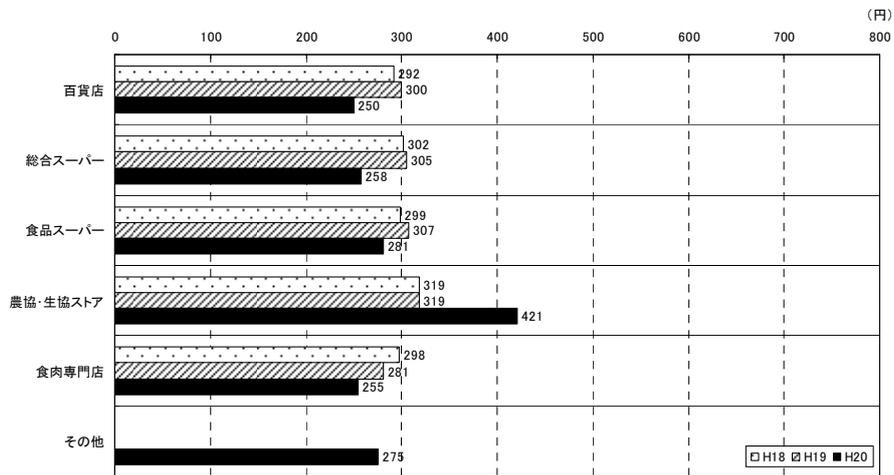


図 4-22 業態別・「国産乳用種」・かたの売れ筋価格の平均

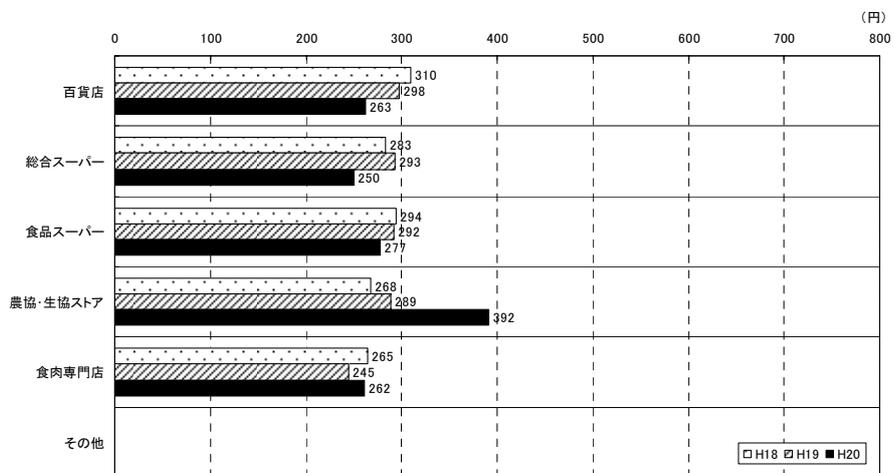


図 4-23 業態別・「国産乳用種」・かたろースの売れ筋価格の平均

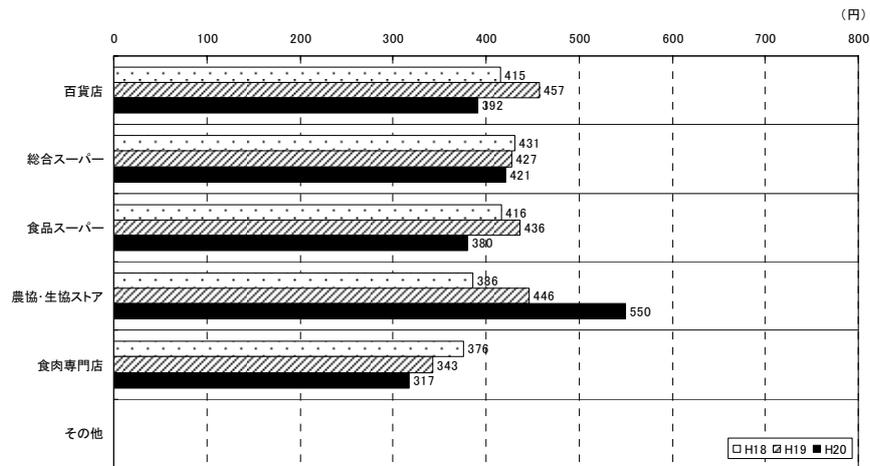


図 4-24 業態別・「国産乳用種」・リブローズの売れ筋価格の平均

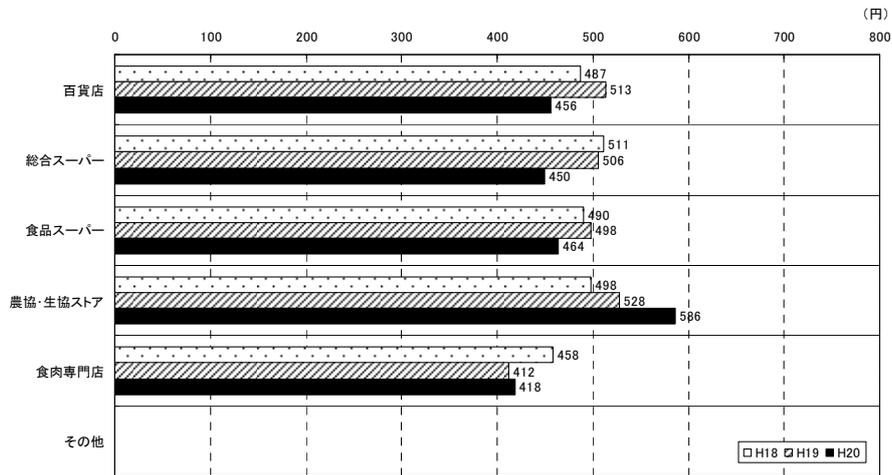


図 4-25 業態別・「国産乳用種」・サーロインの売れ筋価格の平均

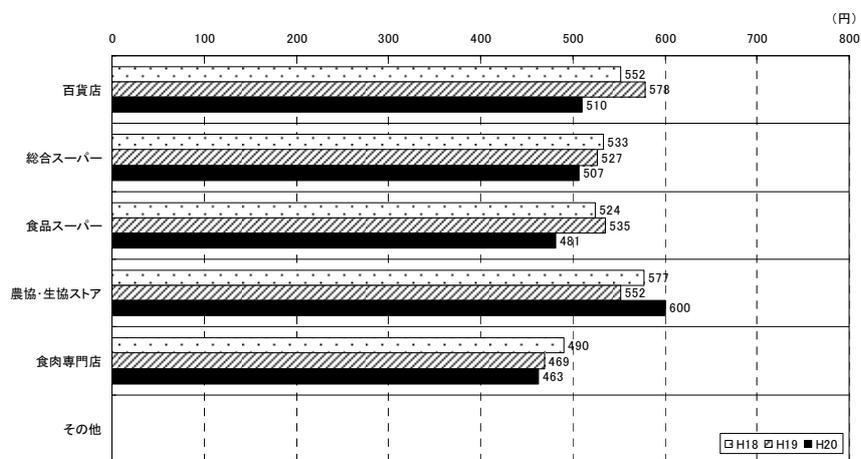
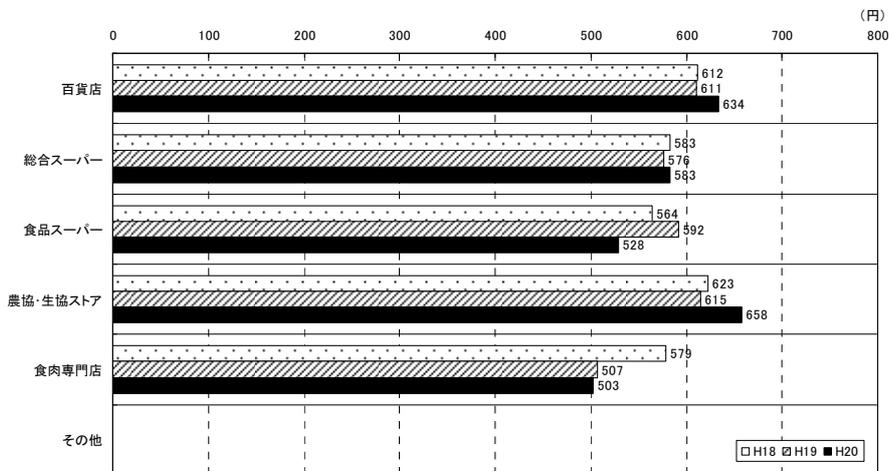


図 4-26 業態別・「国産乳用種」・ヒレの売れ筋価格の平均



- 地域別に見ると、総じて「関東」、「東海」の売れ筋価格帯が高めで、「近畿」、「中国」が安めになっている。前年と比較するとほとんどの地域、部位で売れ筋価格帯が安くなっている。

「近畿」がどの部位においても、他地域と比較して安めの売れ筋価格帯となった。一方、同じ大都市圏である「関東」、「東海」は、他地域と比較しても売れ筋価格帯は高めであった。特に「東海」は、「ばら」、「かた」、「リブローズ」では、前年よりも売れ筋価格帯が高くなっていた。「中国」は「和牛肉」同様、他地域と比較して売れ筋価格帯が安めになっている。

経年で比較すると、総じて平成 19 年よりも平成 20 年の売れ筋価格帯が安くなった。特に、「近畿」においては、平成 19 年は、他地域と比較しどの部位においても売れ筋価格帯が高めであったが、今回調査においては、全ての部位において大きく売れ筋価格帯が低下しており、他地域よりも安くなった点が特徴的であった。

図 4-27 地域別・「国産乳用種」・切り落としの売れ筋価格の平均

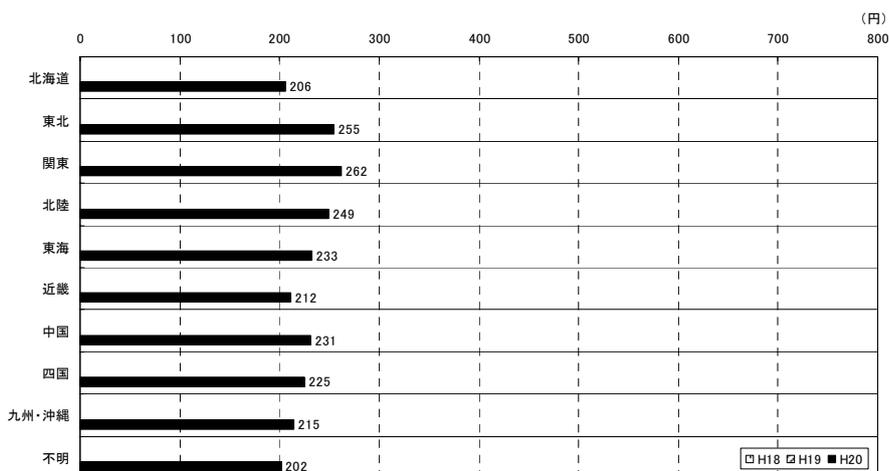


図 4-28 地域別・「国産乳用種」・ばらの売れ筋価格の平均

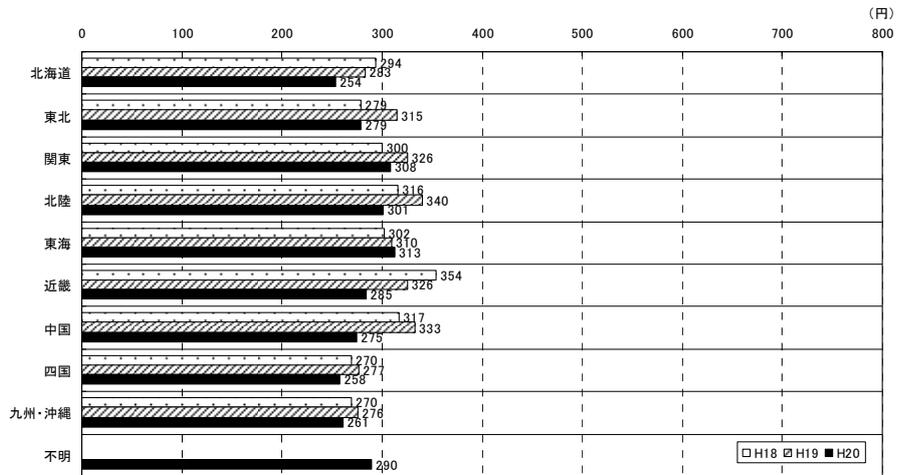


図 4-29 地域別・「国産乳用種」・ももの売れ筋価格の平均

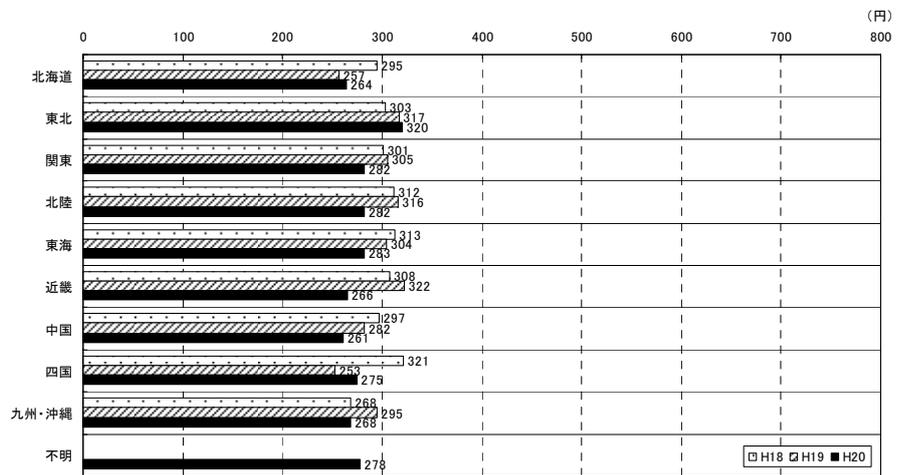


図 4-30 地域別・「国産乳用種」・かたの売れ筋価格の平均

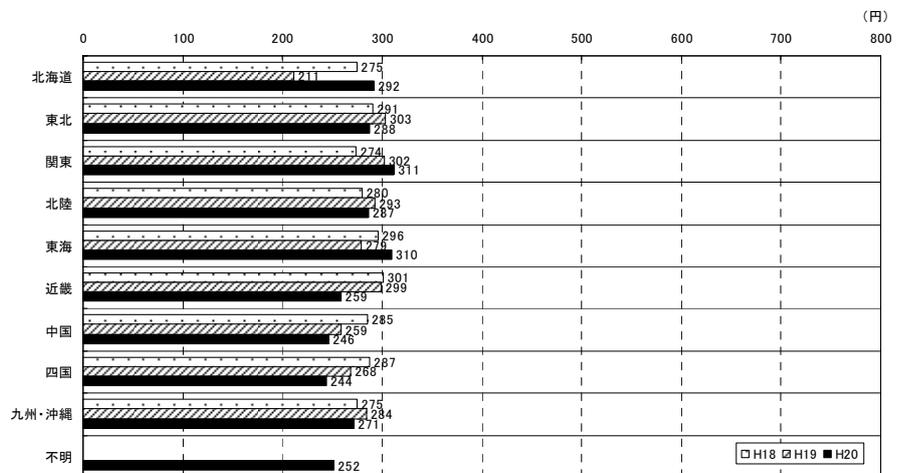


図 4-31 地域別・「国産乳用種」・かたロースの売れ筋価格の平均

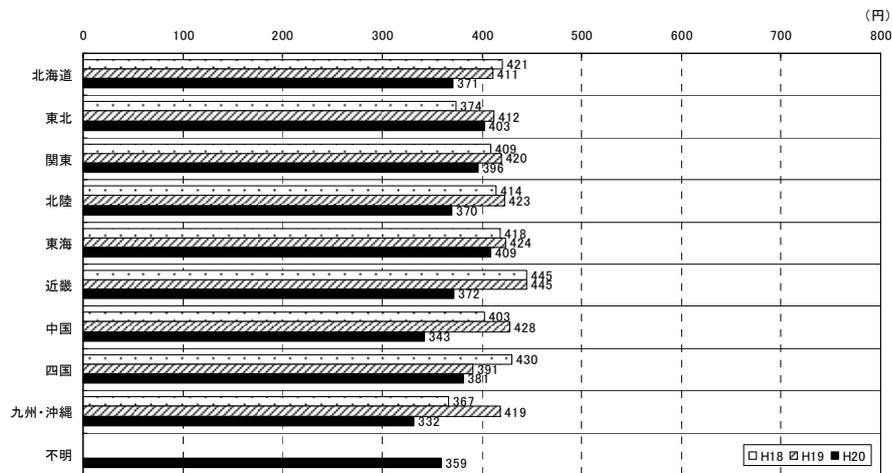


図 4-32 地域別・「国産乳用種」・リブロースの売れ筋価格の平均

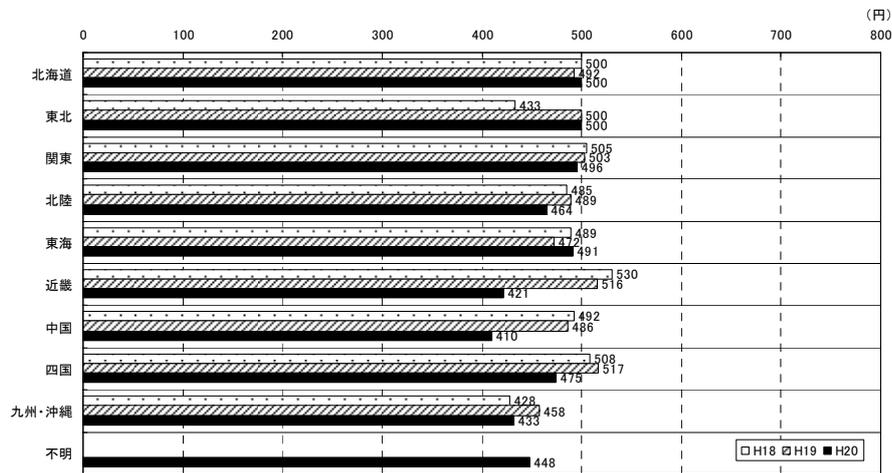


図 4-33 地域別・「国産乳用種」・サーロインの売れ筋価格の平均

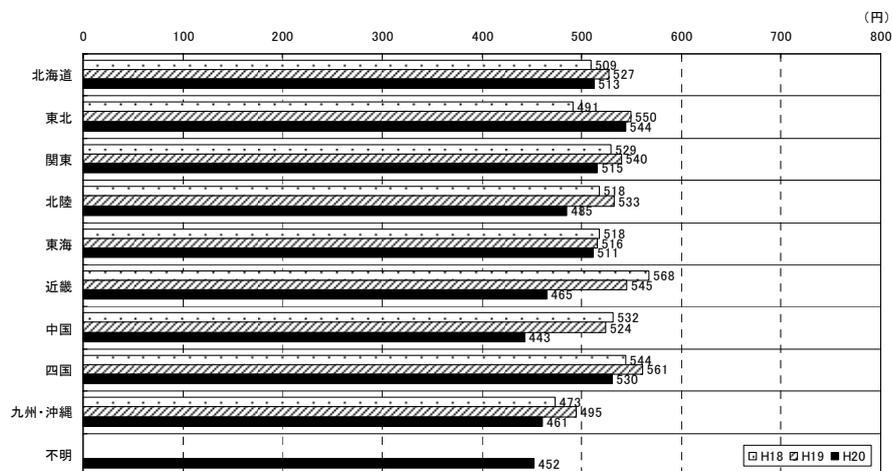
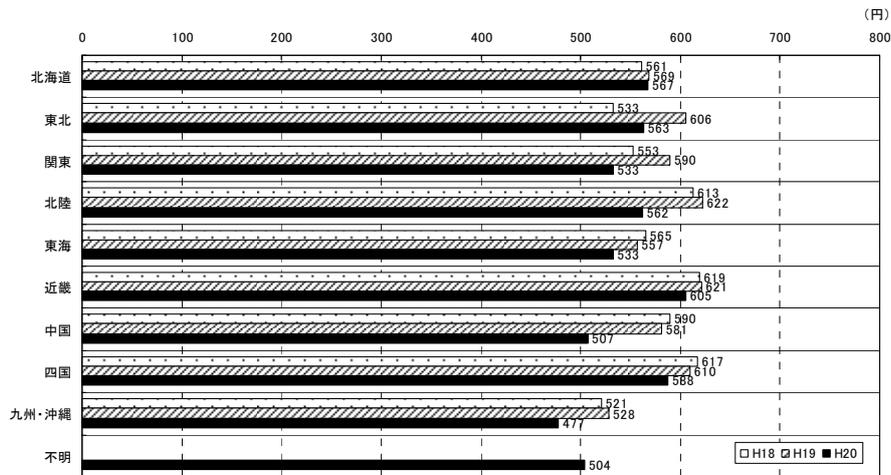


図 4-34 地域別・「国産乳用種」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 1. 3. 「国産交雑種」(部位別)

● 「国産交雑種」の売れ筋価格帯は、「切り落とし」が 277 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 726 円/100g と最も高くなった。

平均価格は、「切り落とし」、「かた」、「もも」、「ばら」、「かたローズ」、「リブローズ」、「サーロイン」、「ヒレ」の順で高くなってきている。

「切り落とし」は 251～300 円/100g が 41.6%と 4 割以上を占めており、次いで 201～250 円/100g、301～400 円/100g と続いており、300 円/100g 付近に分布している。

「ばら」、「もも」、「かた」は、いずれも 301～400 円/100g の価格帯が最も多くなっており、特に「かた」はこの価格帯が 44.7%と半数近くを占めることから、「国産交雑種」の「かた」は 301～400 円/100g の価格帯に値頃感が形成されている可能性がある。

「もも」と「かた」は 251～500 円/100g の価格帯にそれぞれ 84.3%、86.1%と大半が集中しているのに対し、「ばら」は 71.1%と、「もも」や「かた」ほどには、この価格帯に集中していない。その分、201～250 円/100g の価格帯に 9.5%、501～600 円/100g に 8.6%、601～700 円/100g に 4.5%と、売れ筋価格帯が、幅広く分散しているという特徴を持つ。

「かたローズ」は 401～500 円/100g の価格帯に 32.4%、501～600 円/100g の価格帯に 28.2%と分布しており、「かた」、「もも」、「ばら」よりもワンランク上の価格帯になっている。

「リブローズ」は 501～600 円/100g の価格帯に 23.7%、601～700 円/100g の価格帯に 21.9%と分布している。

「サーロイン」は 701～800 円/100g の価格帯に 23.3%、601～700 円/100g の価格帯に 22.4%と分布している。

「ヒレ」は 701～800 円/100g の価格帯に 20.6%、801～900 円/100g の価格帯に 16.7%と分布している。それ以外に、501～600 円/100g に 15.0%、601～700 円/100g に 15.6%、901～1,000 円/100g に 11.1%と、売れ筋価格帯が幅広く分散しているという特徴を持つ。

図 4-35 「国産交雑種」部位の売れ筋価格帯

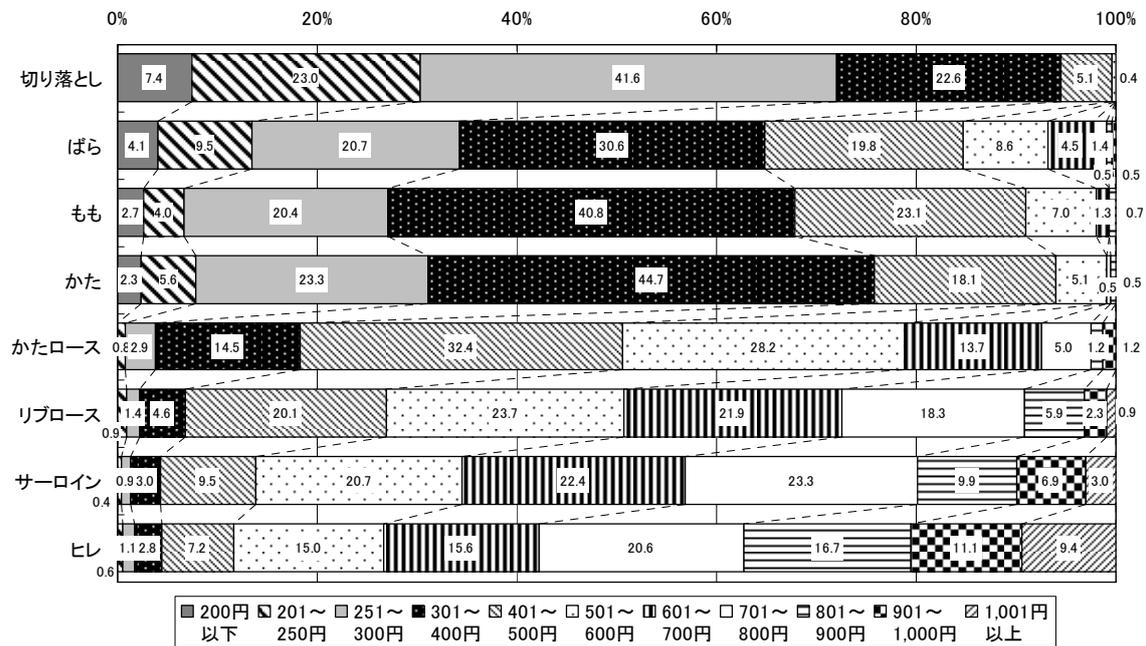


表 4-5 「国産交雑種」部位別の売れ筋価格帯

部位別	総数	200円以下	201~250円	251~300円	301~400円	401~500円	501~600円	601~700円	701~800円	801~900円	901~1,000円	1,001円以上	平均価格
切り落とし	257	7.4	23.0	41.6	22.6	5.1	0.4	-	-	-	-	-	277
ばら	222	4.1	9.5	20.7	30.6	19.8	8.6	4.5	1.4	0.5	0.5	-	373
もも	299	2.7	4.0	20.4	40.8	23.1	7.0	1.3	-	0.7	-	-	367
かた	215	2.3	5.6	23.3	44.7	18.1	5.1	-	0.5	0.5	-	-	352
かたローズ	241	-	0.8	2.9	14.5	32.4	28.2	13.7	5.0	1.2	1.2	-	510
リブローズ	219	-	0.9	1.4	4.6	20.1	23.7	21.9	18.3	5.9	2.3	0.9	604
サーロイン	232	-	0.4	0.9	3.0	9.5	20.7	22.4	23.3	9.9	6.9	3.0	671
ヒレ	180	-	0.6	1.1	2.8	7.2	15.0	15.6	20.6	16.7	11.1	9.4	726

【経年比較調査】

「国産交雑種」の部位別売れ筋価格は、「もも」を除き、平成 18 年から平成 19 年にかけては上昇したが、平成 20 年にはすべての部位について、平成 18 年よりも安い売れ筋価格に低下した。

表 4-6 「国産交雑種」部位別の売れ筋価格の経年比較

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
切り落とし	-	-	277	-	-	257
ばら	413	425	373	446	367	222
もも	402	400	367	481	436	299
かた	386	400	352	454	370	215
かたローズ	548	567	510	452	379	241
リブローズ	654	655	604	442	351	219
サーロイン	715	738	671	450	362	232
ヒレ	786	799	726	422	315	180

- 業態別の「国産交雑種」の売れ筋価格帯は、総じて「百貨店」が高めで、「総合スーパー」、「食品スーパー」が安めの売れ筋価格となっていた。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

「百貨店」は、他の業態と比較すると高めの売れ筋価格となっていた。逆に、「総合スーパー」、「食品スーパー」、「食肉専門店」は、他の業態と比較しても安めの売れ筋価格帯となっていた。「農協・生協ストア」は、他の業態と比較すると、部位によって高くなったり安くなったりしていたが、「リブロース」については、かなり高めの売れ筋価格になっていたことから、データに偏りがある可能性がある。

経年で比較すると、総じて売れ筋価格帯が平成 19 年から平成 20 年にかけて低下した。「百貨店」、「総合スーパー」、「食品スーパー」は、全ての部位の売れ筋価格が、「食肉専門店」については、「もも」以外の全ての部位の売れ筋価格が、前年よりも安くなった。「農協・生協ストア」は、「もも」、「かたロース」、「リブロース」、「サーロイン」が前年よりも売れ筋価格が高くなった。

図 4-36 業態別・「国産交雑種」・切り落としの売れ筋価格の平均

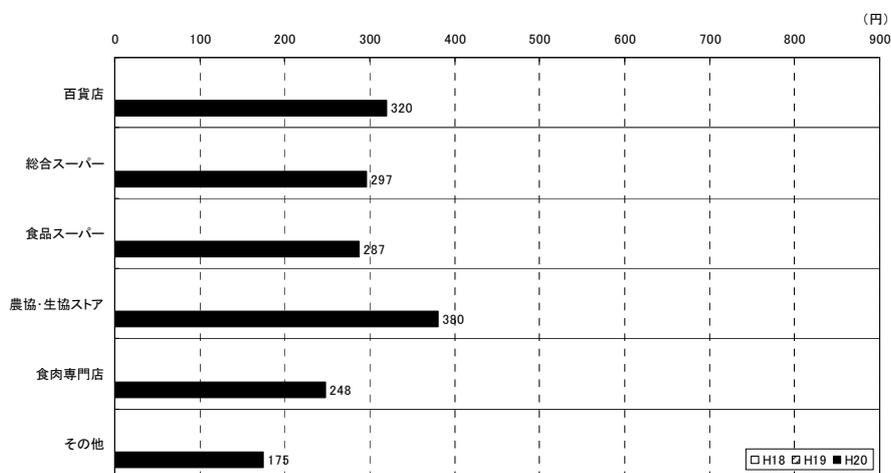


図 4-37 業態別・「国産交雑種」・ばらの売れ筋価格の平均

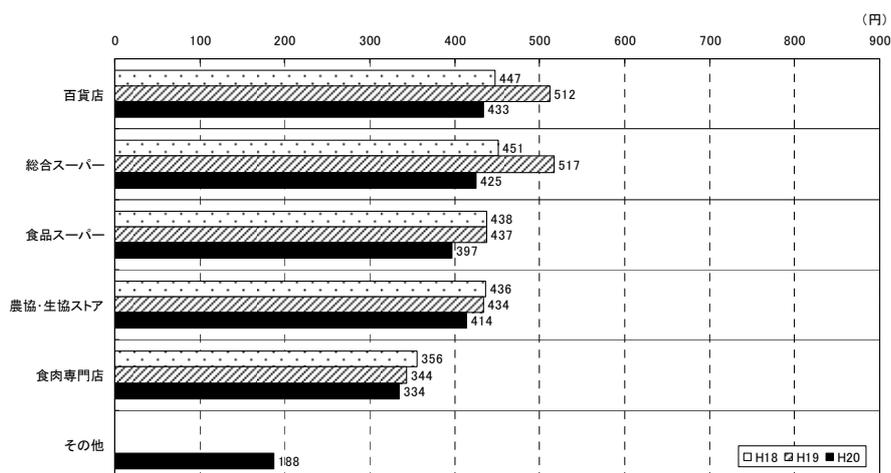


図 4-38 業態別・「国産交雑種」・ももの売れ筋価格の平均

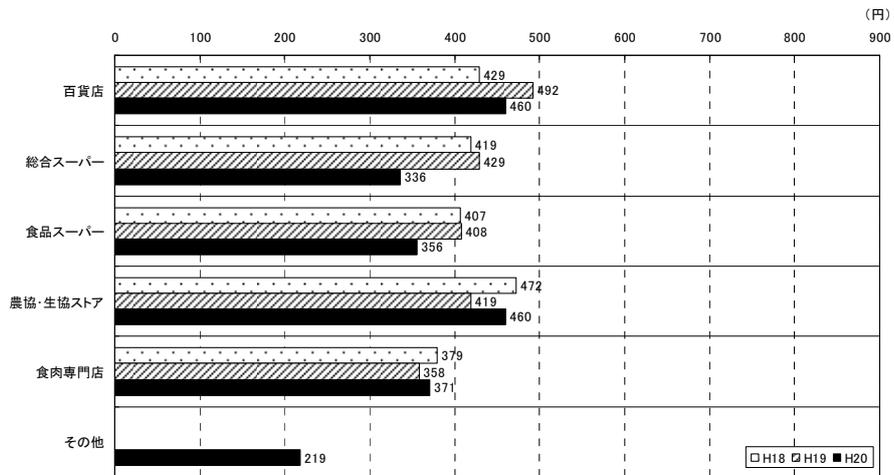


図 4-39 業態別・「国産交雑種」・かたの売れ筋価格の平均

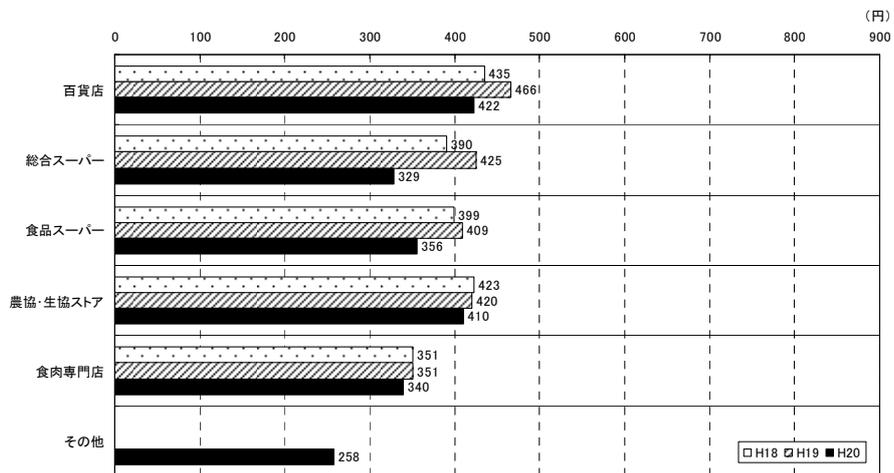


図 4-40 業態別・「国産交雑種」・かたロースの売れ筋価格の平均

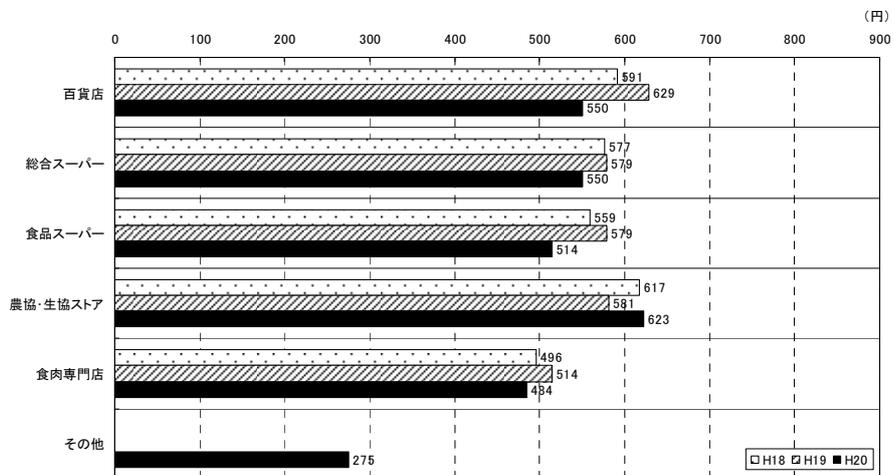


図 4-41 業態別・「国産交雑種」・リブローズの売れ筋価格の平均

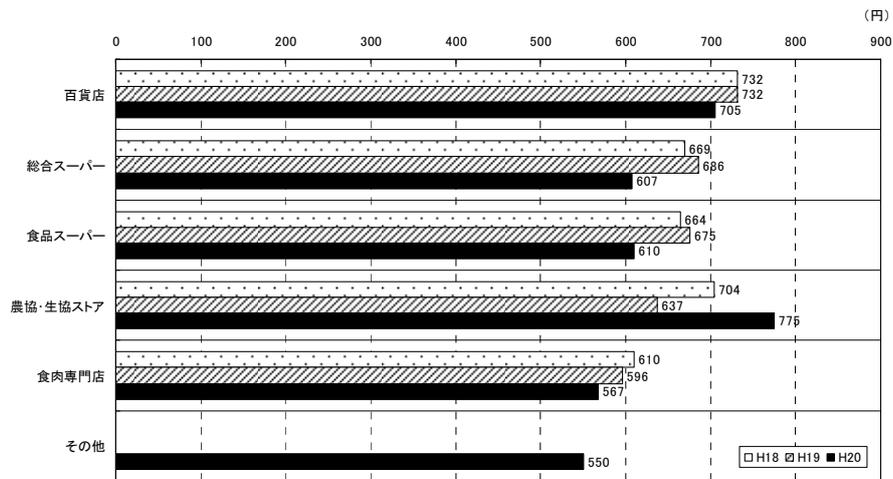


図 4-42 業態別・「国産交雑種」・サーロインの売れ筋価格の平均

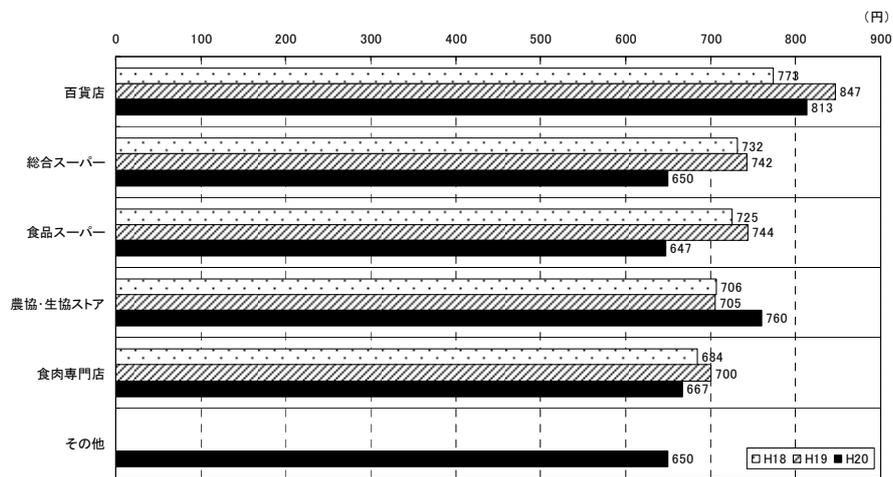
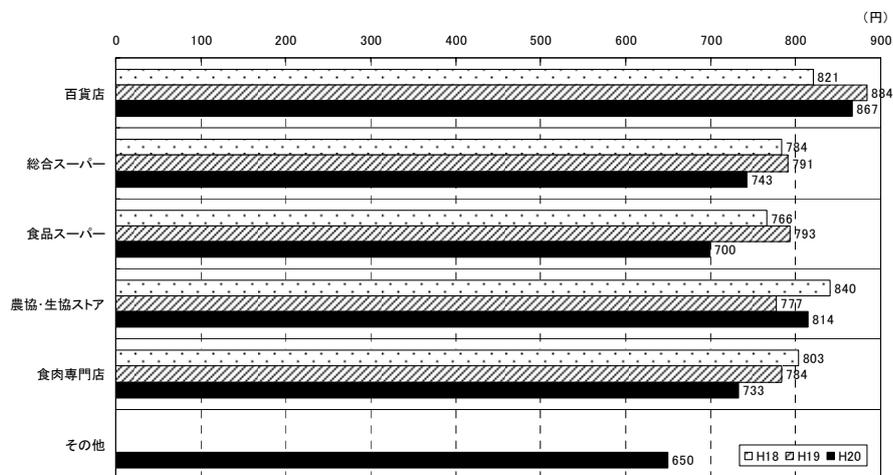


図 4-43 業態別・「国産交雑種」・ヒレの売れ筋価格の平均



- 地域別に「国産交雑種」について見てみると、「関東」、「東海」の売れ筋価格が高めで、「中国」、「九州・沖縄」の売れ筋価格帯が安めであった。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

「関東」、「東海」が他の地域と比較すると、総じて売れ筋価格が高くなっていた。一方、「中国」、「九州・沖縄」は、他の地域よりも売れ筋価格帯が安くなっていた。「近畿」は、他の地域の売れ筋価格と比較して、おおむね中間の価格帯に所属していたが、「ヒレ」だけは、最も高い 790 円/100g という売れ筋価格になっていた。

経年で見ると、総じて平成 18 年から平成 19 年にかけて売れ筋価格が高くなり、平成 20 年にかけては安くなっている。「北海道」は、「ばら」が突出して売れ筋価格帯が高くなっており、「もも」、「かた」、「かたローズ」、「ヒレ」の売れ筋価格帯が突出して安くなっていた。データに偏りが生じている可能性が考えられた。

図 4-44 地域別・「国産交雑種」・切り落としの売れ筋価格の平均

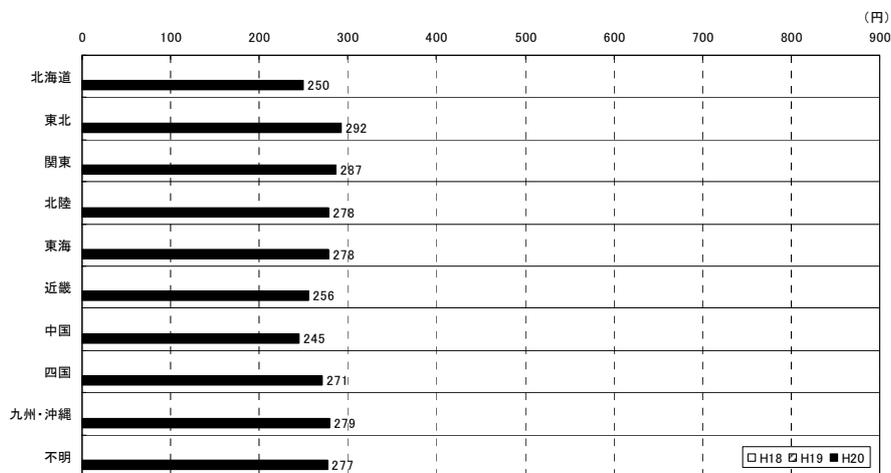


図 4-45 地域別・「国産交雑種」・ばらの売れ筋価格の平均

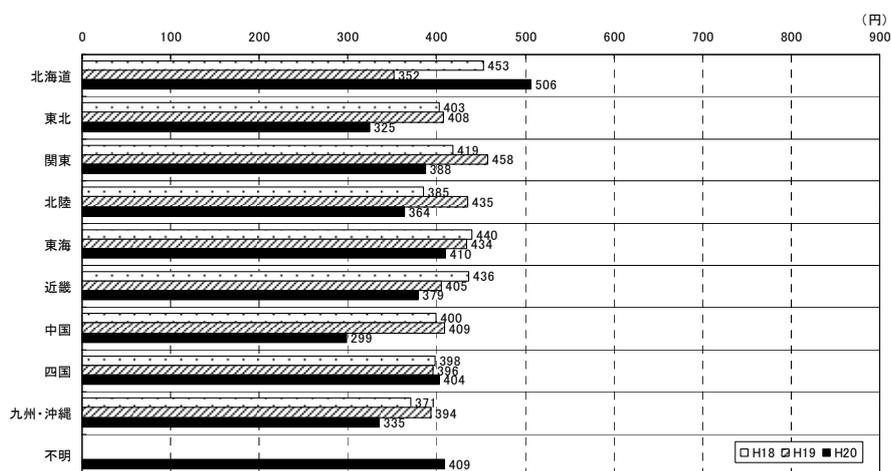


図 4-46 地域別・「国産交雑種」・ももの売れ筋価格の平均

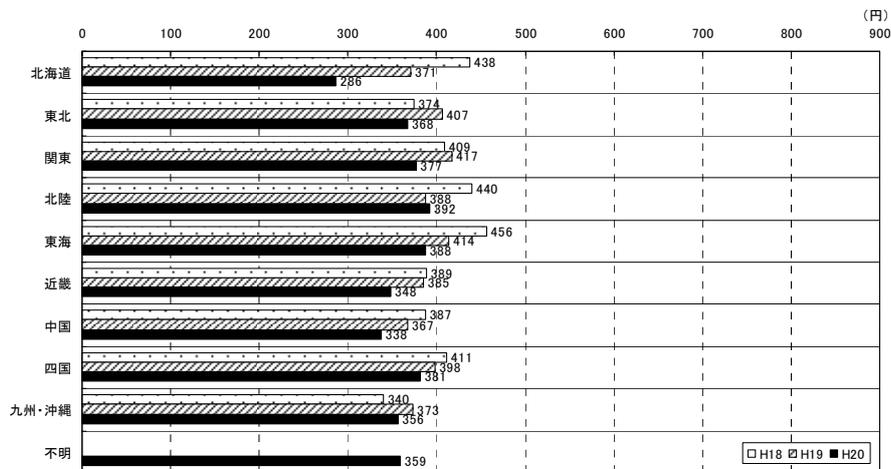


図 4-47 地域別・「国産交雑種」・かたの売れ筋価格の平均

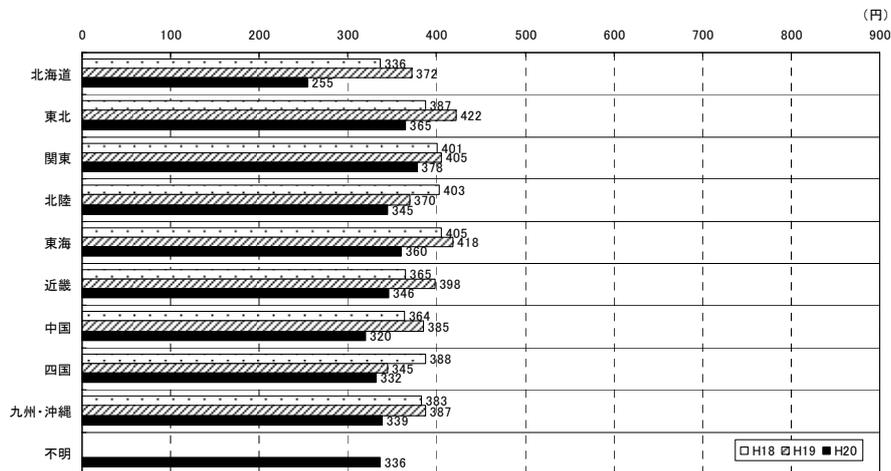


図 4-48 地域別・「国産交雑種」・かたローズの売れ筋価格の平均

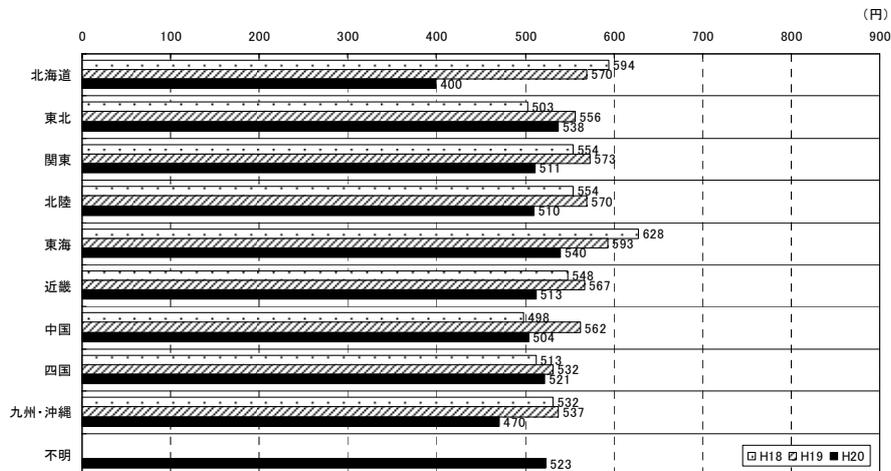


図 4-49 地域別・「国産交雑種」・リブローズの売れ筋価格の平均

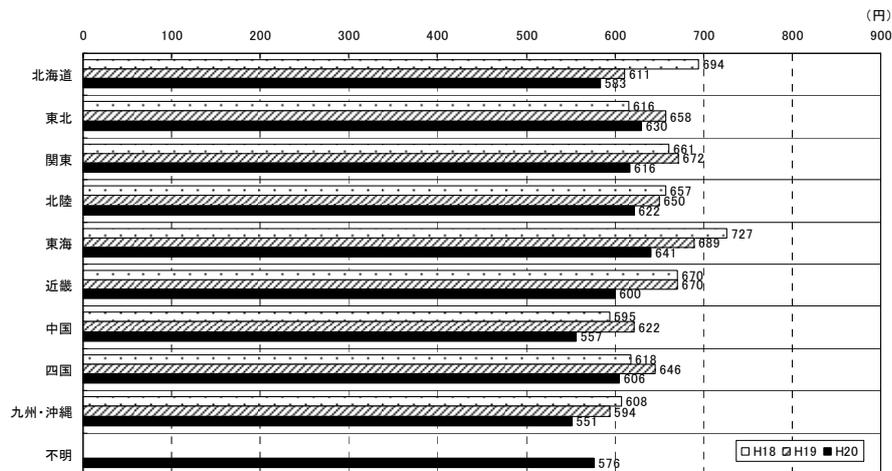


図 4-50 地域別・「国産交雑種」・サーロインの売れ筋価格の平均

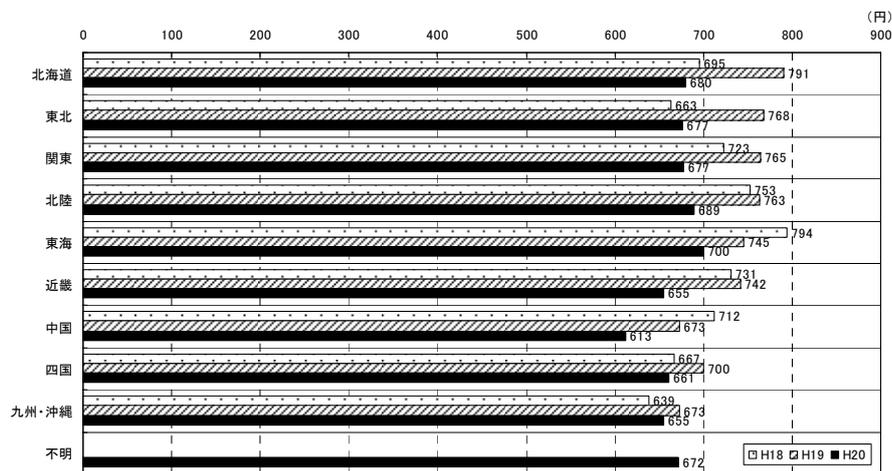
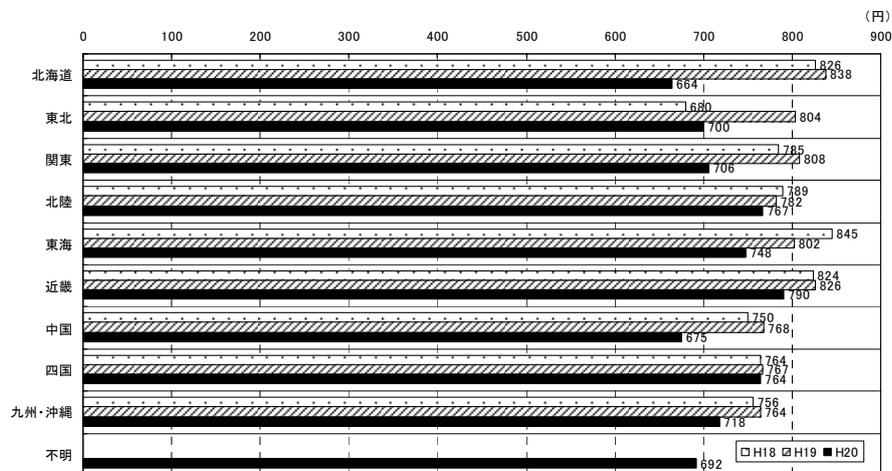


図 4-51 地域別・「国産交雑種」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 1. 4. 「輸入牛肉」(部位別)

● 「輸入牛肉」の売れ筋価格帯は、「切り落とし」が 144 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 348 円/100g と最も高くなった。また、「ばら」(191 円/100g)と「もも」(156 円/100g)・「かた」(157 円/100g)との売れ筋価格との間に比較的大きな差がある点も特徴的であった。

平均価格は、「切り落とし」、「もも」、「かた」、「ばら」、「かたロース」、「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」の順で高くなってきている。「和牛肉」、「国産乳用種」、「国産交雑種」では、「もも」、「かた」、「ばら」がほぼ同じような売れ筋価格帯となっていたが、「輸入牛肉」においては、「もも」・「かた」と「ばら」との間にある程度の売れ筋価格差がある点が特徴的であった。

「切り落とし」は 101～150 円/100g が 41.7%と 4 割以上を占めており、200 円/100g 以下は 88.0%となっている。売れ筋平均価格 144 円/100g は、牛肉の中で最も安い売れ筋価格帯となっている。

「ばら」は 101～150 円/100g および 151～200 円/100g が同率で 24.5%、次いで 251～300 円/100g が 15.9%となっている。他の種類同様、売れ筋価格帯が幅広く分散しているという特徴を持つ。また、他の種類においては、「ばら」は「もも」、「かた」とほぼ同じ売れ筋価格帯になっているのに対し、「輸入牛肉」においては「ばら」が 191 円/100g、「もも」が 156 円/100g、「かた」が 157 円/100g と、「もも」・「かた」の売れ筋価格に 35 円/100g 程度の差がある点も特徴的であった。

「かたロース」は 151～200 円/100g の価格帯に 35.8%、201～250 円/100g の価格帯に 23.6%と分布しており、「ばら」よりもワンランク上の価格帯になっている。

「リブロース」は 301～351 円/100g の価格帯に 22.0%、251～300 円/100g の価格帯に 20.3%と分布しているのに対し、「サーロイン」は 251～300 円/100g の価格帯に 28.8%、351～400 円/100g の価格帯に 21.2%と分布している。他の種類では、「リブロース」と「サーロイン」の売れ筋平均価格にある程度の差があったのに対し、「輸入牛肉」においては、それぞれ 305 円/100g、313 円/100g と大きな差がない点が特徴的である。

「ヒレ」は 351～400 円/100g の価格帯に 32.7%、401～500 円/100g の価格帯に 16.3%と分布している。

図 4-52 「輸入牛肉」部位の売れ筋価格帯

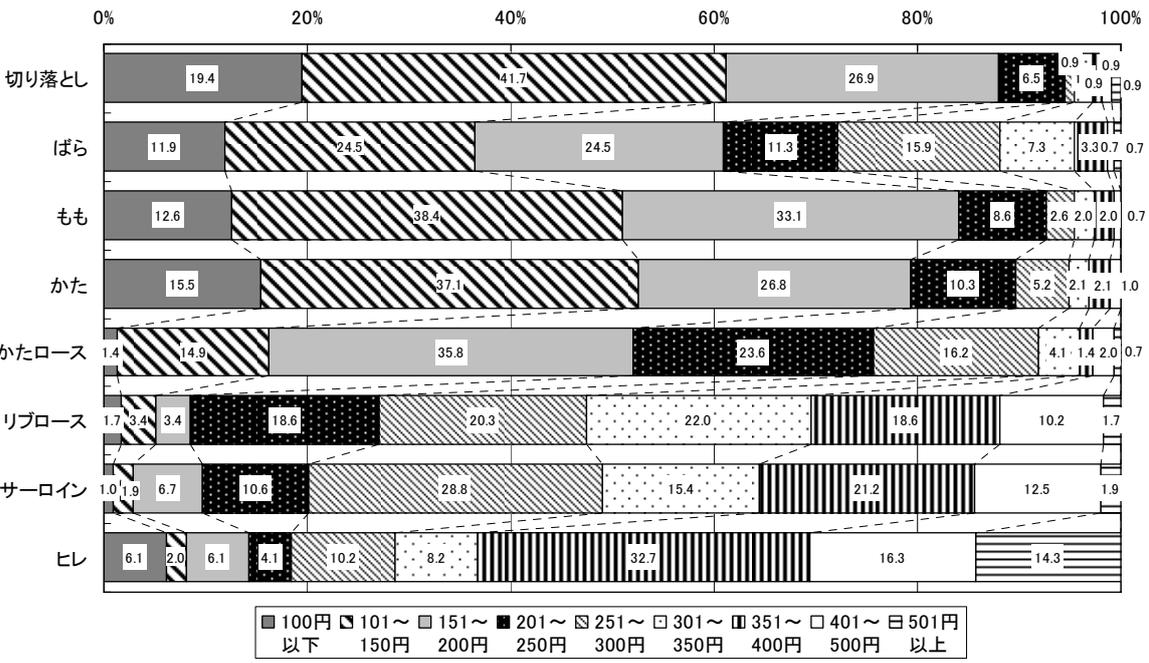


表 4-7 「輸入牛肉」部位別の売れ筋価格帯

単位：%、円/100g

部位別	総数	100円以下	101～150円	151～200円	201～250円	251～300円	301～350円	351～400円	401～500円	501円以上	平均価格
切り落とし	108	19.4	41.7	26.9	6.5	0.9	1.9	0.9	0.9	0.9	144
ばら	151	11.9	24.5	24.5	11.3	15.9	7.3	3.3	0.7	0.7	191
もも	151	12.6	38.4	33.1	8.6	2.6	2.0	2.0	0.7	-	156
かた	97	15.5	37.1	26.8	10.3	5.2	2.1	2.1	1.0	-	157
かたコース	148	1.4	14.9	35.8	23.6	16.2	4.1	1.4	2.0	0.7	210
リブコース	59	1.7	3.4	3.4	18.6	20.3	22.0	18.6	10.2	1.7	305
サーロイン	104	1.0	1.9	6.7	10.6	28.8	15.4	21.2	12.5	1.9	313
ヒレ	49	6.1	2.0	6.1	4.1	10.2	8.2	32.7	16.3	14.3	348

【経年比較調査】

「輸入牛肉」の売れ筋平均価格は、平成 18 年から平成 19 年にかけて、「もも」以外では上昇したものの、平成 20 年にかけては、全ての部位で低下しており、平成 18 年時の売れ筋価格よりも安くなった。

表 4-8 「輸入牛肉」部位別の売れ筋価格の経年比較

単位：円/100g、店舗数

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
切り落とし	-	-	144	-	-	108
ばら	209	222	191	232	264	151
もも	173	171	156	269	302	151
かた	172	176	157	174	202	97
かたコース	231	234	210	256	303	148
リブコース	311	325	305	128	142	59
サーロイン	328	339	313	233	258	104
ヒレ	382	401	348	107	131	49

- 業態別の「輸入牛肉」の売れ筋価格帯は、部位によってまちまちであったが、どちらかと言えば「総合スーパー」、「食品スーパー」、「食肉専門店」はほぼ同様の売れ筋価格帯となっていた。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

「百貨店」は、他の業態と比較すると高めの売れ筋価格となっていたが、「もも」、「リブコース」、「ヒレ」などの部位は、今回回答した販売店では一店も扱っておらず、平均値を算出できない部分もあった。「総合スーパー」、「食品スーパー」、「食肉専門店」は、部位によっても異なるが、それぞれがほぼ同様の売れ筋価格帯となっていた。「農協・生協ストア」は、他の業態と比較すると、比較的高めの売れ筋価格になっていた。

経年で比較すると、総じて売れ筋価格帯が平成 19 年から平成 20 年にかけて低下した。「食品スーパー」は全ての部位について、前年よりも売れ筋価格が安くなった。「総合スーパー」も、「ばら」が前年より微増した以外は、他の全ての部位において前年よりも安くなっている。「食肉専門店」については、「もも」と「かた」が、前年売れ筋価格よりも高くなった。総じて売れ筋価格が安くなる中、「農協・生協ストア」については、ほぼ全ての部位について前年よりも売れ筋価格が高くなっていた。

図 4-53 業態別・「輸入牛肉」・切り落としの売れ筋価格の平均

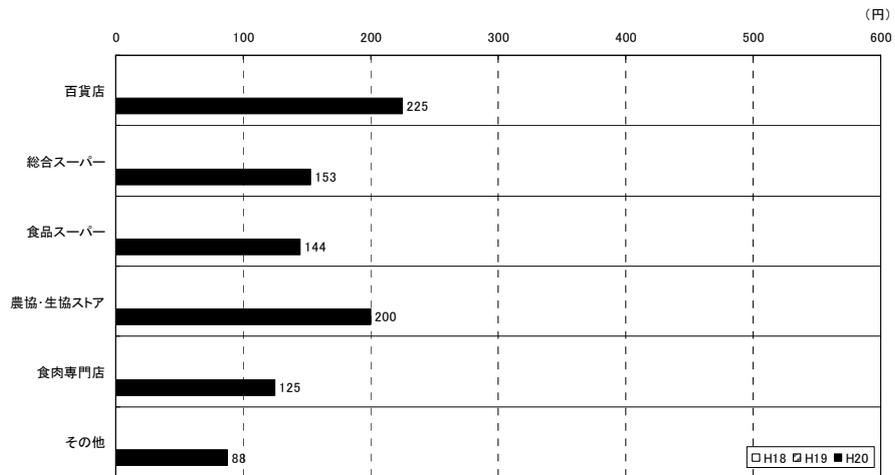


図 4-54 業態別・「輸入牛肉」・ばらの売れ筋価格の平均

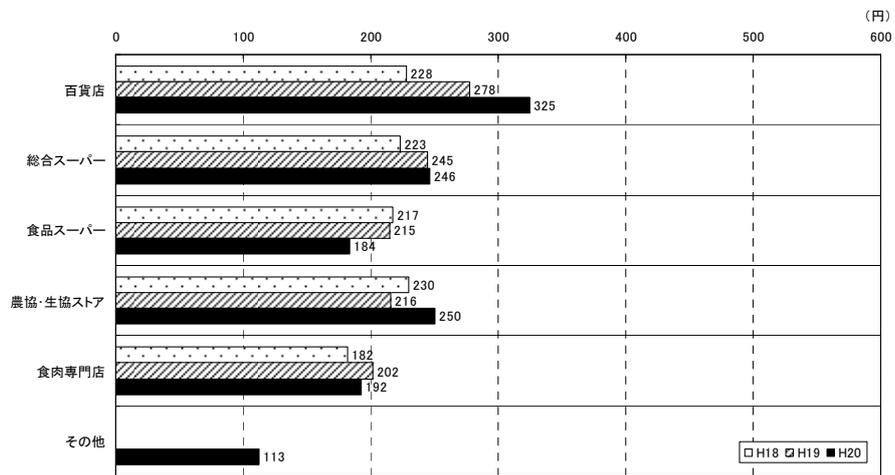


図 4-55 業態別・「輸入牛肉」・ももの売れ筋価格の平均

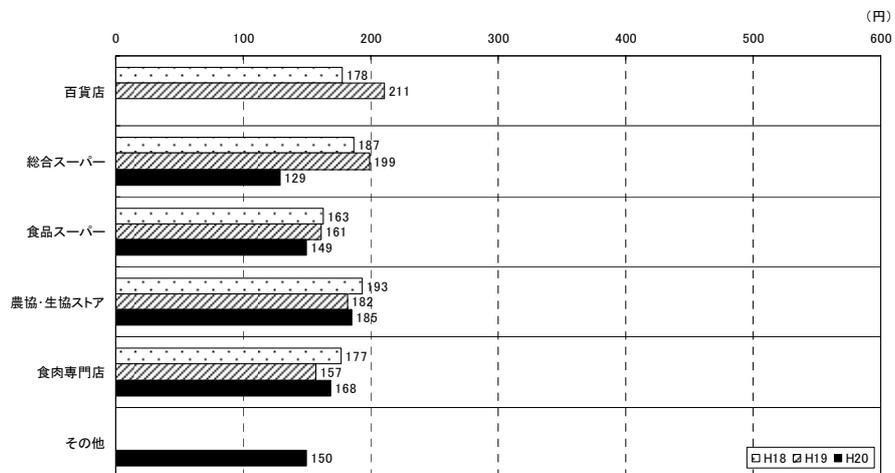


図 4-56 業態別・「輸入牛肉」・かたの売れ筋価格の平均

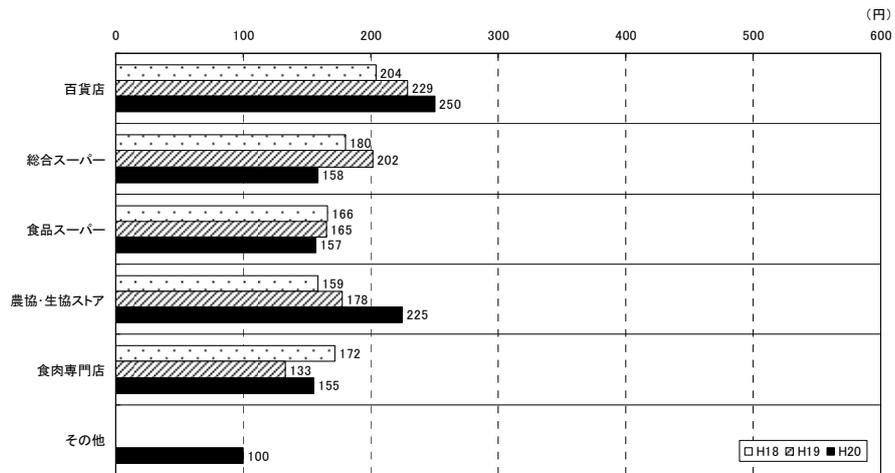


図 4-57 業態別・「輸入牛肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

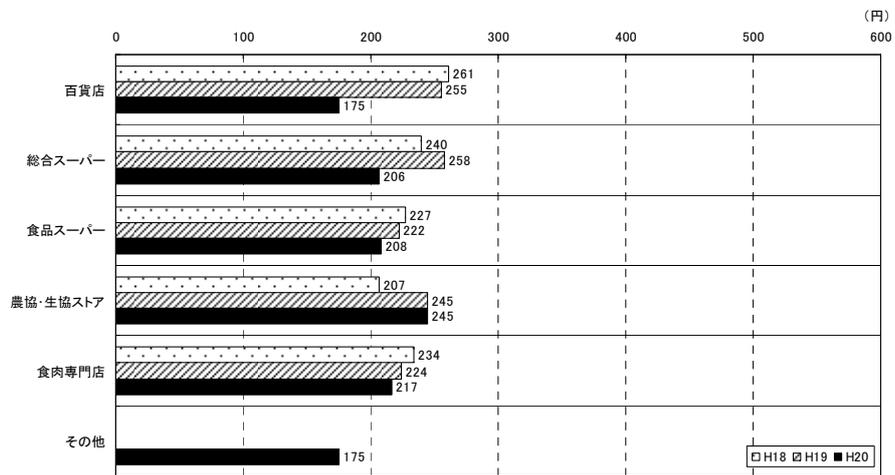


図 4-58 業態別・「輸入牛肉」・リブロースの売れ筋価格の平均

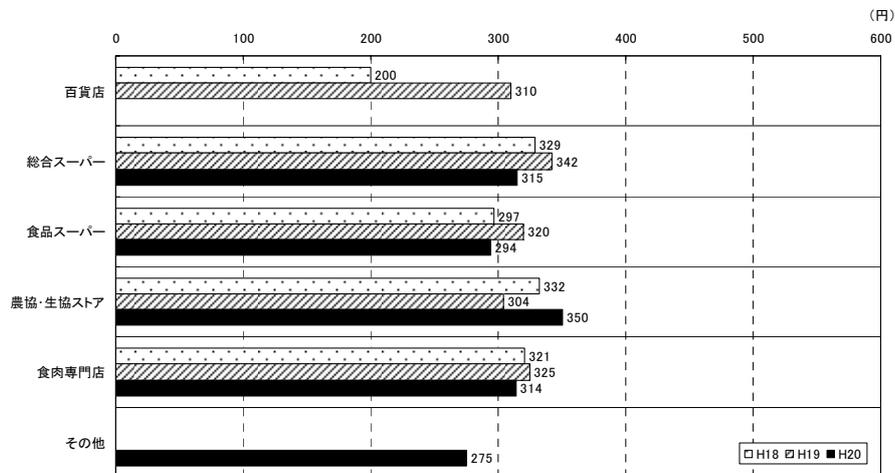


図 4-59 業態別・「輸入牛肉」・サーロインの売れ筋価格の平均

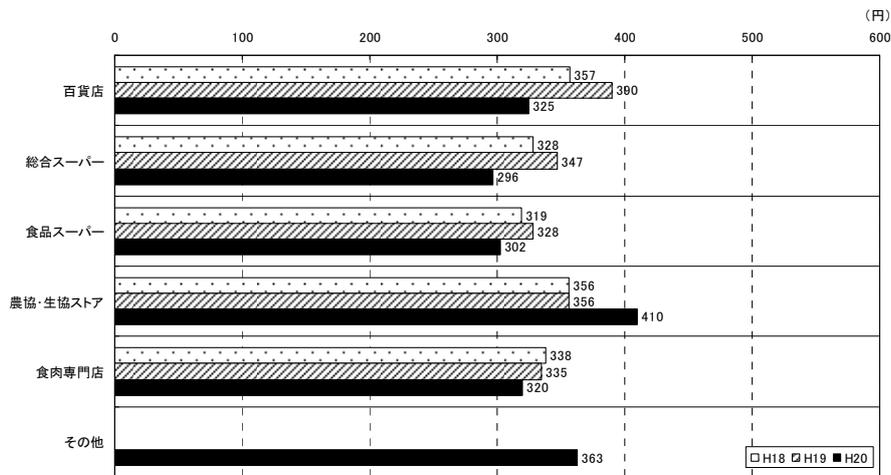
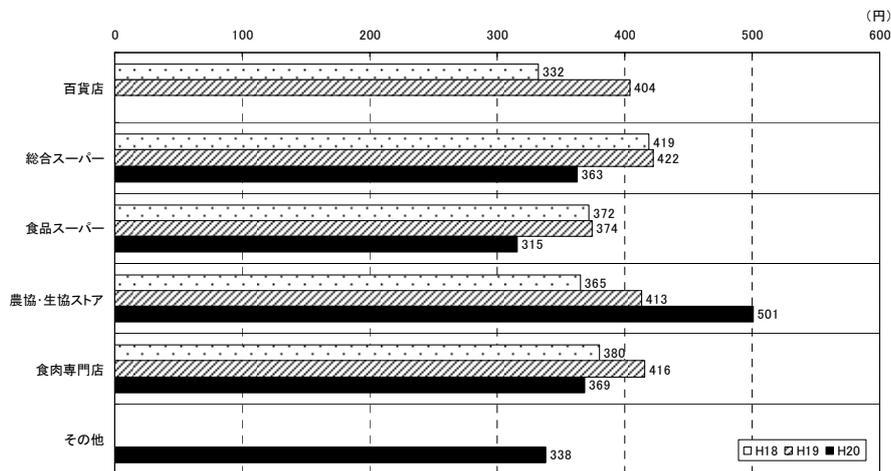


図 4-60 業態別・「輸入牛肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



● 地域別に「輸入牛肉」について見てみると、「関東」、「近畿」の首都圏で比較的売れ筋価格が高めで、「中国」、「九州・沖縄」の売れ筋価格帯が安めであった。前年と比較すると、売れ筋価格は総じて安くなった。

「関東」、「近畿」が他の地域と比較すると、総じて売れ筋価格が高くなっていた。一方、「中国」、「九州・沖縄」は、他の地域よりも売れ筋価格帯が安くなっていた。「北海道」、「四国」の売れ筋価格帯が、部位によっては、他の地域と大きく異なる数値となっていた。データに偏りが生じている可能性が考えられた。

経年で見ると、総じて平成 18 年から平成 19 年にかけて売れ筋価格が高くなり、平成 20 年にかけて安くなっている。

図 4-61 地域別・「輸入牛肉」・切り落としの売れ筋価格の平均

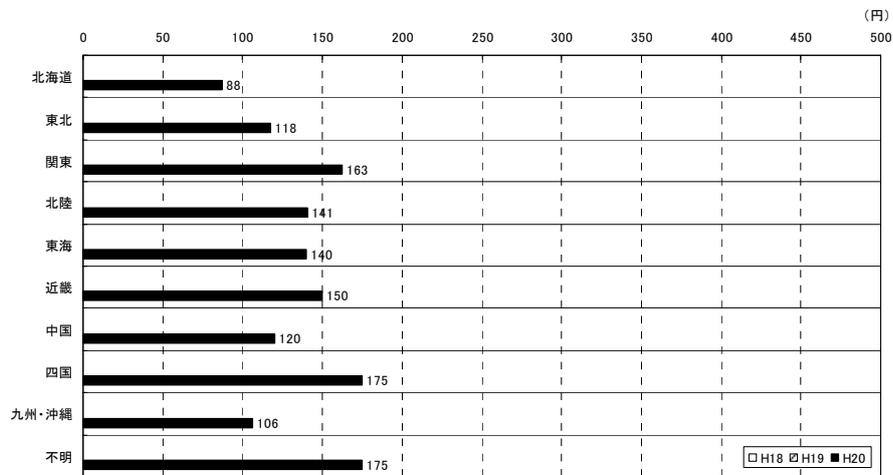


図 4-62 地域別・「輸入牛肉」・ばらの売れ筋価格の平均

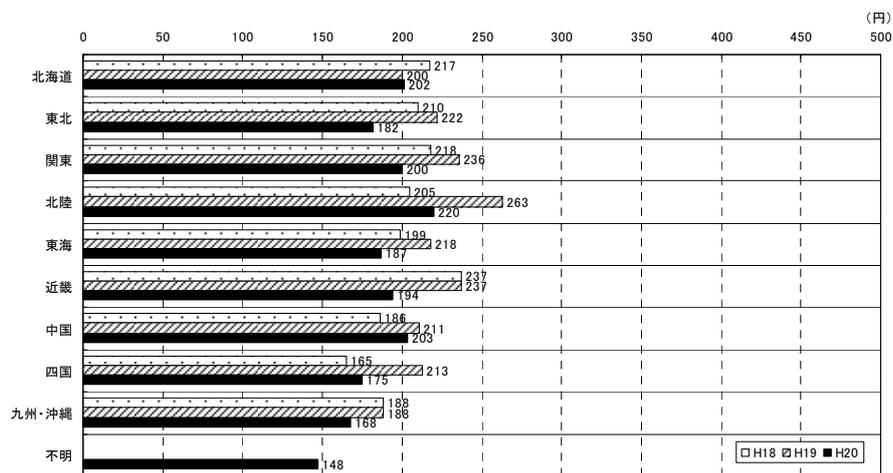


図 4-63 地域別・「輸入牛肉」・ももの売れ筋価格の平均

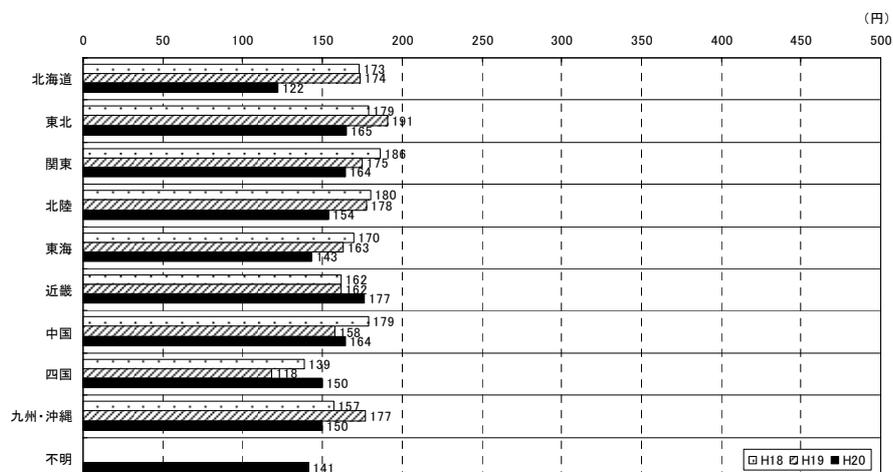


図 4-64 地域別・「輸入牛肉」・かたの売れ筋価格の平均

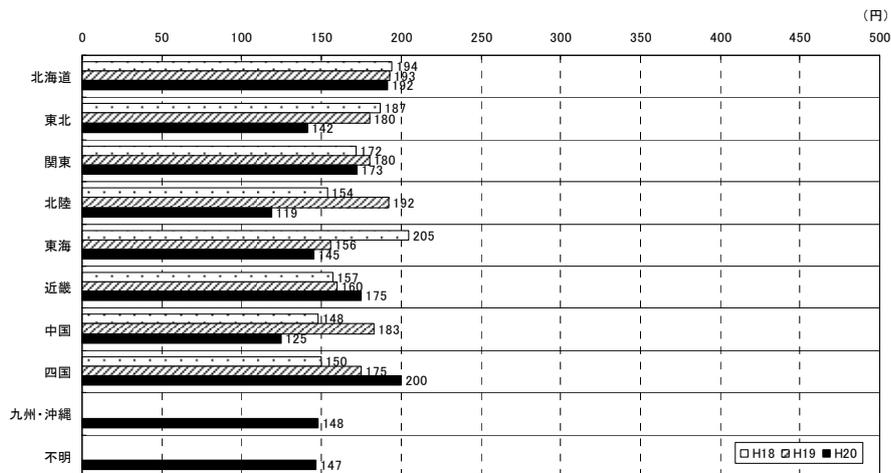


図 4-65 地域別・「輸入牛肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

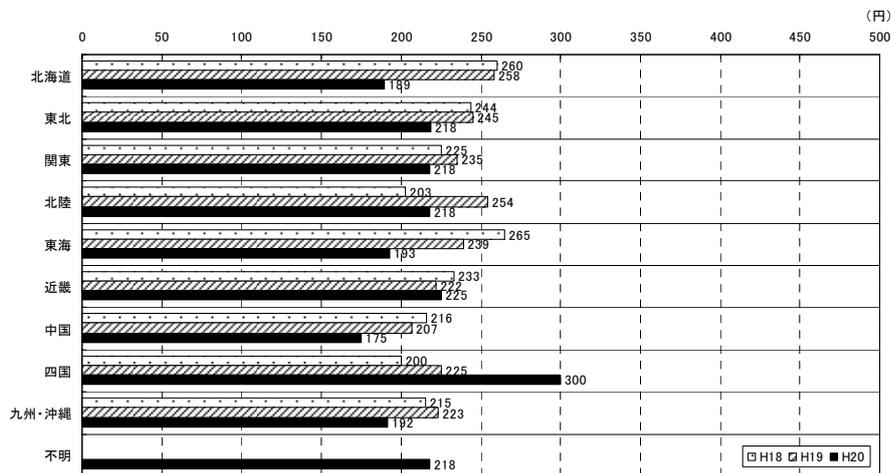


図 4-66 地域別・「輸入牛肉」・リブロースの売れ筋価格の平均

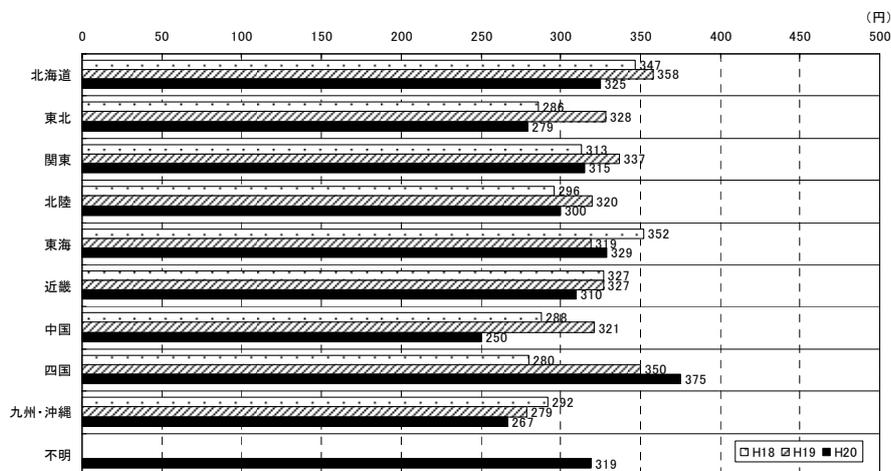


図 4-67 地域別・「輸入牛肉」・サーロインの売れ筋価格の平均

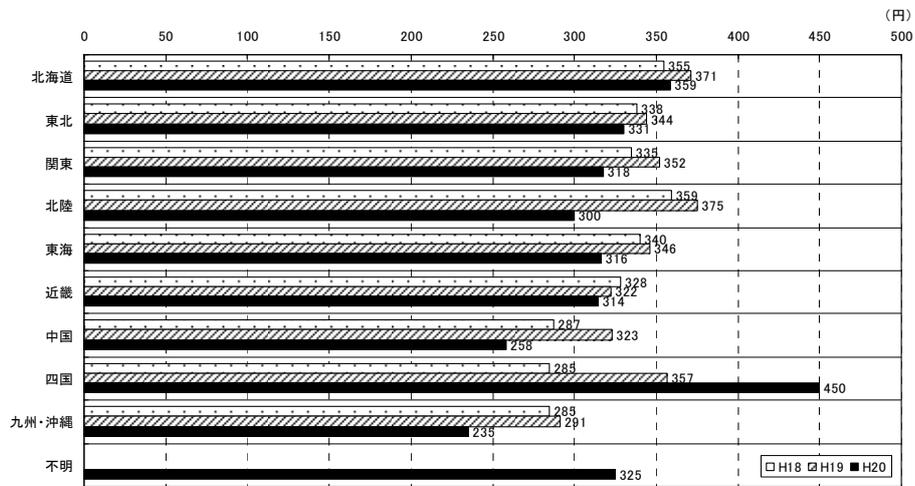
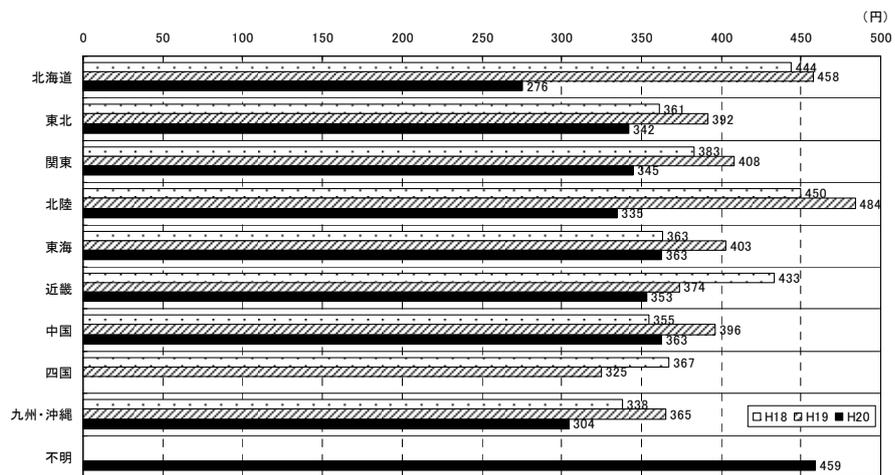


図 4-68 地域別・「輸入牛肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 2. 豚肉の売れ筋価格帯(100g 当たり)

1. 2. 1. 「国産豚肉」(部位別)

● 「国産豚肉」の売れ筋価格帯は、「かた」が 118 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 238 円/100g と最も高くなった。

平均価格は、「かた」、「もも」、「ばら」、「かたロース」、「ロース」、「ヒレ」の順で高くなっていている。

「かた」は 101～150 円/100g が 60.9%、100 円/100g 以下が 23.3%となった。牛肉では、「輸入牛肉」以外は「かた」、「もも」、「ばら」の売れ筋平均価格帯がほぼ同じような価格であったが、「国産豚肉」については、「かた」(118 円/100g)と「もも」(142 円/100g)・「ばら」(158 円/100g)との間に隔りがある。

「もも」は 101～150 円/100g が 49.7%、151～200 円/100g が 36.6%と、86.3%がこの価格帯に集中している。

「ばら」は 151～200 円/100g が 50.5%、101～150 円/100g が 40.7%と、101～200 円/100g の価格帯が 91.2%を占め、この価格帯が固定化している可能性がある。

「かたロース」は「ばら」よりもワンランク上の価格帯になっており、151～200 円/100g の価格帯に 59.0%と半数以上が集中して分布している。

「ロース」も、「かたロース」よりワンランク上の価格帯になっており、201～250 円/100g が 47.0%と、売れ筋価格帯がシフトしている。

「ヒレ」はさらにワンランク上がり、251～300 円/100g が 34.2%、201～250 円/100g が 30.1%となった。

図 4-69 「国産豚肉」部位の売れ筋価格帯

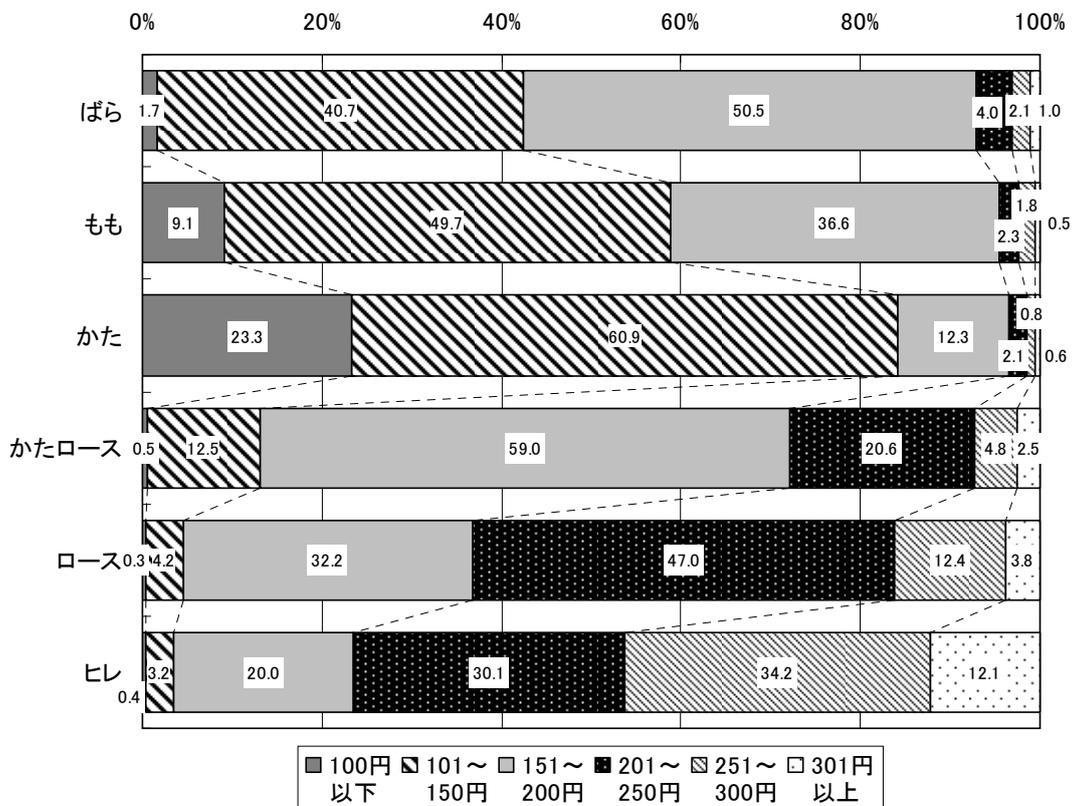


表 4-9 「国産豚肉」部位別の売れ筋価格帯

単位：％、円/100g

部位別	総数	100円以下	101～150円	151～200円	201～250円	251～300円	301円以上	平均価格
ばら	582	1.7	40.7	50.5	4.0	2.1	1.0	158
もも	563	9.1	49.7	36.6	2.3	1.8	0.5	142
かた	486	23.3	60.9	12.3	2.1	0.8	0.6	118
かたロース	559	0.5	12.5	59.0	20.6	4.8	2.5	186
ロース	574	0.3	4.2	32.2	47.0	12.4	3.8	213
ヒレ	535	0.4	3.2	20.0	30.1	34.2	12.1	238

【経年比較調査】

「国産豚肉」は平成 18 年から平成 19 年にかけて、「もも」以外の全ての部位が微増した。平成 20 年にかけては、「ばら」、「もも」、「かた」といった安い部位が微増し、「かたロース」、「ロース」、「ヒレ」といった高級部位が微減した。

表 4-10 「国産豚肉」部位別の売れ筋価格の経年比較

単位：円/100g、店舗数

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
ばら	149	154	158	683	823	582
もも	142	141	142	673	818	563
かた	113	115	118	605	715	486
かたロース	183	187	186	663	798	559
ロース	212	216	213	683	821	574
ヒレ	244	245	238	656	775	535

- 業態別の「国産豚肉」の売れ筋価格帯は、どの部位でも「百貨店」が高めの売れ筋価格帯となっており、「食品スーパー」が総じて安めの売れ筋価格であった。前年と比較すると安い部位の売れ筋価格は上がり、高級部位の売れ筋価格は下がった。

「百貨店」は、全ての部位について他の業態よりも高めの売れ筋価格となっていた。「総合スーパー」は、「もも」や「かた」のような安い部位は、他の業態よりも安めの売れ筋価格となっていたが、高級部位については、中間的な売れ筋価格帯となっていた。「食品スーパー」は、「ばら」以外の全て部位で、他の業態よりも安めの売れ筋価格帯となった。「農協・生協ストア」は、部位にもよるが、「百貨店」に続いて高めの売れ筋価格帯になっていた。「食肉専門店」は、「ばら」は他の業態と比較して最も安い売れ筋価格帯であったが、総じて他の業態の中間に位置する売れ筋価格帯になっていた。

経年で比較すると、総じて安い部位の売れ筋価格が上がり、高級部位の売れ筋価格が下がった。「百貨店」については、全ての部位で前年よりも売れ筋価格が上がっている。「総合スーパー」は「かた」と「ヒレ」が微減した以外は、全ての部位の売れ筋価格が前年よりも上がった。「食品スーパー」は「ロース」や「ヒレ」のような高級部位の売れ筋価格が下がり、他の部位の売れ筋価格はほぼ前年並みであった。「農協・生協ストア」は「かたロース」以外の全ての部位の売れ筋価格が前年よりも上がった。「食肉専門店」は「ばら」と「かた」のような安い部位の売れ筋価格が上がったが、他の部位はほぼ前年並みの売れ筋価格であった。

図 4-70 業態別・「国産豚肉」・ばらの売れ筋価格の平均

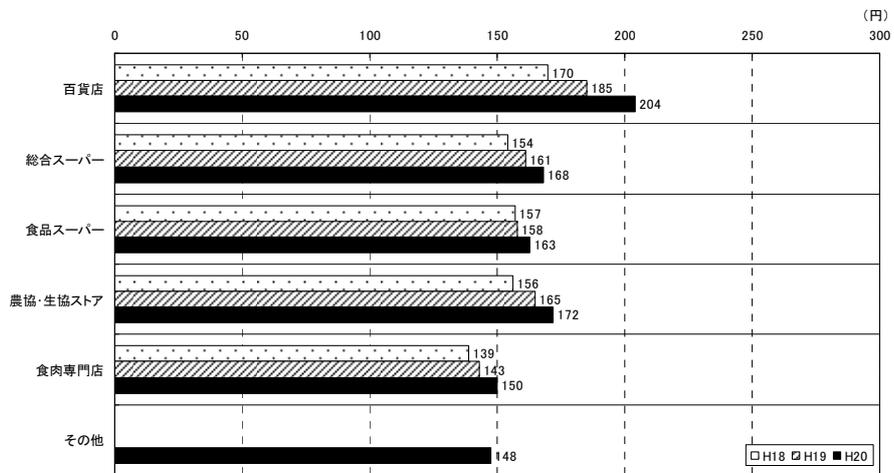


図 4-71 業態別・「国産豚肉」・ももの売れ筋価格の平均

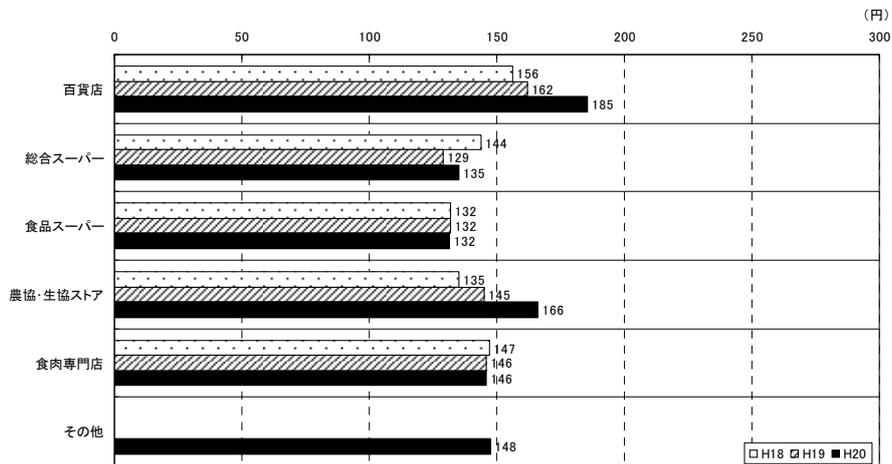


図 4-72 業態別・「国産豚肉」・かたの売れ筋価格の平均

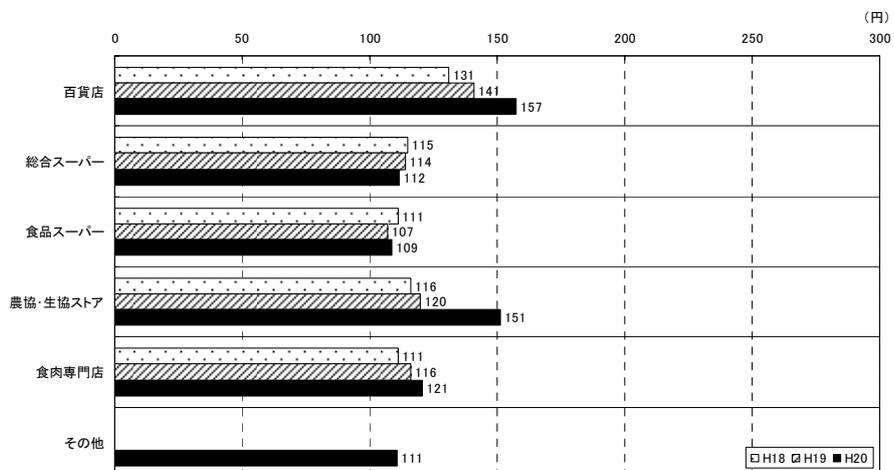


図 4-73 業態別・「国産豚肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

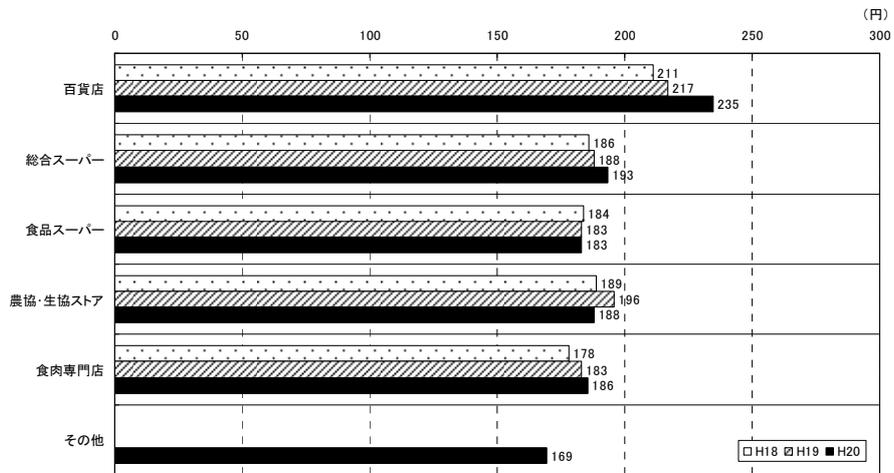


図 4-74 業態別・「国産豚肉」・ロースの売れ筋価格の平均

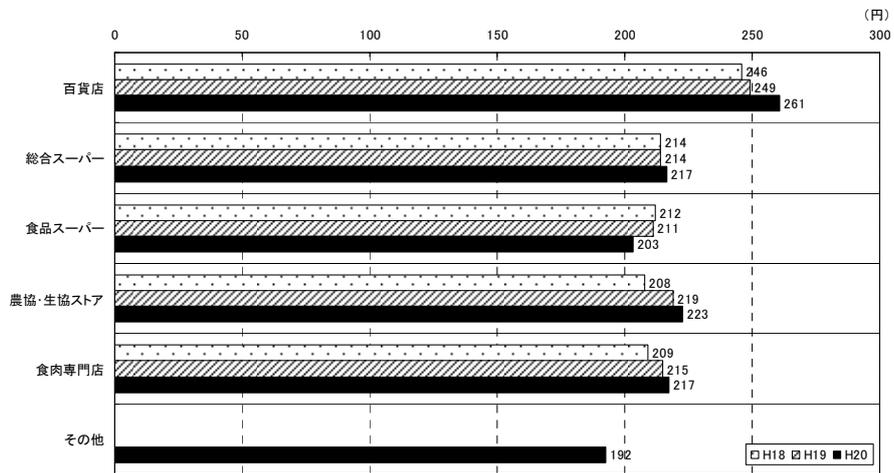
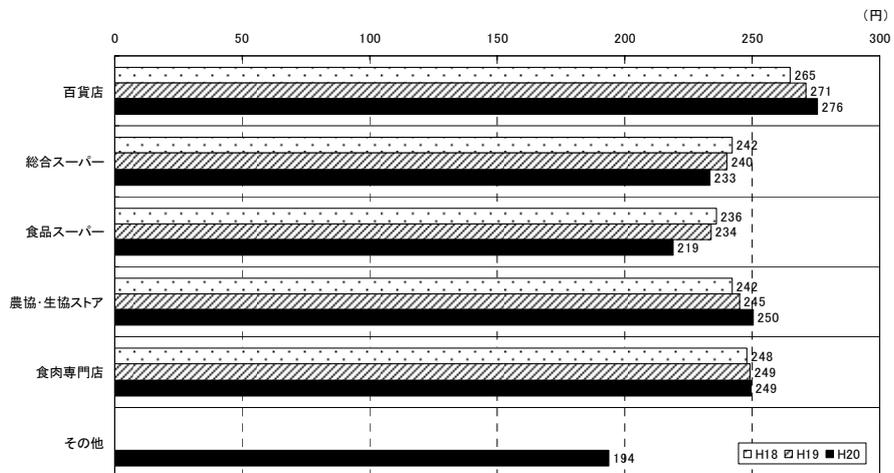


図 4-75 業態別・「国産豚肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



- 地域別に「国産豚肉」について見てみると、「近畿」の売れ筋価格が高めで、「北海道」の売れ筋価格帯が安めという西高東低の傾向が見られた。前年と比較すると、売れ筋価格は「東海」以西で総じて上がっており、「北陸」以東では高級部位が総じて下がった。

「近畿」は「かた」以外の全ての部位が、他の地域よりも売れ筋価格が高かった。「東海」も、他の地域と比較すると、やや高めの売れ筋価格となった。一方、「北海道」は全ての部位において、他の地域よりも売れ筋価格が安かった。「東北」も、他の地域と比較すると、やや安めの売れ筋価格となった。

経年で見ると、「東海」以西で総じて売れ筋価格が上昇したが、「ヒレ」については、「九州・沖縄」を除く全ての地域で売れ筋価格が前年よりも下がっている点が特徴的である。「北陸」以東は、安い部位は前年よりも売れ筋価格が上がっている地域もあるが、高級部位は総じて下がっている。

図 4-76 地域別・「国産豚肉」・ばらの売れ筋価格の平均

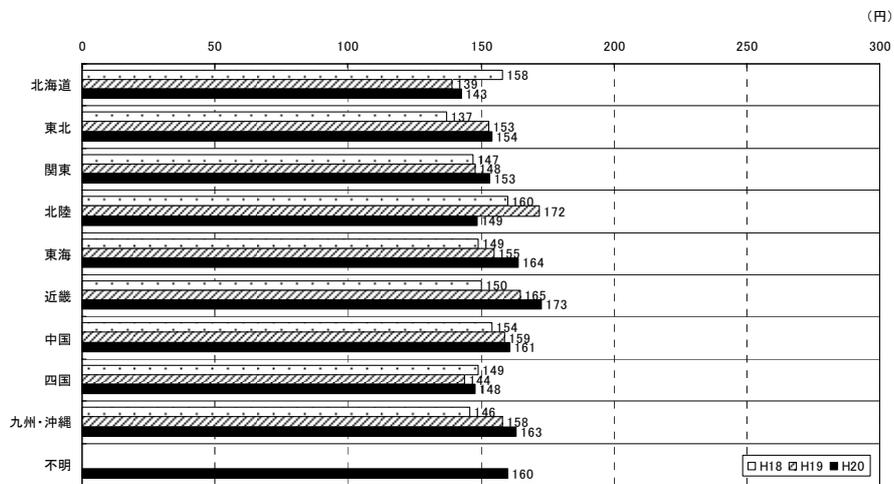


図 4-77 地域別・「国産豚肉」・ももの売れ筋価格の平均

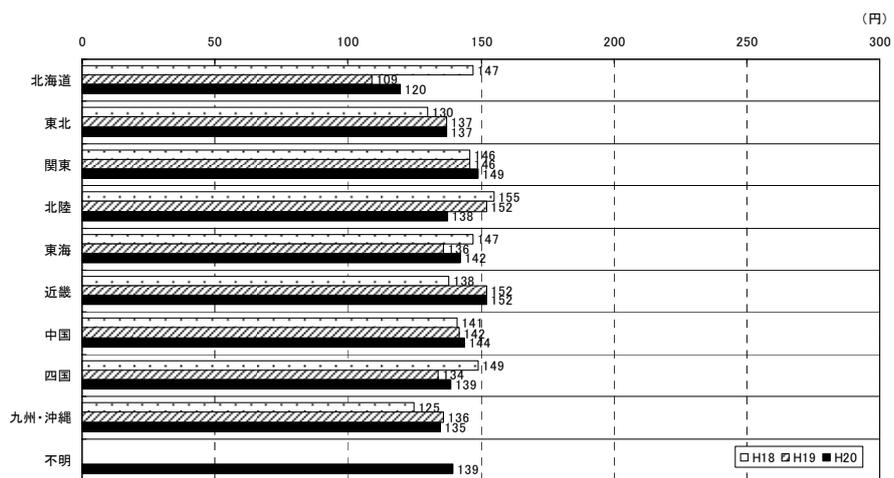


図 4-78 地域別・「国産豚肉」・かたの売れ筋価格の平均

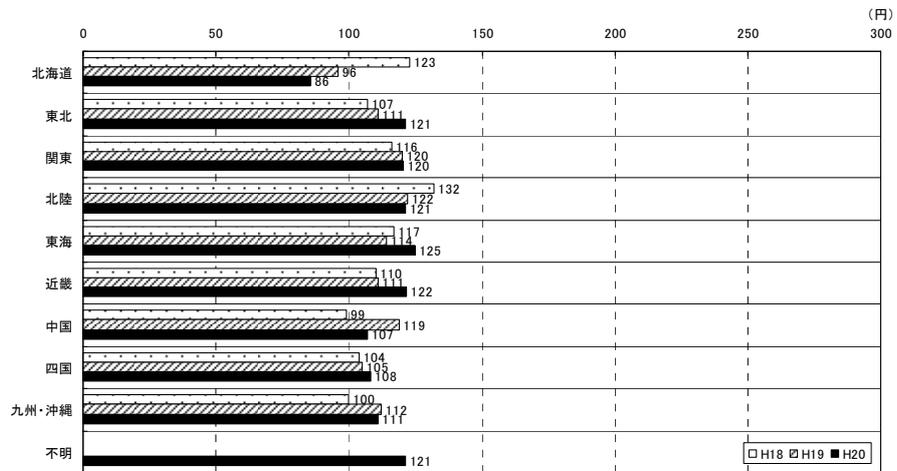


図 4-79 地域別・「国産豚肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

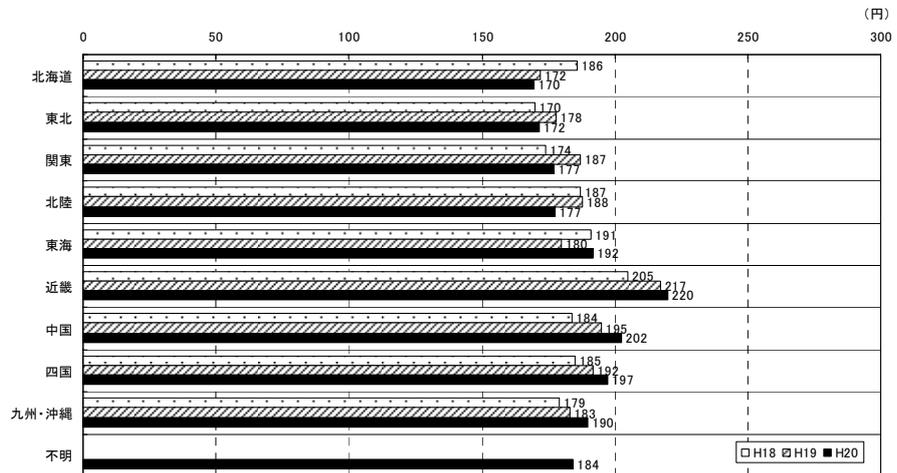


図 4-80 地域別・「国産豚肉」・ロースの売れ筋価格の平均

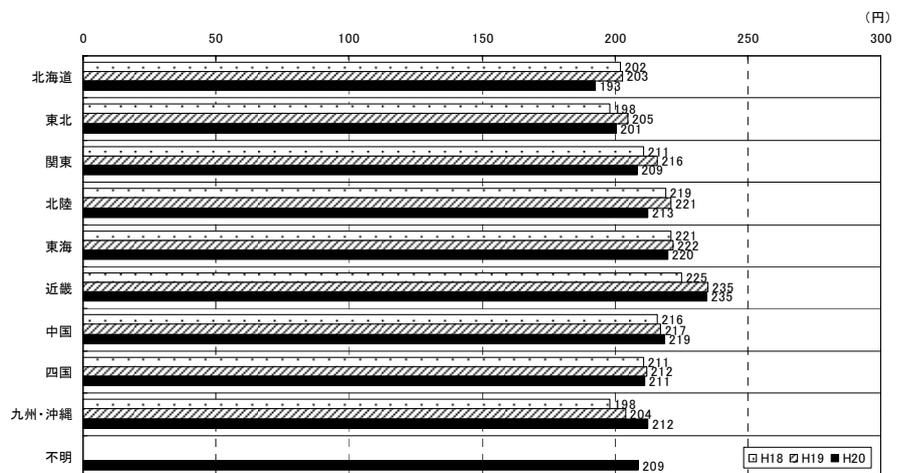
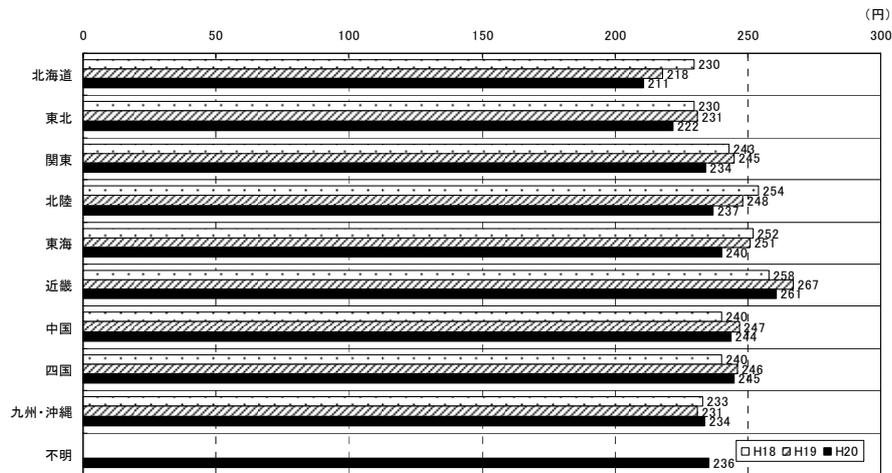


図 4-81 地域別・「国産豚肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 2. 2. 「輸入豚肉」(部位別)

● 「輸入豚肉」の売れ筋価格帯は、「かた」が 89 円/100g と最も安く、「ヒレ」が 133 円/100g と最も高くなった。平均価格は、「かた」、「もも」、「ばら」、「かたロース」、「ロース」、「ヒレ」の順で高くなっており、「国産豚肉」と同じ順となった。

「かた」は 51～100 円/100g が 78.2% と 8 割近くを占め、「輸入豚肉」の「かた」は、ほぼこの価格帯で値頃感が形成されているものと考えられる。

「もも」も 51～100 円/100g が 63.5% と半数以上を占めており、101～150 円/100g が 30.8% と、実に 94.3% もがこの価格帯に集中している。「国産豚肉」では、「もも」と「ばら」の価格帯がほぼ同様であったが、「輸入豚肉」については、それぞれ 97 円/100g、107 円/100g と売れ筋価格に差が生じている。

「ばら」は 101～150 円/100g が 48.2% と、「もも」よりも高めの価格帯にシフトしている。

「かたロース」も、「ばら」同様、101～150 円/100g の価格帯が 50.0% と最も多くなっている。次いで 51～100 円/100g が 38.5% となった。

「ロース」も、「ばら」や「かたロース」同様、101～150 円/100g の価格帯が 53.1% と最も多く、次いで 51～100 円/100g が 33.0% となった。

「国産豚肉」では、「ばら」、「かたロース」、「ロース」との間にそれなりの価格差があったが、「輸入豚肉」においては、それぞれ 107 円/100g、112 円/100g、116 円/100g と、等間隔ではあるものの、4～5 円/100g の違いもなく、売れ筋価格の差がそれほど開いていない。

「ヒレ」の最多売れ筋価格帯も 101～150 円/100g が 44.3% と同様であるが、151～200 円/100g が 27.5% と続いている点で、ワンランク上になっている。

図 4-82 「輸入豚肉」部位の売れ筋価格帯

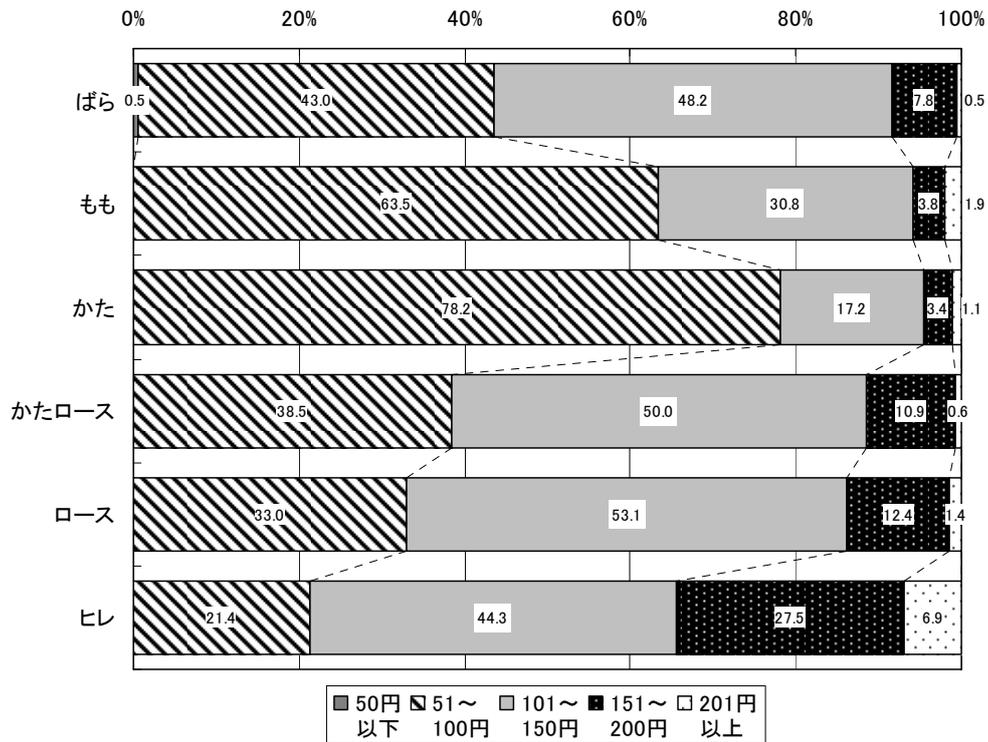


表 4-11 「輸入豚肉」部位別の売れ筋価格帯

単位: %、円/100g

部位別	総数	50円以下	51~100円	101~150円	151~200円	201円以上	平均価格
ばら	193	0.5	43.0	48.2	7.8	0.5	107
もも	52	-	63.5	30.8	3.8	1.9	97
かた	87	-	78.2	17.2	3.4	1.1	89
かたロース	156	-	38.5	50.0	10.9	0.6	112
ロース	209	-	33.0	53.1	12.4	1.4	116
ヒレ	131	-	21.4	44.3	27.5	6.9	133

【経年比較調査】

「輸入豚肉」の売れ筋価格を経年で見ると、平成 19 年から平成 20 年にかけては、「もも」、「かた」といった安い部位が上がり、「かたロース」、「ロース」、「ヒレ」等の高級部位が下がった。

表 4-12 「輸入豚肉」部位別の売れ筋価格の経年比較

単位: 円/100g、店舗数

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
ばら	108	110	107	235	300	193
もも	105	95	97	69	80	52
かた	86	87	89	90	119	87
かたロース	114	119	112	230	267	156
ロース	127	126	116	322	364	209
ヒレ	141	138	133	190	230	131

- 業態別の「輸入豚肉」の売れ筋価格帯は、総じて「総合スーパー」が安めの売れ筋価格帯となっていた。前年と比較すると、総じて「総合スーパー」と「食品スーパー」の売れ筋価格は下がり、「農協・生協ストア」、「食肉専門店」の売れ筋価格は上がった。

「百貨店」は、総じて他の業態よりも高めの売れ筋価格であったが、今回回答を得た販売店については、どの店舗でも扱っていない部位がいくつか存在した。「総合スーパー」は、「ばら」以外の部位では、他の業態よりも安めの売れ筋価格となっていた。「食品スーパー」は、全般的に「総合スーパー」に次ぐ安めの売れ筋価格であった。「農協・生協ストア」は、総じて「百貨店」に次ぐ、高めの売れ筋価格であった。「食肉専門店」は、「ばら」は安めの売れ筋価格であったが、他の部位は他の業態の中間的な位置の売れ筋価格となっていた。

経年で比較すると、「総合スーパー」は「ばら」以外の部位の売れ筋価格は前年よりも下がった。「食品スーパー」も、「もも」と「かた」が前年並みで、他の部位の売れ筋価格は前年よりも下がっている。一方、「農協・生協ストア」および「食肉専門店」では、全ての部位について前年より売れ筋価格が上がった。

図 4-83 業態別・「輸入豚肉」・ばらの売れ筋価格の平均

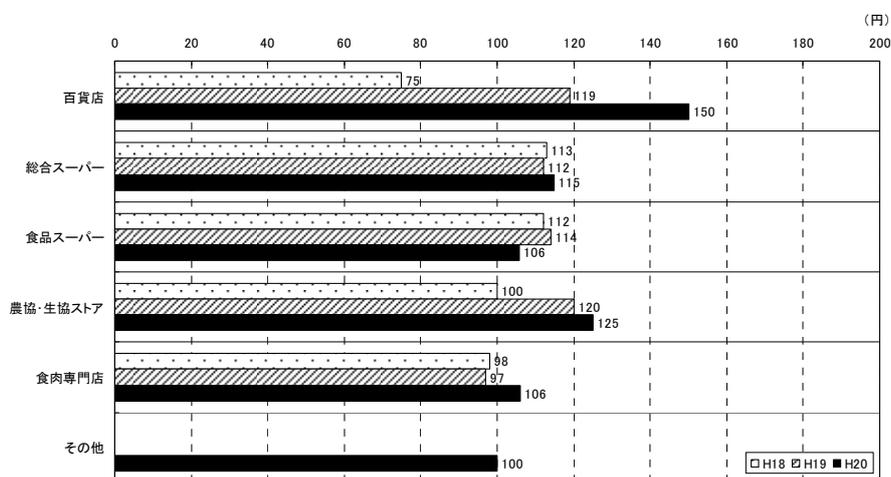


図 4-84 業態別・「輸入豚肉」・ももの売れ筋価格の平均

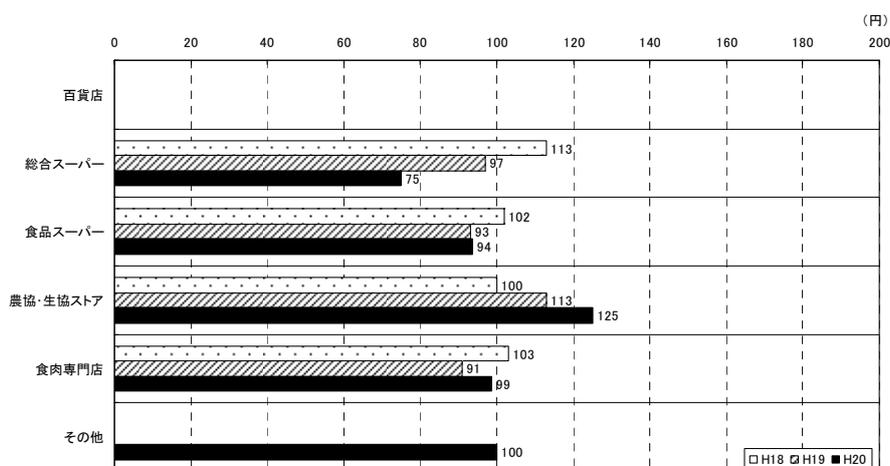


図 4-85 業態別・「輸入豚肉」・かたの売れ筋価格の平均

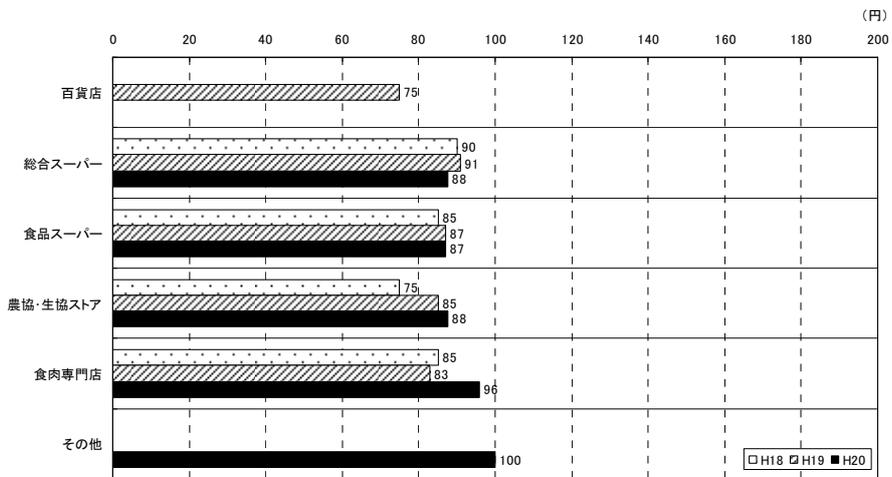


図 4-86 業態別・「輸入豚肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

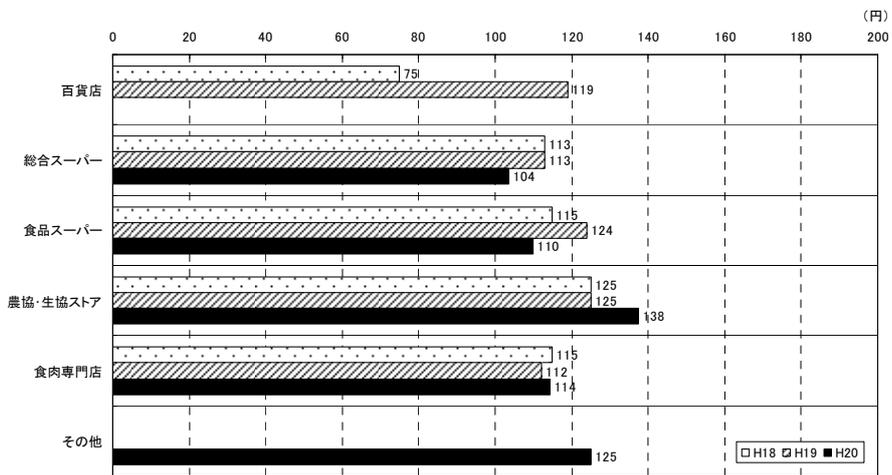


図 4-87 業態別・「輸入豚肉」・ロースの売れ筋価格の平均

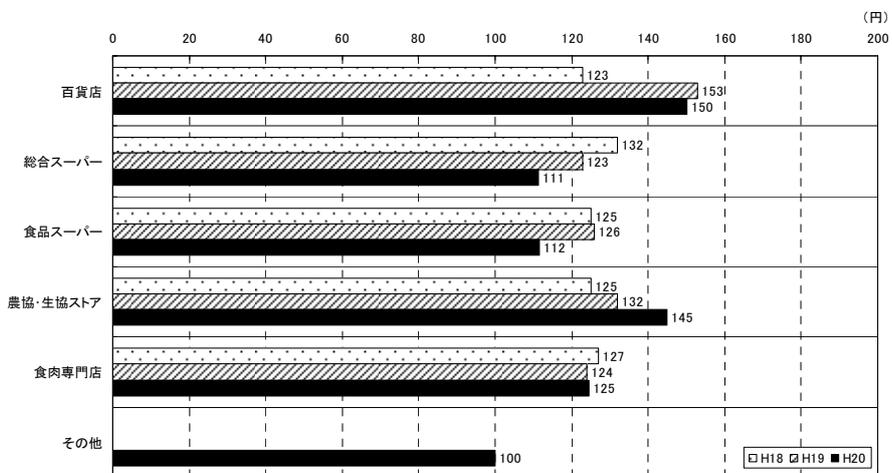
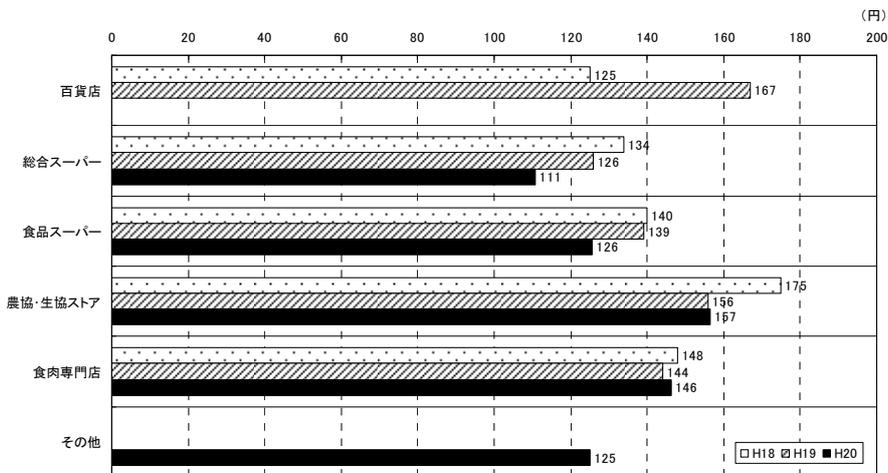


図 4-88 業態別・「輸入豚肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



● 地域別に「輸入豚肉」について見てみると、「北海道」がほとんどの部位で売れ筋価格が安かった。前年と比較すると、高級部位の売れ筋価格帯が全国的に下がっている傾向が見られた。

「北海道」は「もも」以外の全ての部位の売れ筋価格が、他の地域よりも安かった。「国産豚肉」でも同様な傾向が見られたことから、「北海道」は国産、輸入に関わらず、総じて豚肉の売れ筋価格が安くなっていることがわかる。

経年で見ると、「かたロース」、「ロース」、「ヒレ」等の高級部位が、一部地域を除き、売れ筋価格が下がっていた。安い部位は、地域による大きな特徴なく、上がったたり下がったりしていた。

図 4-89 地域別・「輸入豚肉」・ばらの売れ筋価格の平均

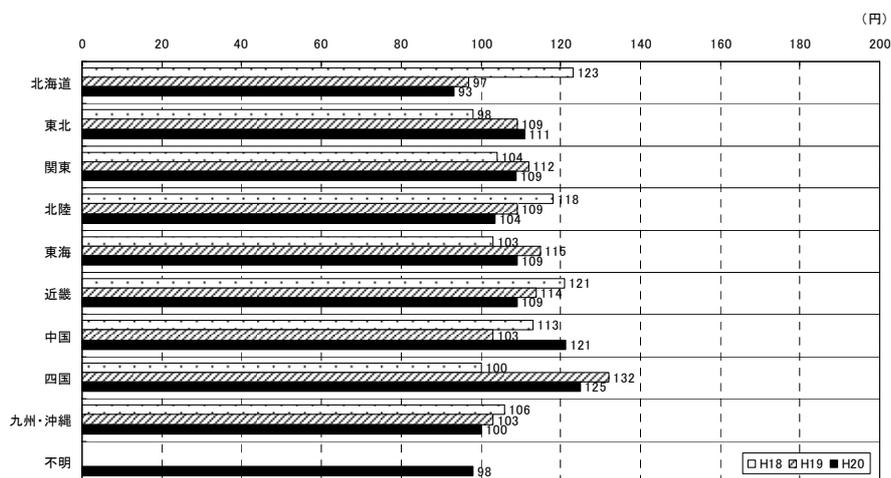


図 4-90 地域別・「輸入豚肉」・ももの売れ筋価格の平均

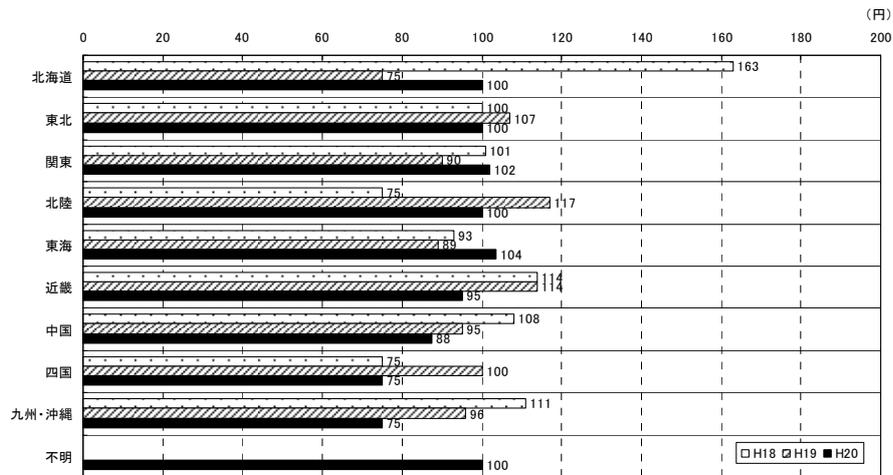


図 4-91 地域別・「輸入豚肉」・かたの売れ筋価格の平均

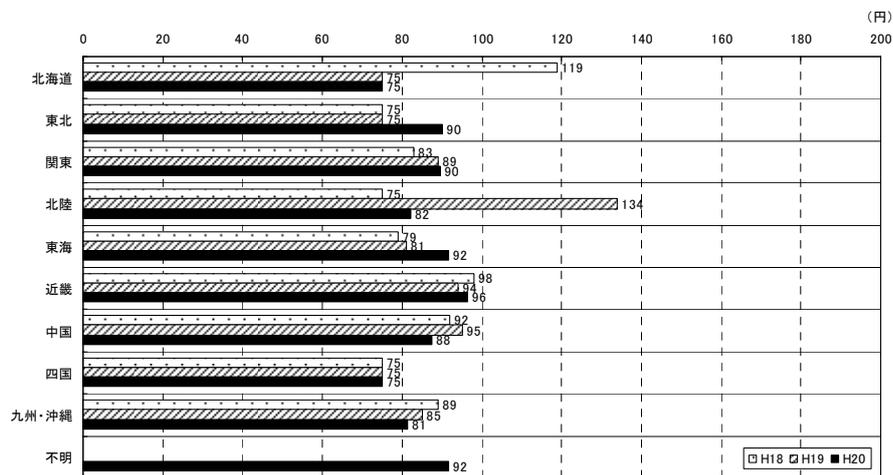


図 4-92 地域別・「輸入豚肉」・かたロースの売れ筋価格の平均

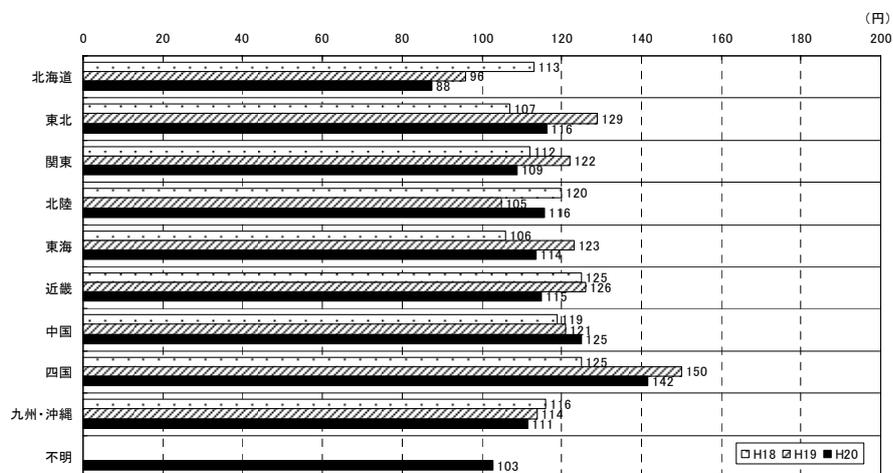


図 4-93 地域別・「輸入豚肉」・ロースの売れ筋価格の平均

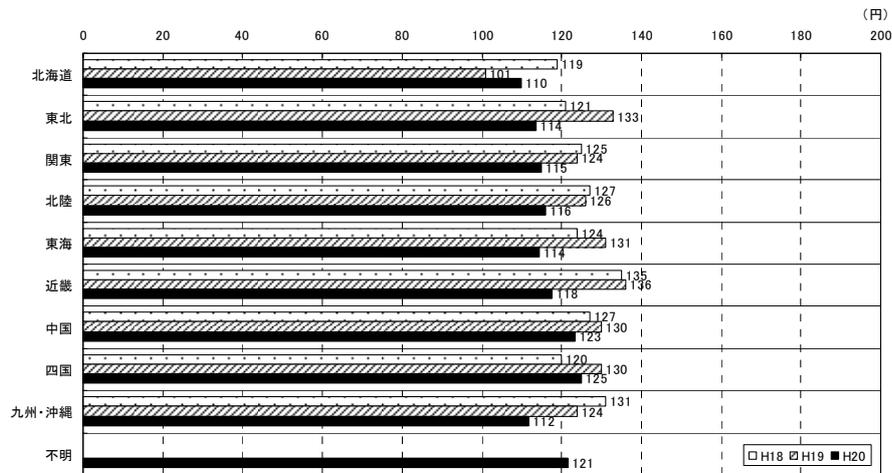
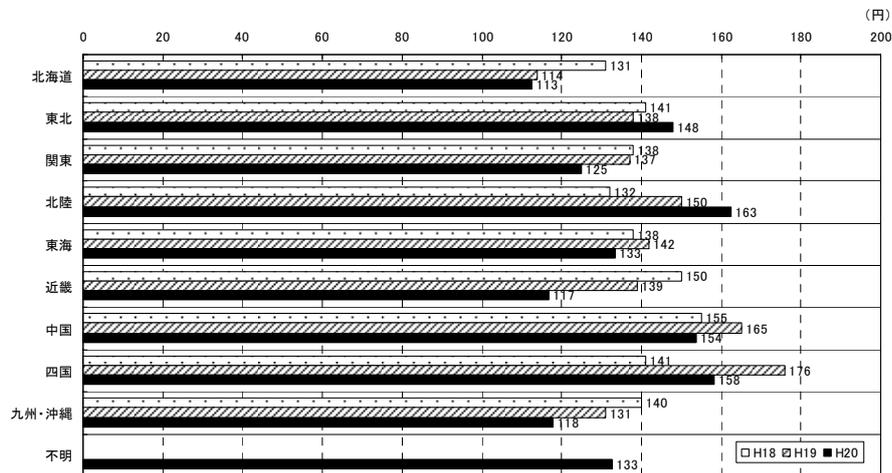


図 4-94 地域別・「輸入豚肉」・ヒレの売れ筋価格の平均



1. 3. 鶏肉の売れ筋価格帯(100g 当たり)

● 「鶏肉」の売れ筋価格帯は、「むね肉」が 76 円/100g と最も安く、「もも肉」と「ささみ」が 117 円/100g と、同額で最も高くなった。

平均価格は、「むね肉」、「手羽」、「もも肉」・「ささみ」の順で高くなった。

「むね肉」は 61～80 円/100g が 33.0%、次いで 81～100 円/100g が 31.4%、60 円/100g 以下が 20.5%であった。

「手羽」は「むね肉」よりもワンランク売れ筋価格が高く、81～100 円/100g が 42.5%、61～80 円/100g が 34.6%であった。

「もも肉」は「手羽」からさらにワンランク売れ筋価格が高く、101～120 円/100g が 37.8%、121～140 円/100g が 26.9%となっている。

「ささみ」の売れ筋平均価格は「もも肉」と同様、117 円/100g であった。「もも肉」が 101～120 円/100g 前後の価格帯に集中しているのに対し、「ささみ」はもう少し幅広い価格帯に分散している点が、「もも肉」と異なった。

図 4-95 「鶏肉」部位の売れ筋価格帯

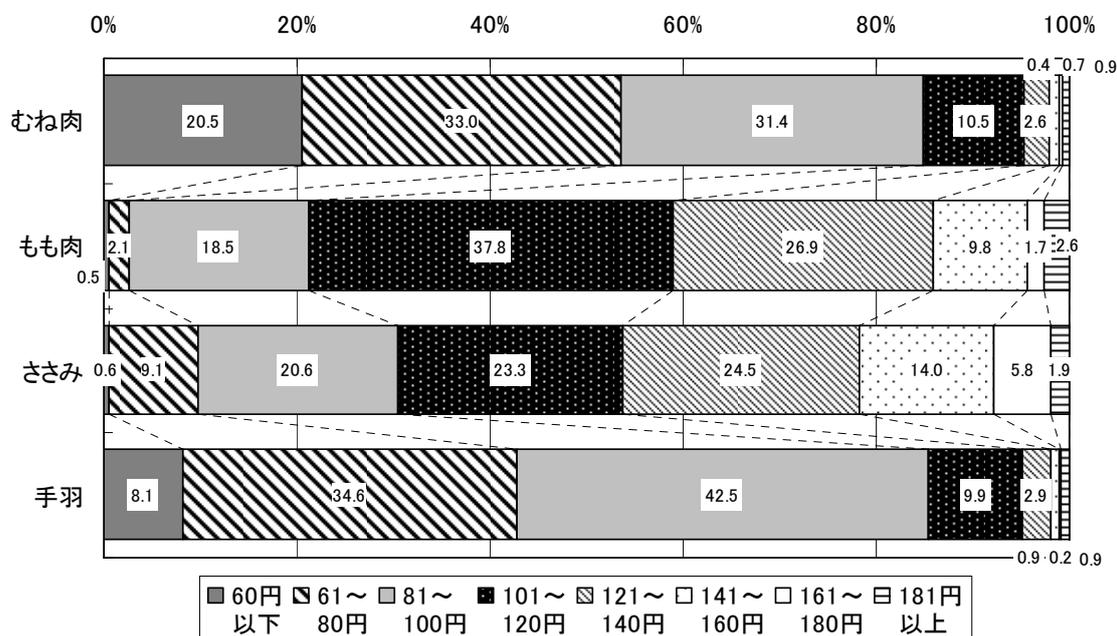


表 4-13 「鶏肉」部位別の売れ筋価格帯

部位別	総数	60円以下	61~80円	81~100円	101~120円	121~140円	141~160円	161~180円	181円以上	平均価格
むね肉	542	20.5	33.0	31.4	10.5	2.6	0.9	0.4	0.7	76
もも肉	572	0.5	2.1	18.5	37.8	26.9	9.8	1.7	2.6	117
ささみ	514	0.6	9.1	20.6	23.3	24.5	14.0	5.8	1.9	117
手羽	456	8.1	34.6	42.5	9.9	2.9	0.9	0.2	0.9	83

【経年比較調査】

「鶏肉」の部位別売れ筋価格を経年で見ると、平成 18 年から平成 19 年にかけては大きく売れ筋価格が変動しなかったが、平成 20 年にかけては、全ての部位において売れ筋価格が上がった。

表 4-14 「鶏肉」部位別の売れ筋価格の経年比較

部位別	価格平均(円/100g)			回答店舗数		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
むね肉	71	70	76	634	770	542
もも肉	106	109	117	673	811	572
ささみ	115	114	117	605	740	514
手羽	78	79	83	534	688	456

- 業態別に「鶏肉」の売れ筋価格を見ると、全ての部位において「百貨店」の売れ筋価格が高く、総じて「食品スーパー」の売れ筋価格が安くなっていた。前年と比較すると、「総合スーパー」の「手羽」の売れ筋価格が前年より下がっている他は、全ての業態、全ての部位について、前年よりも売れ筋価格が上がった。

「百貨店」は、他の業態と比較して、全ての部位において売れ筋価格が高かった。「総合スーパー」は、「食品スーパー」よりも若干高めではあるものの、総じて他の業態と比較して安めの売れ筋価格となった。「食品スーパー」は「もも肉」以外は、他の業態よりも安い売れ筋価格であった。「農協・生協ストア」は、他の業態の中間的な売れ筋価格となった。「食肉専門店」は「手羽」以外の全ての部位で、「百貨店」に次ぐ2番目に高い売れ筋価格となっていた。

前年と比較すると、「総合スーパー」の「手羽」以外は全て売れ筋価格が上昇している。特に「百貨店」については、「むね肉」、「もも肉」、「ささみ」において 20 円/100g 近くの大きな上昇をした。

図 4-96 業態別・「鶏肉」・むね肉の売れ筋価格の平均

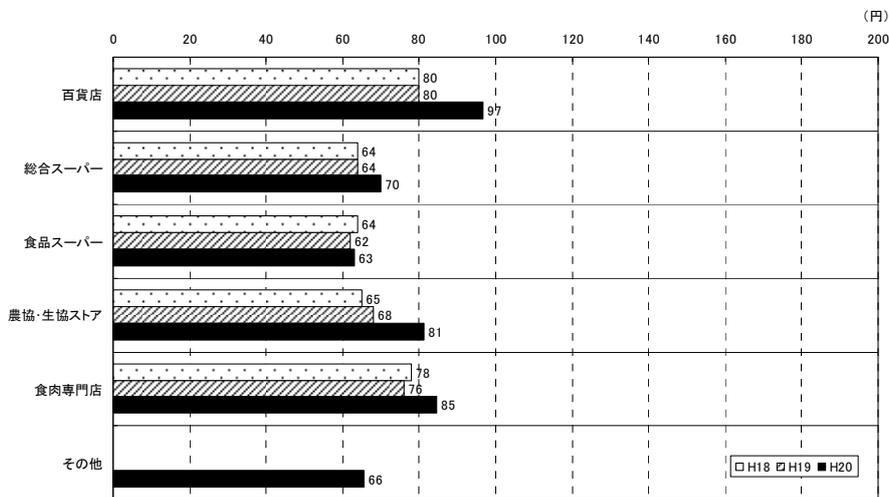


図 4-97 業態別・「鶏肉」・もも肉の売れ筋価格の平均

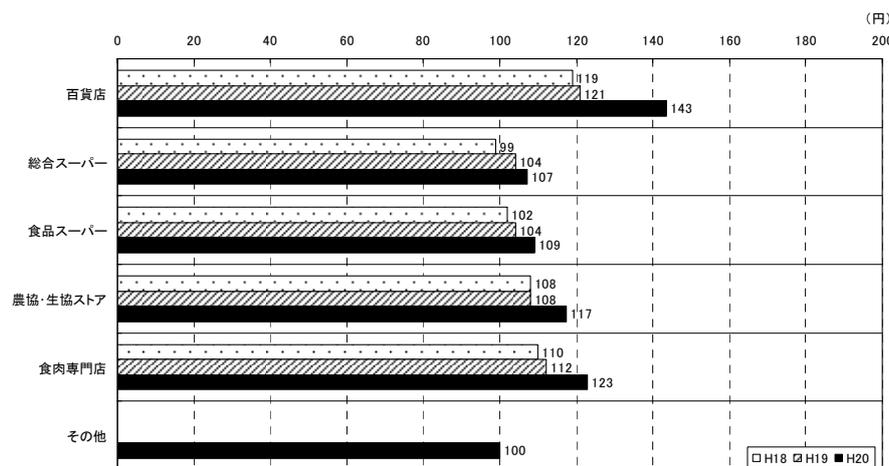


図 4-98 業態別・「鶏肉」・ささみの売れ筋価格の平均

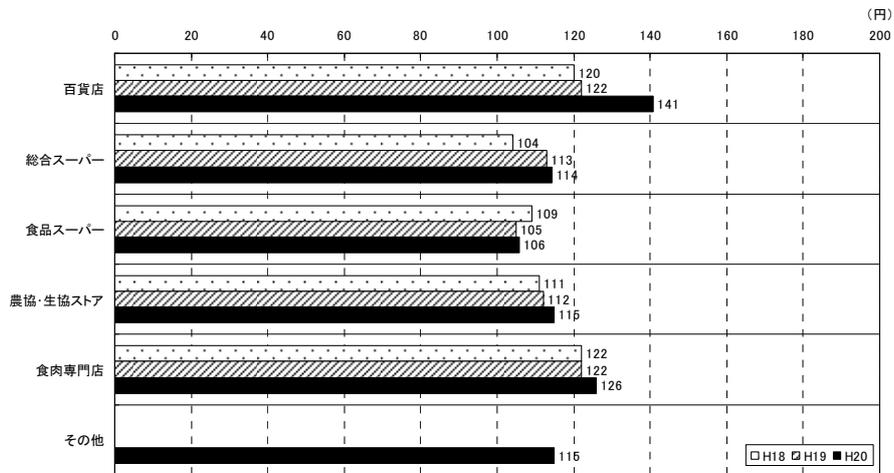
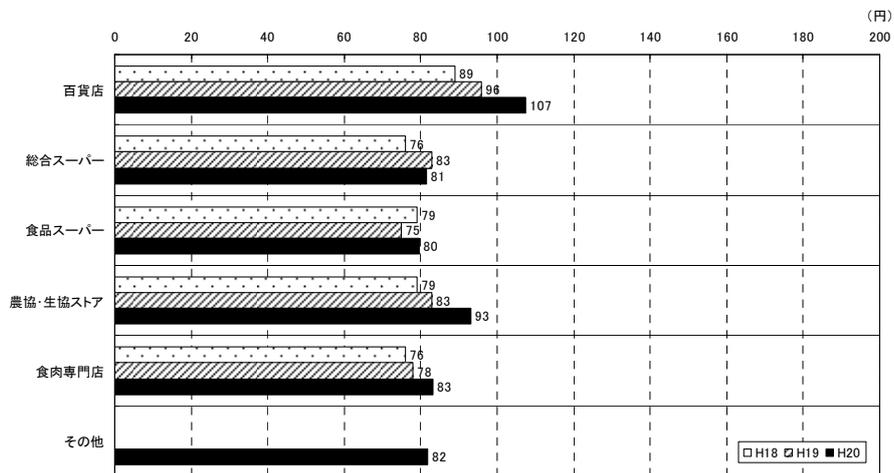


図 4-99 業態別・「鶏肉」・手羽の売れ筋価格の平均



● 地域別に「鶏肉」の売れ筋価格を見ると、「近畿」が全ての部位において最も高い売れ筋価格となった。前年と比べると、ほぼ全国的に売れ筋価格が上がっており、特に「東海」以西での上がり幅が大きい。

「近畿」は全ての部位で、他の地域よりも売れ筋価格が高くなっており、特に「もも肉」(128 円/100g)や「ささみ」(128 円/100g)は、2 番目に売れ筋価格が高い地域よりも 5 円/100g 以上の差をつけて突出して高い売れ筋価格になっている。「北海道」、「東北」は、他の地域よりも売れ筋価格帯が安くなっていた。

前年と比較すると、ほぼ全国的に売れ筋価格帯は上がった。特に「近畿」は「むね肉」が 17 円/100g、「もも肉」が 13 円/100g、「ささみ」が 12 円/100g、「手羽」が 11 円/100g と、いずれの部位も 10 円/100g 以上の上がり幅となった。「中国」、「四国」も前年の売れ筋価格と比較すると同様に大きく上がっており、西日本で「鶏肉」の売れ筋価格が比較的大きく上がったこととなった。一方、「北海道」、「東北」、「関東」、「北陸」などでは、ほぼ前年並み、部位によっては前年よりも売れ筋価格が下がるところもあり、東日本では「鶏肉」の売れ筋価格に大きな変動はなかった。

図 4-100 地域別・「鶏肉」・むね肉の売れ筋価格の平均

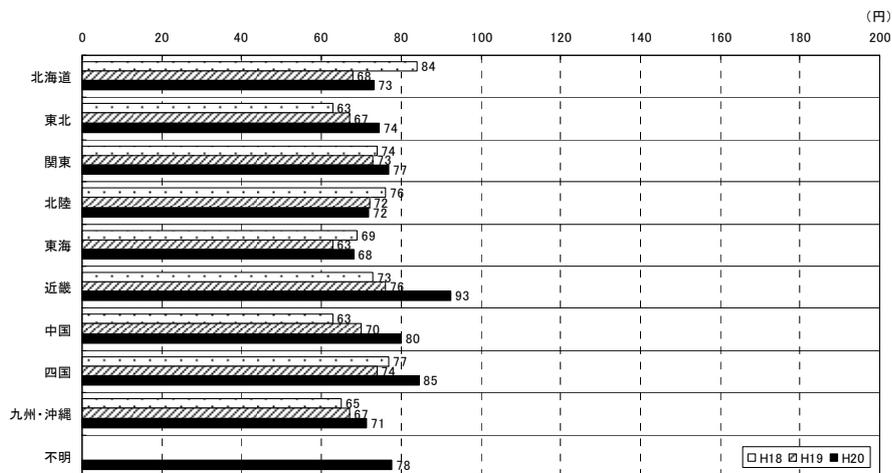


図 4-101 地域別・「鶏肉」・もも肉の売れ筋価格の平均

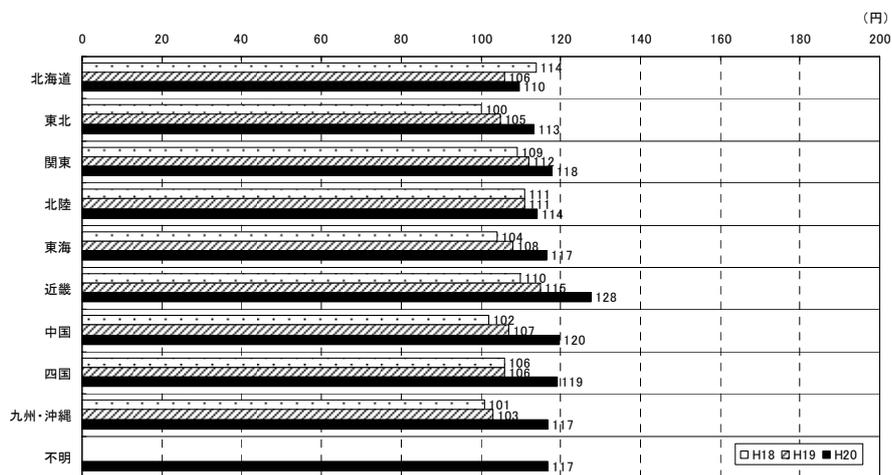


図 4-102 地域別・「鶏肉」・ささみの売れ筋価格の平均

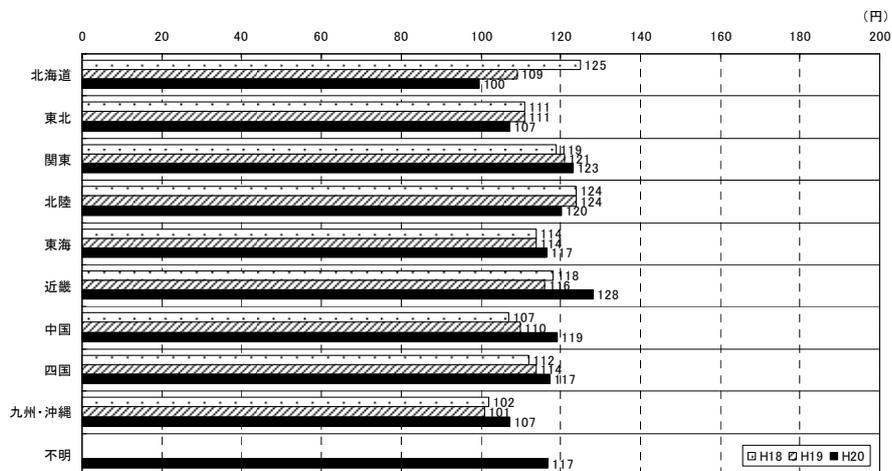
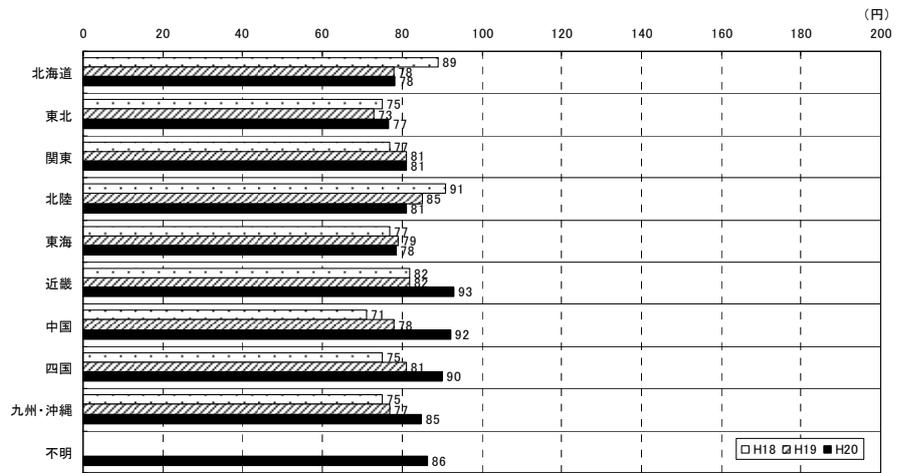


図 4-103 地域別・「鶏肉」・手羽の売れ筋価格の平均



1. 4. 適正価格帯(100g 当たり)

今回調査より、販売店に対し、食肉の価格感度測定を実施した。価格感度測定とは、PSM(Price Sensitivity Meter [Measurement])とも呼ばれる、既存データのない場合の受容価格範囲・最適価格を知る手法として知られているが、例えば牛乳のように日々価格が変動するような商品の受容価格範囲を知る上でも用いられている。通常この調査は、消費者のイメージする適正価格帯を探る上で実施することが多いが、今回は、販売する立場の考える適正価格帯を、消費者の考える適正価格帯と比較する事で、販売店と消費者との間でギャップが生じていないかどうかを見ることを目的に販売店にも実施することとした。対象は、「国産牛ばら肉」、「輸入牛ばら肉」、「豚ばら肉」、「鶏もも肉」の4つとした。価格感度測定に行うに当たり、上記4種類の食肉について、以下の4つの質問をした。

(質問1)消費者が、あまりにも安くて、品質に不安を感じ始める100g当たりの値段

(質問2)消費者が、品質に不安はないが、安いと感じ始める100g当たりの値段

(質問3)消費者が、品質的に買う価値はあるが、高いと感じ始める100g当たりの値段

(質問4)消費者が、いくら品質が良くても、高すぎて買えないと感じ始める100g当たりの値段

また、より直接的に以下の質問も追加した。

(質問5)ちょうど良いと思う100g当たりの値段

この手法では、上記質問を活用し、「安すぎて品質が不安」と感じる人と「高いと感じ始める」人とが同数になるポイントを、安さの限界点とし、「高すぎて買わない」と感じる人と「安いと感じ始める」人とが同数になるポイントを、高さの限界点とすることで、その間の価格帯を適正価格とするものである。

1. 4. 1. 「国産牛ばら肉」の適正価格帯

● 「国産牛ばら肉」の適正価格帯は、291.3 円/100g～338.8 円/100g であった。

今回、グラフの接点から測定したところ、販売店が考える「国産牛ばら肉」の安さの限界点は 291.3 円/100g、高さの限界点は 338.8 円/100g であった。

図 4-104 国産牛ばら肉の価格感度測定(全体像)

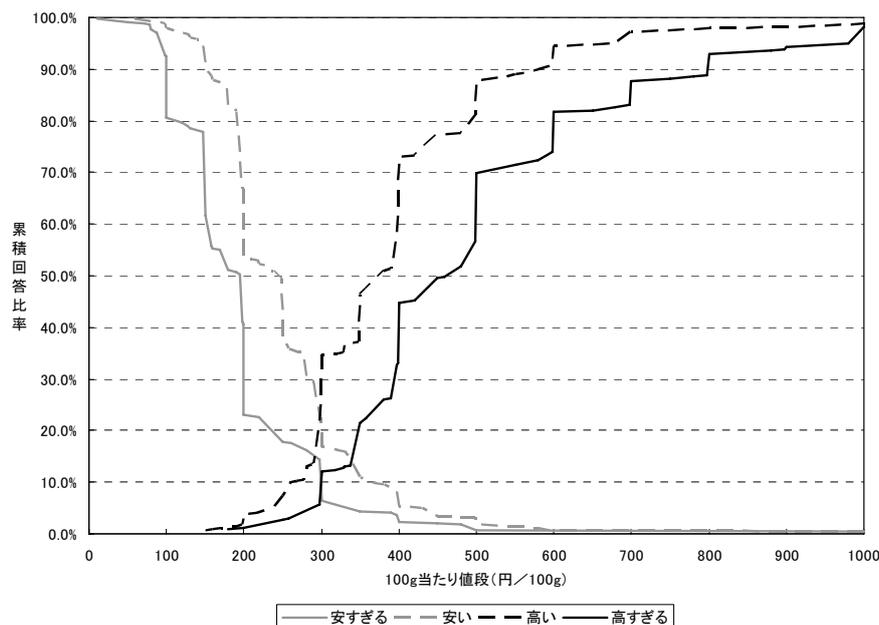
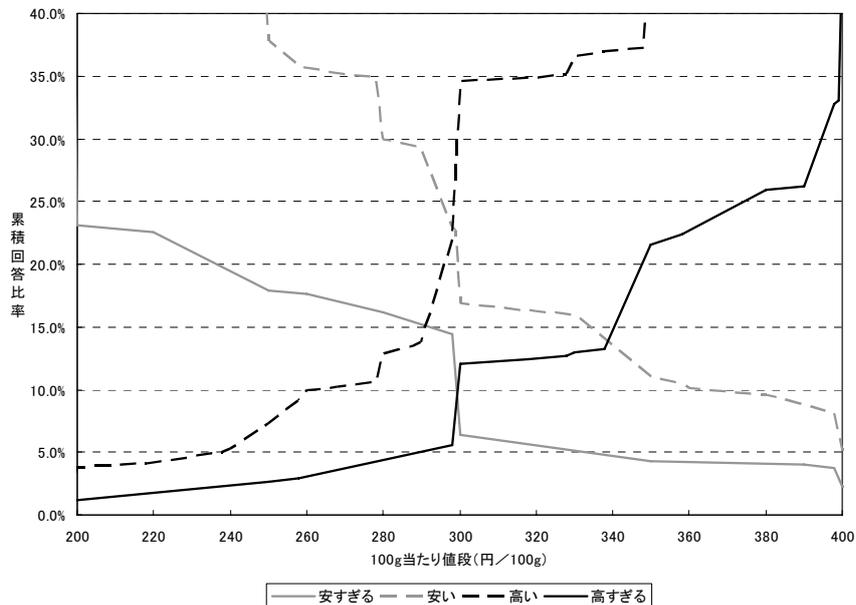


図 4-105 国産牛ばら肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



1. 4. 2. 「輸入牛ばら肉」の適正価格帯

● 「輸入牛ばら肉」の適正価格帯は、149.5 円/100g～193.0 円/100g であった。

今回、グラフの接点から測定したところ、販売店が考える「輸入牛ばら肉」の安さの限界点は 149.5 円/100g、高さの限界点は 193.0 円/100g であった。

図 4-106 輸入牛ばら肉の価格感度測定(全体像)

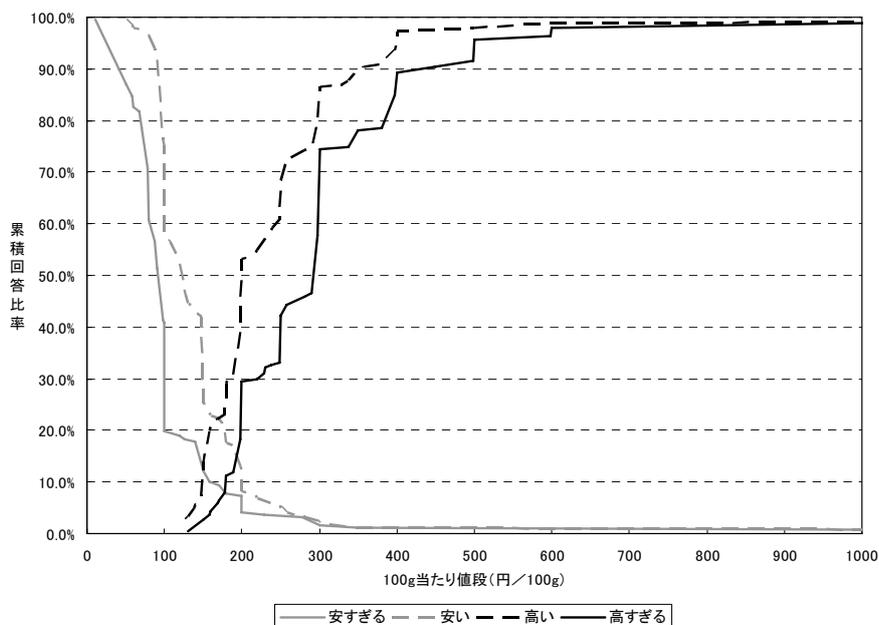
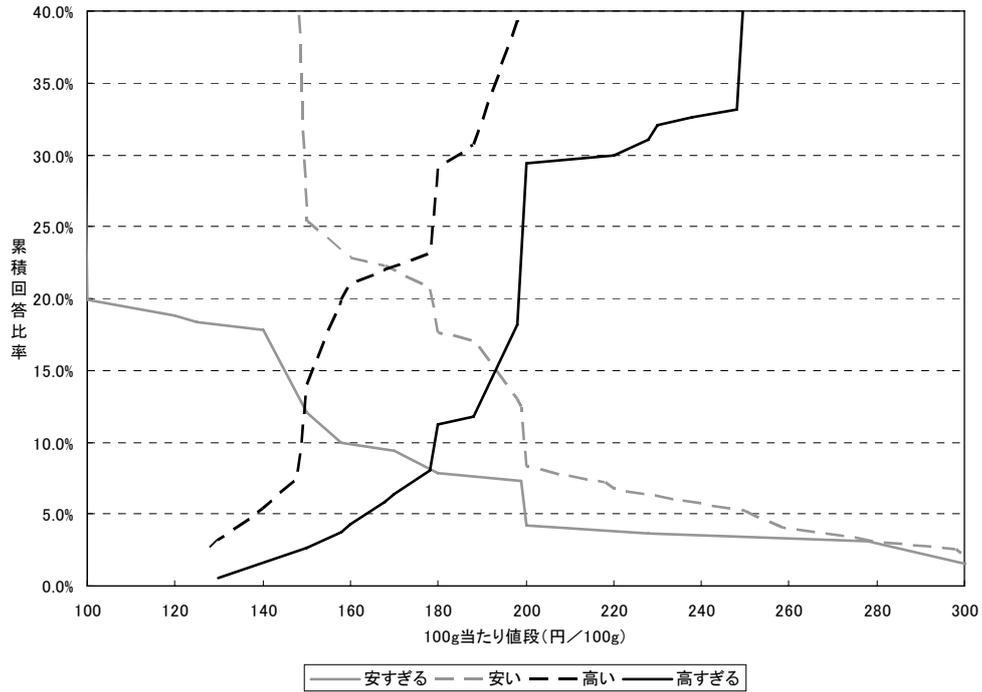


図 4-107 輸入牛ばら肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



1. 4. 3. 「豚ばら肉」の適正価格帯

● 「豚ばら肉」の適正価格帯は、138.6 円/100g～156.4 円/100g であった。

今回、グラフの接点から測定したところ、販売店が考える「豚ばら肉」の安さの限界点は 138.6 円/100g、高さの限界点は 156.4 円/100g であった。

図 4-108 豚ばら肉の価格感度測定(全体像)

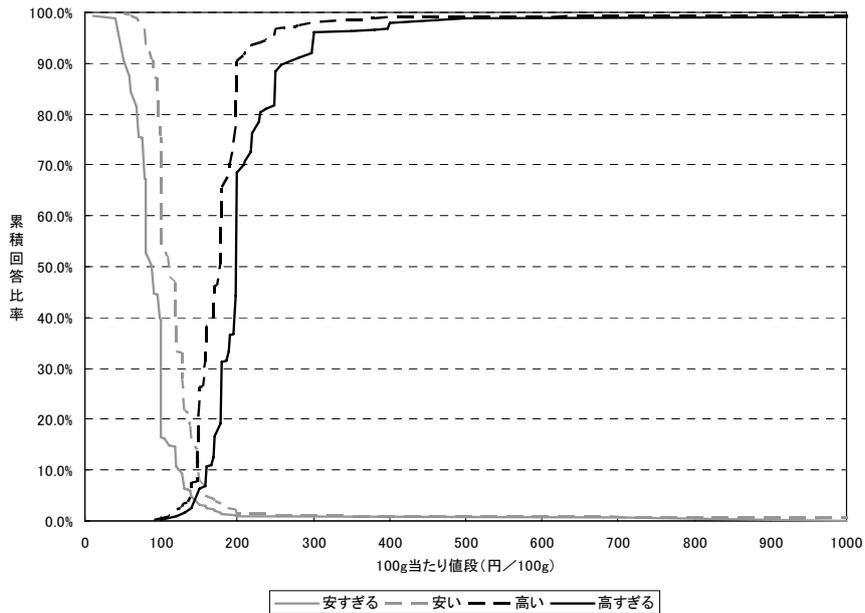
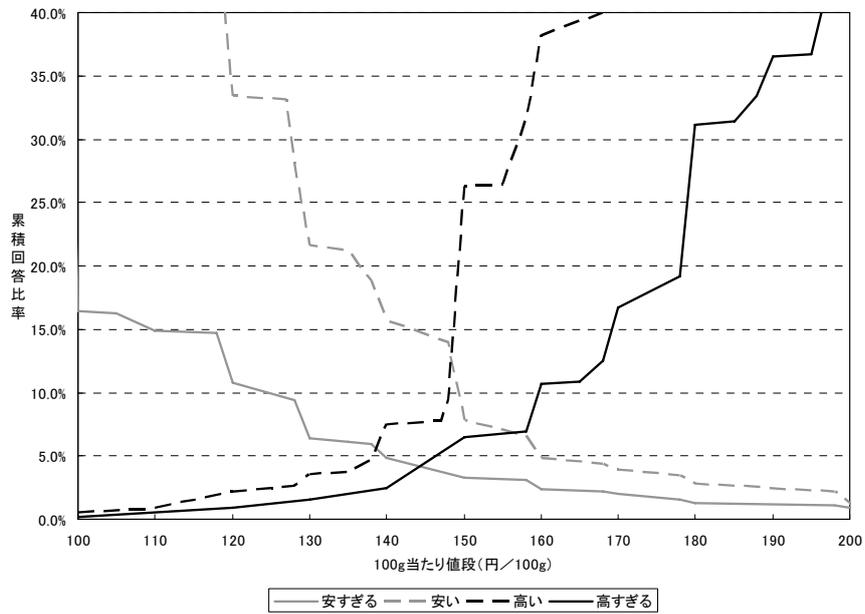


図 4-109 豚ばら肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



1. 4. 4. 「鶏もも肉」の適正価格帯

● 「鶏もも肉」の適正価格帯は、107.0 円/100g～128.3 円/100g であった。

今回、グラフの接点から測定したところ、販売店が考える「鶏もも肉」の安さの限界点は 107.0 円/100g、高さの限界点は 128.3 円/100g であった。

図 4-110 鶏もも肉の価格感度測定(全体像)

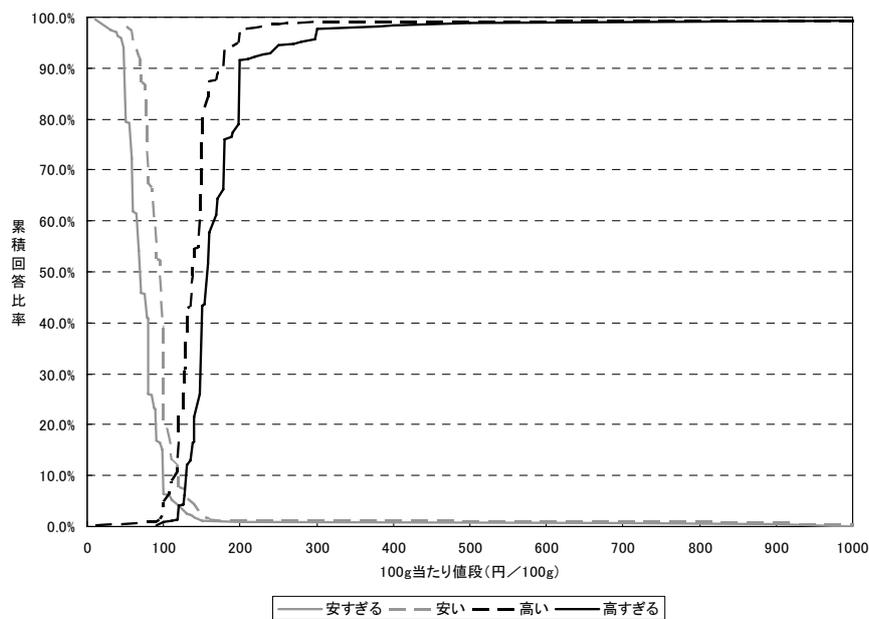
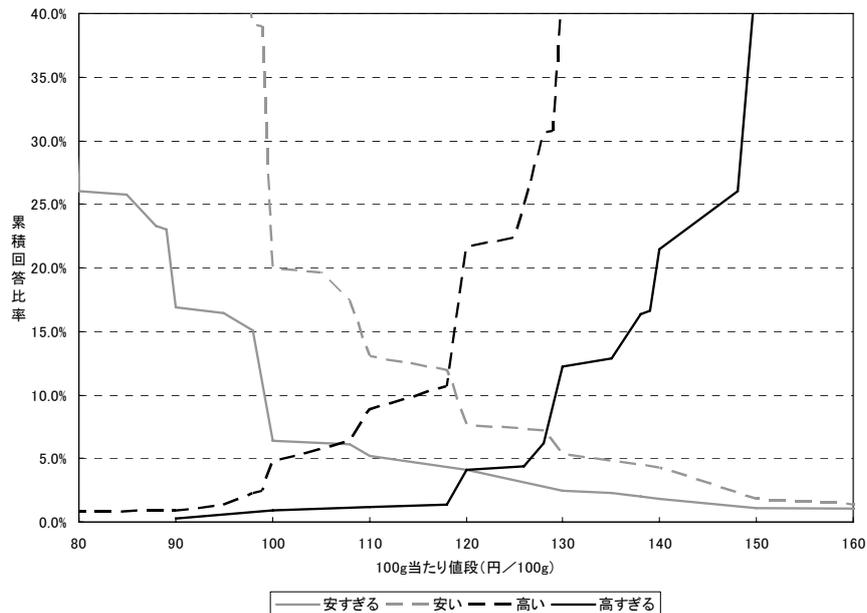


図 4-111 鶏もも肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



1. 4. 5. 販売店と消費者の適正価格帯ギャップ

● 「国産牛ばら肉」の適正価格帯は、販売店と消費者間で大きな差が生じているが、「輸入牛ばら肉」、「豚ばら肉」、「鶏もも肉」の適正価格については、販売店と消費者間で大きなギャップは生じていない。

今回販売店で実施した価格感度測定(PSM)は、平成20年12月消費者調査においても実施しているため、両者を比較することにより、販売店と消費者との間に食肉の適正価格にギャップが生じていないかどうかを比較してみる。

「国産牛ばら肉」の適正価格について見てみると、消費者は188.4～248.8円/100gを適正価格としているのに対し、販売店は291.3～338.8円/100gを適正価格としていた。両者は交わることなく、適正価格が販売店と消費者の間で完全に分離した。国産牛ばら肉については、今回調査で、「和牛肉」の売れ筋価格が464円/100g、「国産乳用種」が287円/100g、「国産交雑種」が373円/100gであったことを考えると、販売店が適正価格とする価格の方が実態値に近い。消費者が示す適正価格は、「このくらい安い価格になってほしい」という願望を表していることが想定された。

一方、「輸入牛ばら肉」の適正価格は、消費者が148.5～199.1円/100gとしているのに対し、販売店は149.5～193.0円/100gとしており、ほぼ一致した。消費者の上限額が販売店よりも高くなっており、もう少し高い価格でも受容されることを示している。

「豚ばら肉」の適正価格は、消費者が118.9～149.8円/100gとしているのに対し、販売店は138.6～156.4円/100gとしており、両者は交わっているものの、消費者が安めの価格にシフトした。「国産牛ばら肉」同様、安めの価格願望が反映されていることが想定された。

「鶏もも肉」の適正価格は、消費者が99.4～129.4円/100gとしているのに対し、販売店は107.0～128.3円/100gとしており、販売店の適正価格を消費者の適正価格が包含する形となった。消費者の下限額が販売店の下限額よりやや低めになっており、もう少し安くしてほしいという願望が反映されていることが想定された。

図 4-112 販売店と消費者の適正価格帯ギャップ

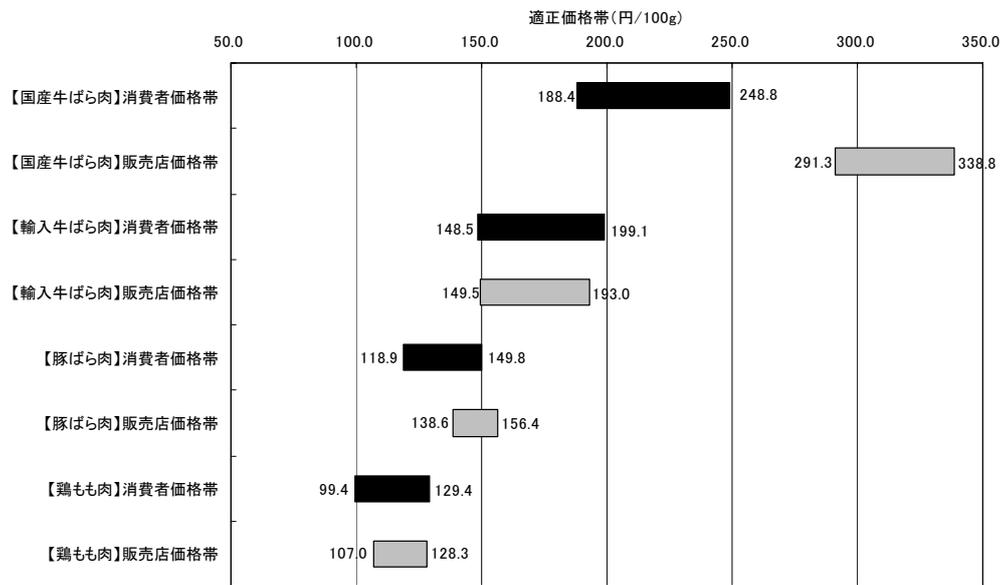


表 4-15 販売店と消費者の適正価格帯ギャップ

(単位: 円/100g)

		H20/12消費者調査	H20/10販売店調査
国産牛ばら肉	安さの限界点 (PMC)	188.4	291.3
	高さの限界点 (PME)	248.8	338.8
	適正価格の平均	248.3	303.8
	最多適正価格	200.0	250.0
輸入牛ばら肉	安さの限界点 (PMC)	148.5	149.5
	高さの限界点 (PME)	199.1	193.0
	適正価格の平均	200.1	185.0
	最多適正価格	200.0	198.0
豚ばら肉	安さの限界点 (PMC)	118.9	138.6
	高さの限界点 (PME)	149.8	156.4
	適正価格の平均	157.4	146.2
	最多適正価格	100.0	150.0
鶏もも肉	安さの限界点 (PMC)	99.4	107.0
	高さの限界点 (PME)	129.4	128.3
	適正価格の平均	131.7	116.9
	最多適正価格	100.0	100.0

2. 食肉の販売形態

2. 1. 牛肉の販売形態

2. 1. 1. 「和牛肉」

● 「もも」、「かた」、「かたロース」はスライス中心、「サーロイン」、「ヒレ」はカット中心となった。

「かた」、「かたロース」は、90%以上が「スライス」で販売されていた。「もも」は若干落ちて約 80%程度の「スライス」販売となった。「ばら」、「リブロース」は、「スライス」がそれぞれ、67.4%、73.1%と最も多い販売形態であったが、「カット」もそれぞれ 26.6%、19.8%とそれなりのボリュームがあった。一方、「サーロイン」と「ヒレ」は 8 割近くが「カット」売りとなっていた。それぞれ、次いで「ブロック」が多く、10.7%、15.8%となっていた。

図 4-113 「和牛肉」部位別販売形態

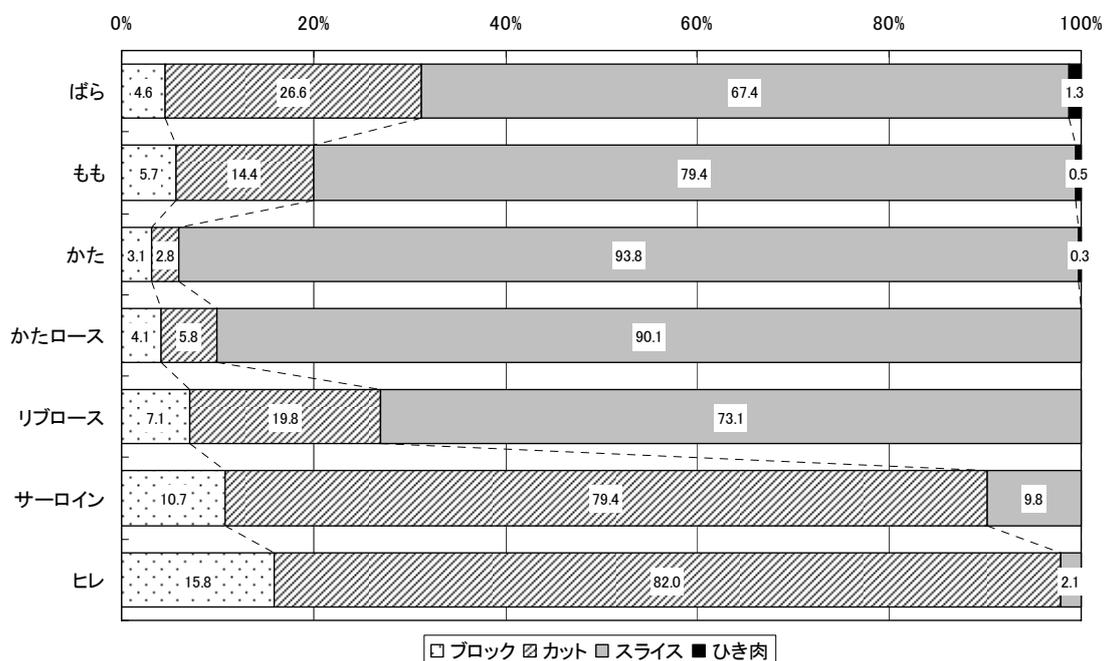


表 4-16 「和牛肉」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	304	14	81	205	4
	100.0	4.6	26.6	67.4	1.3
もも	369	21	53	293	2
	100.0	5.7	14.4	79.4	0.5
かた	322	10	9	302	1
	100.0	3.1	2.8	93.8	0.3
かたロース	343	14	20	309	-
	100.0	4.1	5.8	90.1	-
リブロース	323	23	64	236	-
	100.0	7.1	19.8	73.1	-
サーロイン	326	35	259	32	-
	100.0	10.7	79.4	9.8	-
ヒレ	284	45	233	6	-
	100.0	15.8	82.0	2.1	-
合計(累計)	2,271	162	719	1,383	7
	100.0	7.1	31.7	60.9	0.3

2. 1. 2. 「国産乳用種」

● 「かた」、「かたローズ」はスライス中心、「サーロイン」、「ヒレ」はカット中心の販売形態であった。

「かた」、「かたローズ」は 95%以上と圧倒的に多くが「スライス」で販売されていた。「もも」も「スライス」による販売が 77.8%とほぼ 8 割あり、圧倒的に多かったが、「ブロック」が 10.5%、「カット」が 9.2%と、他の販売形態もそれなりに占められていた。「ばら」や「リブローズ」も「スライス」による販売が最も多く、それぞれ 72.9%、72.1%と 7 割以上あったが、「カット」もそれぞれ 20.7%、25.6%と比較的多めに存在した。「サーロイン」と「ヒレ」は、他の部位と異なり、「カット」による販売形態が最も多く、それぞれ 80.1%、82.9%となった。「ブロック」売りも、それぞれ 8.8%、17.1%と、それなりのボリュームが存在した。

図 4-114 「国産乳用種」部位別販売形態

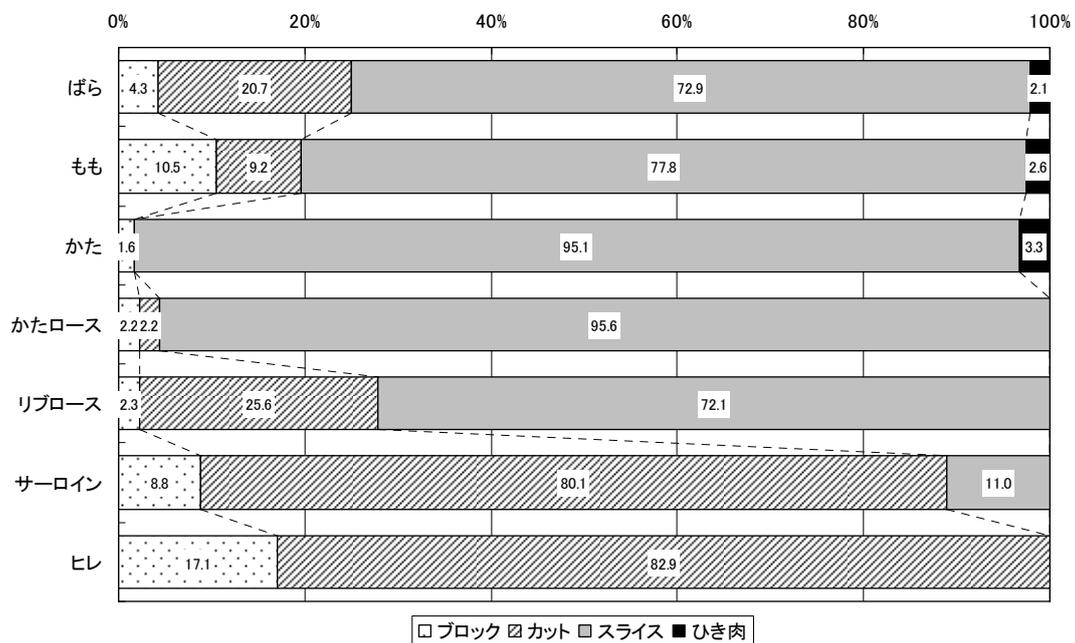


表 4-17 「国産乳用種」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	140	6	29	102	3
	100.0	4.3	20.7	72.9	2.1
もも	153	16	14	119	4
	100.0	10.5	9.2	77.8	2.6
かた	122	2	-	116	4
	100.0	1.6	-	95.1	3.3
かたローズ	135	3	3	129	-
	100.0	2.2	2.2	95.6	-
リブローズ	129	3	33	93	-
	100.0	2.3	25.6	72.1	-
サーロイン	136	12	109	15	-
	100.0	8.8	80.1	11.0	-
ヒレ	117	20	97	-	-
	100.0	17.1	82.9	-	-
合計(累計)	932	62	285	574	11
	100.0	6.7	30.6	61.6	1.2

2. 1. 3. 「国産交雑種」

● 「かた」、「かたローズ」はスライス中心、「サーロイン」、「ヒレ」はカット中心の販売形態であった。

「かた」、「かたローズ」は90%以上が「スライス」で販売されていた。「もも」も「スライス」による販売が78.9%とほぼ8割あり、圧倒的に多かったが、「カット」が12.6%、「ブロック」が6.7%と、他の販売形態もそれなりに占められていた。「ばら」や「リブローズ」も「スライス」による販売が最も多く、それぞれ68.5%、72.5%とほぼ7割あったが、「カット」もそれぞれ26.5%、21.2%と比較的多めに存在した。「サーロイン」と「ヒレ」は、他の部位と異なり、「カット」による販売形態が最も多く、それぞれ80.3%、81.0%となった。「ブロック」売りも、それぞれ10.1%、18.5%と、それなりのボリュームが存在した。

図 4-115 「国産交雑種」部位別販売形態

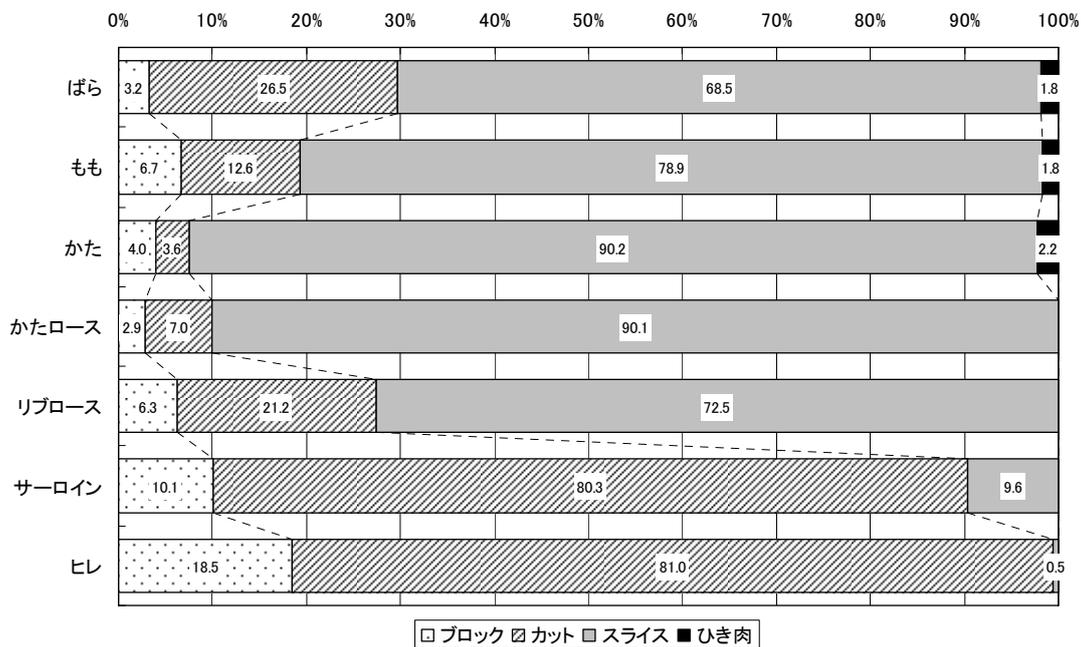


表 4-18 「国産交雑種」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	219	7	58	150	4
	100.0	3.2	26.5	68.5	1.8
もも	285	19	36	225	5
	100.0	6.7	12.6	78.9	1.8
かた	225	9	8	203	5
	100.0	4.0	3.6	90.2	2.2
かたローズ	243	7	17	219	-
	100.0	2.9	7.0	90.1	-
リブローズ	222	14	47	161	-
	100.0	6.3	21.2	72.5	-
サーロイン	228	23	183	22	-
	100.0	10.1	80.3	9.6	-
ヒレ	189	35	153	1	-
	100.0	18.5	81.0	0.5	-
合計(累計)	1,611	114	502	981	14
	100.0	7.1	31.2	60.9	0.9

2. 1. 4. 「輸入牛肉」

● 「かた」、「かたロース」はスライス中心、「サーロイン」、「ヒレ」はカット中心の販売形態であった。

「かた」、「かたロース」はそれぞれ 91.5%、89.3%と、ほぼ 9 割が「スライス」で販売されていた。「もも」も「スライス」による販売が 68.3%とほぼ 7 割あり、圧倒的に多かったが、「ブロック」が 14.1%、「カット」が 9.9%と、他の販売形態もそれなりに占められていた。「ばら」や「リブロース」も「スライス」による販売が最も多く、それぞれ 67.1%、61.4%と 6 割以上あったが、「カット」もそれぞれ 24.0%、33.7%と比較的多めに存在した。「サーロイン」と「ヒレ」は、他の部位と異なり、「カット」による販売形態が最も多く、それぞれ 83.8%、76.1%となった。「ヒレ」は「ブロック」売りも多く、22.4%存在した。

図 4-116 「輸入牛肉」部位別販売形態

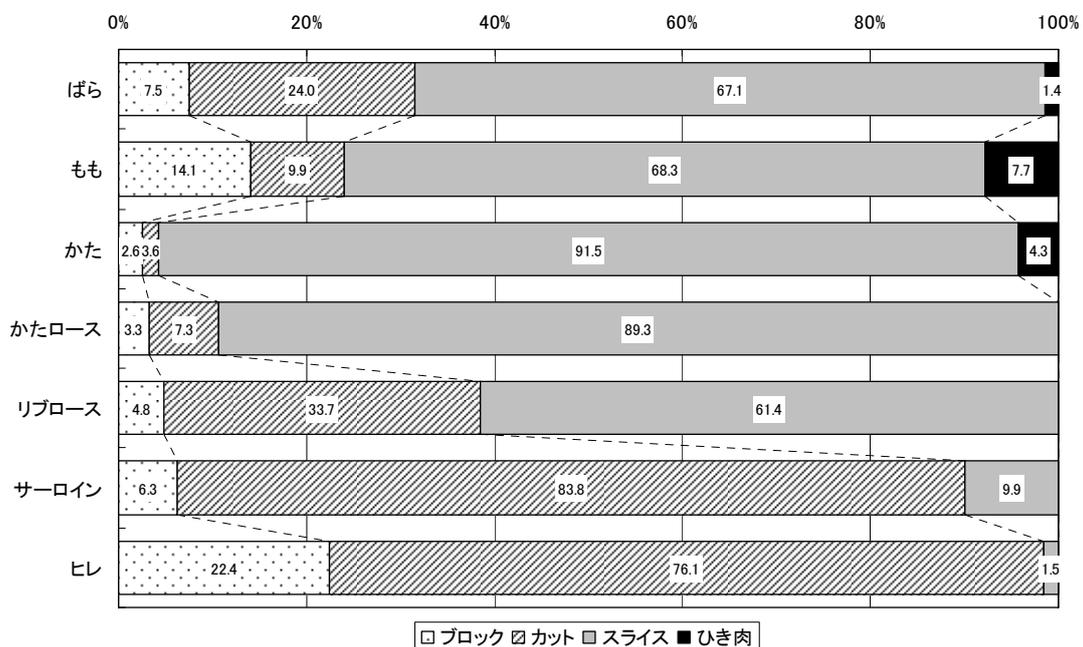


表 4-19 「輸入牛肉」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	146	11	35	98	2
	100.0	7.5	24.0	67.1	1.4
もも	142	20	14	97	11
	100.0	14.1	9.9	68.3	7.7
かた	117	3	2	107	5
	100.0	2.6	1.7	91.5	4.3
かたロース	150	5	11	134	-
	100.0	3.3	7.3	89.3	-
リブロース	83	4	28	51	-
	100.0	4.8	33.7	61.4	-
サーロイン	111	7	93	11	-
	100.0	6.3	83.8	9.9	-
ヒレ	67	15	51	1	-
	100.0	22.4	76.1	1.5	-
合計(累計)	816	65	234	499	18
	100.0	8.0	28.7	61.2	2.2

2. 2. 豚肉の販売形態

2. 2. 1. 「国産豚肉」

● 「ばら」、「もも」、「かた」はスライス中心、「ヒレ」はブロック中心の販売形態であった。

「かた」は 87.3%が「スライス」で販売されていた。「ばら」、「もも」も「スライス」による販売形態が最も多く、それぞれ同率の 81.9%であったが、「ブロック」も 11.5%、11.1%とそれなりのボリュームがあった。「かたロース」も「スライス」による販売が多く、69.6%と 7 割近くあったが、「カット」が 19.4%、「ブロック」が 10.7%と他の販売形態もそれなりに占められていた。「ロース」も他と同様、「スライス」販売が 51.7%と多いが、「カット」も 38.8%とかなり多くなっていた。「ヒレ」のみ他の部位と異なり、「ブロック」による販売が最も多く、64.7%であった。「カット」による販売も 31.2%とそれなりのボリュームがある。

図 4-117 「国産豚肉」部位別販売形態

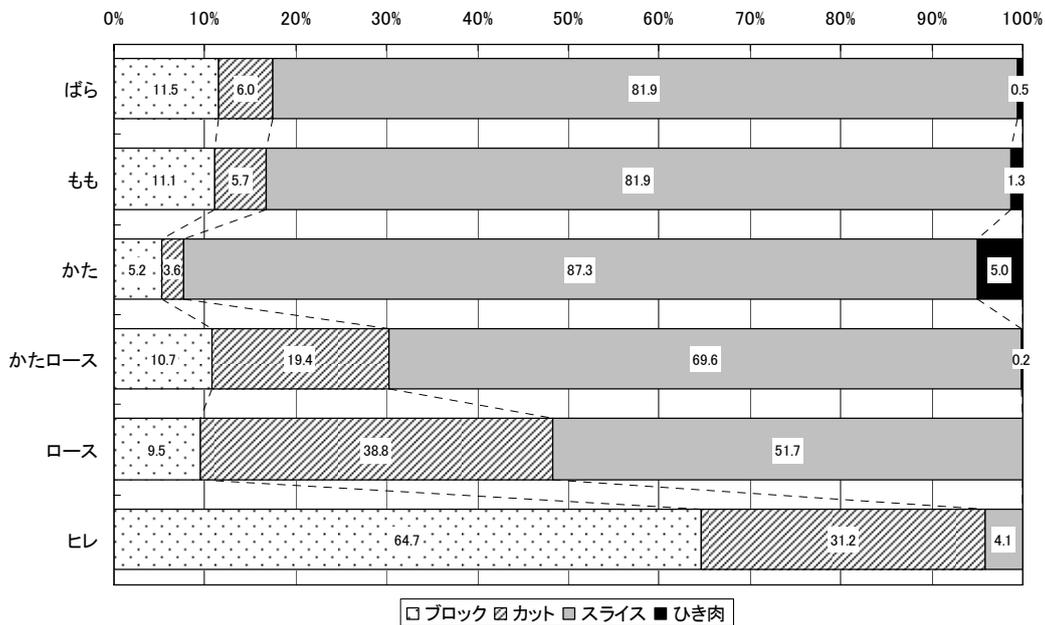


表 4-20 「国産豚肉」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	565	65	34	463	3
	100.0	11.5	6.0	81.9	0.5
もも	548	61	31	449	7
	100.0	11.1	5.7	81.9	1.3
かた	498	26	12	435	25
	100.0	5.2	2.4	87.3	5.0
かたロース	540	58	105	376	1
	100.0	10.7	19.4	69.6	0.2
ロース	567	54	220	293	-
	100.0	9.5	38.8	51.7	-
ヒレ	532	344	166	22	-
	100.0	64.7	31.2	4.1	-
合計(累計)	3,250	608	568	2,038	36
	100.0	18.7	17.5	62.7	1.1

2. 2. 2. 「輸入豚肉」

- 「ばら」、「もも」、「かた」はスライス中心、「ヒレ」はブロック中心、「ロース」はカットとスライスが同じ割合での販売形態となった。

「かた」は 80.6%が「スライス」で販売されていた。「ひき肉」も 8.3%と多くなっている点が特徴的である。「ばら」、「もも」も「スライス」による販売形態が最も多く、それぞれ 66.1%、76.6%であったが、「ブロック」も 29.0%、19.5%とそれなりのボリュームがあった。「かたロース」も「スライス」による販売が多く、56.4%と半数以上あったが、「ブロック」が 25.8%、「カット」が 17.8%、と他の販売形態もそれなりに占められていた。「ロース」は、「カット」販売が 45.7%、「スライス」販売が 45.2%と僅かではあるが「カット」による販売形態が多くなった。「ヒレ」は、他の部位と異なり、「ブロック」による販売が突出して多く、70.5%であった。「カット」による販売も 26.5%とそれなりのボリュームがある。

図 4-118 「輸入豚肉」部位別販売形態

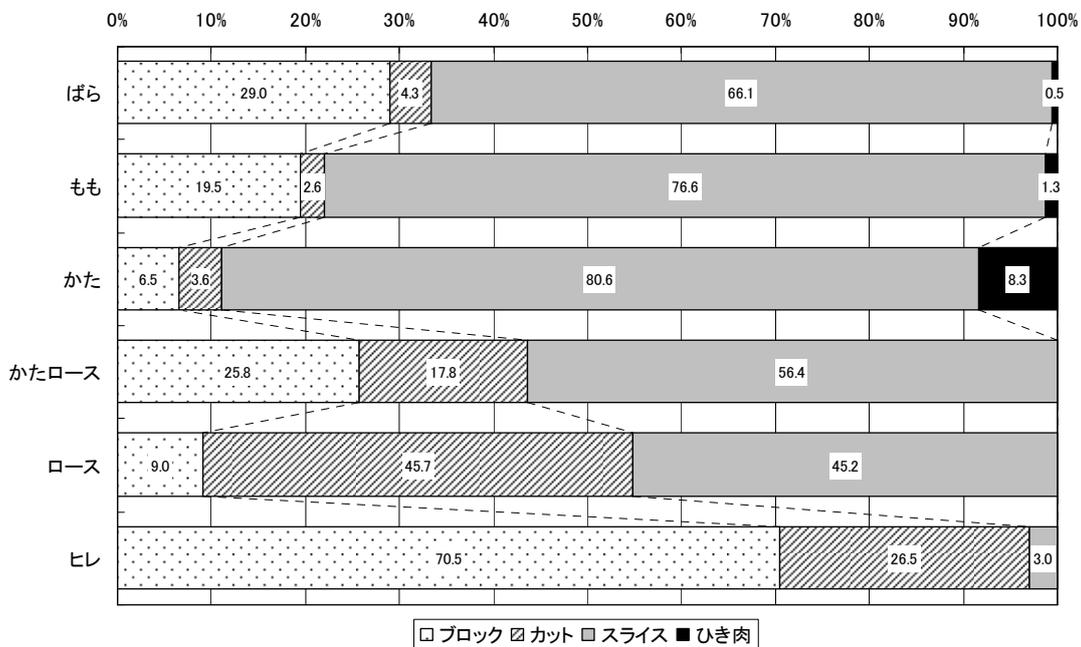


表 4-21 「輸入豚肉」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
ばら	186	54	8	123	1
	100.0	29.0	4.3	66.1	0.5
もも	77	15	2	59	1
	100.0	19.5	2.6	76.6	1.3
かた	108	7	5	87	9
	100.0	6.5	4.6	80.6	8.3
かたロース	163	42	29	92	-
	100.0	25.8	17.8	56.4	-
ロース	199	18	91	90	-
	100.0	9.0	45.7	45.2	-
ヒレ	132	93	35	4	-
	100.0	70.5	26.5	3.0	-
合計(累計)	865	229	170	455	11
	100.0	26.5	19.7	52.6	1.3

2. 3. 鶏肉の販売形態

● 鶏肉はどの部位もブロック中心の販売形態となった。

「ささみ」および「手羽」は、「ブロック」による販売形態がそれぞれ 96.6%、95.2%と 95%以上もあり、圧倒的に「ブロック」による販売が多かった。「むね肉」も「ブロック」による販売形態が 82.3%と最も多かったが、「カット」も 9.4%とそれなりのボリュームがあった。「もも肉」も「ブロック」による販売形態が最も多く、78.9%であったが、こちらも「カット」ウリが 17.3%とそれなりを占めていた。

図 4-119 「鶏肉」部位別販売形態

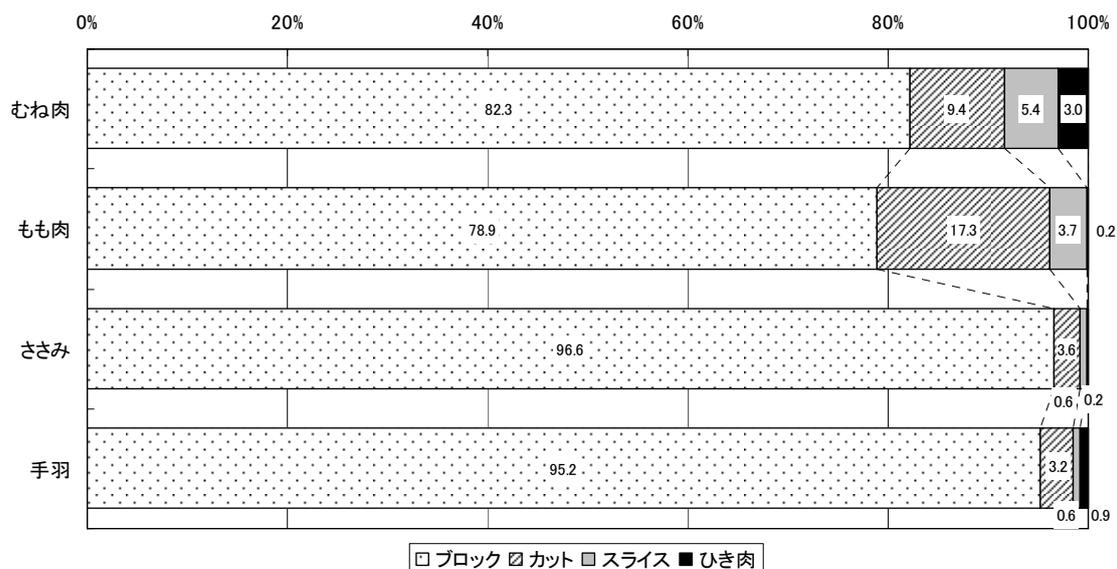


表 4-22 「鶏肉」部位別販売形態

部位別	総数	単位:店舗数、%			
		ブロック	カット	スライス	ひき肉
むね肉	541	445	51	29	16
	100.0	82.3	9.4	5.4	3.0
もも肉	568	448	98	21	1
	100.0	78.9	17.3	3.7	0.2
ささみ	505	488	13	3	1
	100.0	96.6	2.6	0.6	0.2
手羽	462	440	15	3	4
	100.0	95.2	3.2	0.6	0.9
合計(累計)	2,076	1,821	177	56	22
	100.0	87.7	8.5	2.7	1.1

3. 売れ行きのよい部位(重量ベース)

3. 1. 牛肉の売れ行きのよい部位

3. 1. 1. 「和牛肉」

● 「和牛肉」では、「もも」の売れ行きが最もよく、次いでほぼ同率で「かたロース」、「かた」が続く。

売れ行きの良い部位の1位、2位として挙げられものを合算すると、「もも」52.1%、「かたロース」39.5%、「かた」39.3%という順になった。

業態別に見ると、「総合スーパー」、「食肉専門店」では「もも」の売れ行きが最も良いが、「百貨店」、「食品スーパー」では、「かたロース」の売れ行きが良くなっている。

地域別に見ると、「北海道」で「サーロイン」の売れ行きが最も良くなっている点が極めて特徴的であった。

図 4-120 「和牛肉」の売れ行きの良い部位(N=438)

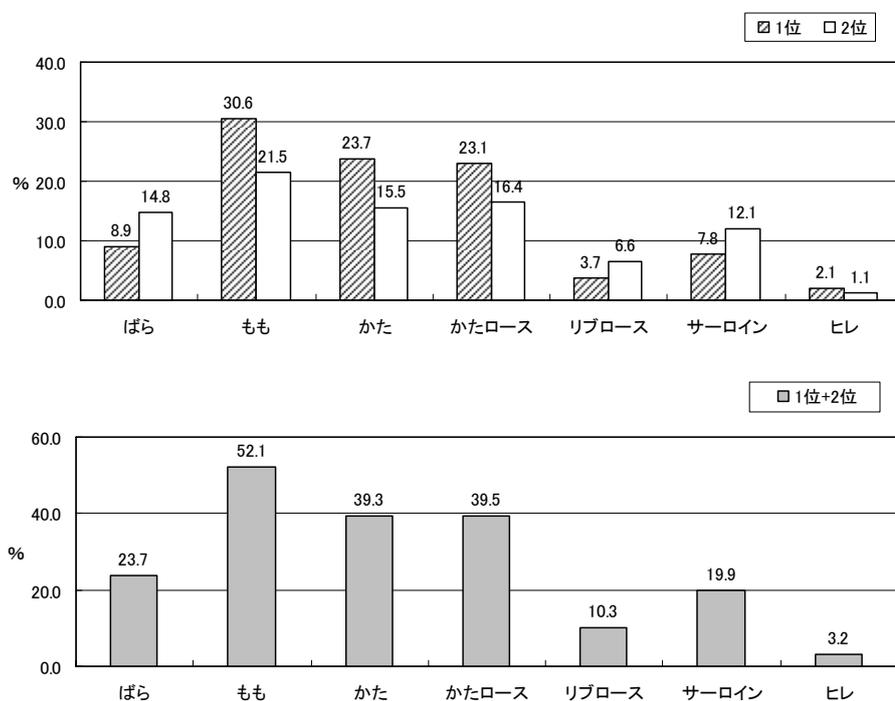


表 4-23 「和牛肉」の売れ行きの良い部位(1位+2位)

	総数	ばら	もも	かた	かたロース	リブロース	サーロイン	ヒレ
【業態別】								
百貨店	19	5.3%	42.1%	36.8%	47.4%	10.5%	36.8%	5.3%
総合スーパー	12	16.7%	58.3%	50.0%	50.0%	8.3%	16.7%	-
食品スーパー	159	30.2%	42.8%	39.6%	49.7%	7.5%	22.6%	1.9%
農協・生協ストア	12	50.0%	33.3%	41.7%	41.7%	-	16.7%	8.3%
食肉専門店	230	19.6%	60.4%	39.6%	32.2%	12.2%	16.1%	3.9%
その他	6	33.3%	33.3%	-	-	33.3%	50.0%	-
【地域別】								
北海道	14	21.4%	35.7%	14.3%	42.9%	21.4%	57.1%	-
東北	36	27.8%	52.8%	52.8%	16.7%	8.3%	11.1%	2.8%
関東	115	14.8%	50.4%	50.4%	40.9%	8.7%	18.3%	1.7%
北陸	39	20.5%	53.8%	23.1%	51.3%	10.3%	25.6%	-
東海	57	22.8%	56.1%	31.6%	45.6%	12.3%	17.5%	8.8%
近畿	67	23.9%	61.2%	40.3%	37.3%	10.4%	16.4%	4.5%
中国	27	33.3%	44.4%	29.6%	40.7%	14.8%	22.2%	7.4%
四国	6	66.7%	50.0%	-	66.7%	-	16.7%	-
九州・沖縄	46	37.0%	43.5%	45.7%	28.3%	13.0%	21.7%	2.2%
不明	31	22.6%	54.8%	32.3%	48.4%	3.2%	19.4%	-

3. 1. 2. 「国産乳用種」

● 「国産乳用種」では、「もも」の売れ行きが最もよく、次いで「かたローズ」、「ばら」が続く。

売れ行きのよい部位の 1 位、2 位として挙げられものを合算すると、「もも」42.2%、「かたローズ」38.0%、「ばら」32.3%という順になった。

業態別に見ると、「食肉専門店」では「もも」の売れ行きが最も良く、次いで「かたローズ」と、全体順位と似た構成になったが、「食品スーパー」は、「かたローズ」が最も売れ行きが良く、次いで「ばら」となった。

地域別に見ると、「北海道」、「東北」で「ばら」、「北陸」、「中国」で「かたローズ」、他の地域ではおおむね「もも」が最も売れ行きが良くなっていた。

図 4-121 「国産乳用種」の売れ行きのよい部位(N=192)

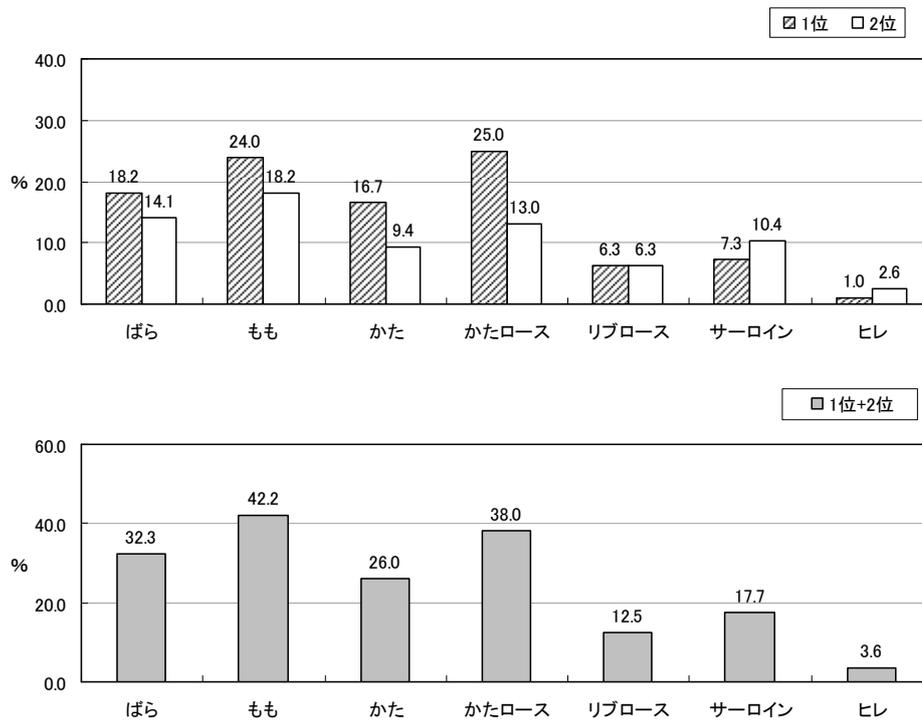


表 4-24 「国産乳用種」の売れ行きのよい部位(1 位+2 位)

	総数	ばら	もも	かた	かた ローズ	リブ ローズ	サーロ イン	ヒレ
【業態別】								
百貨店	5	-	20.0%	-	40.0%	40.0%	80.0%	-
総合スーパー	8	-	50.0%	50.0%	12.5%	12.5%	37.5%	12.5%
食品スーパー	110	43.6%	36.4%	32.7%	46.4%	6.4%	14.5%	0.9%
農協・生協ストア	12	33.3%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	16.7%	8.3%
食肉専門店	57	17.5%	52.6%	12.3%	28.1%	19.3%	15.8%	7.0%
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
【地域別】								
北海道	11	36.4%	18.2%	18.2%	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%
東北	15	53.3%	26.7%	26.7%	20.0%	6.7%	13.3%	-
関東	29	10.3%	58.6%	34.5%	48.3%	6.9%	10.3%	-
北陸	26	38.5%	30.8%	30.8%	57.7%	23.1%	15.4%	-
東海	28	14.3%	50.0%	25.0%	35.7%	10.7%	25.0%	7.1%
近畿	20	30.0%	55.0%	35.0%	25.0%	15.0%	15.0%	5.0%
中国	17	41.2%	23.5%	23.5%	52.9%	17.6%	23.5%	-
四国	7	57.1%	57.1%	-	14.3%	28.6%	14.3%	-
九州・沖縄	23	39.1%	47.8%	17.4%	39.1%	-	17.4%	8.7%
不明	16	43.8%	37.5%	25.0%	25.0%	6.3%	25.0%	6.3%

3. 1. 3. 「国産交雑種」

● 「国産交雑種」では、「もも」の売れ行きが最もよく、次いで「かたローズ」、「かた」が続く。

売れ行きのよい部位の 1 位、2 位として挙げられものを合算すると、「もも」45.3%、「かたローズ」40.2%、「かた」34.2%という順になった。

業態別に見ると、「百貨店」、「総合スーパー」、「食品スーパー」、「農協・生協ストア」で「かたローズ」が最も売れ行きが良くなっており、「食肉専門店」で「もも」の売れ行きが最も良くなった。

地域別に見ると、「もも」の売れ行きが最も良いという地域が、「北海道」、「関東」、「東海」、「近畿」、「四国」、「九州・沖縄」とほとんどであった。

図 4-122 「国産交雑種」の売れ行きのよい部位 (N=351)

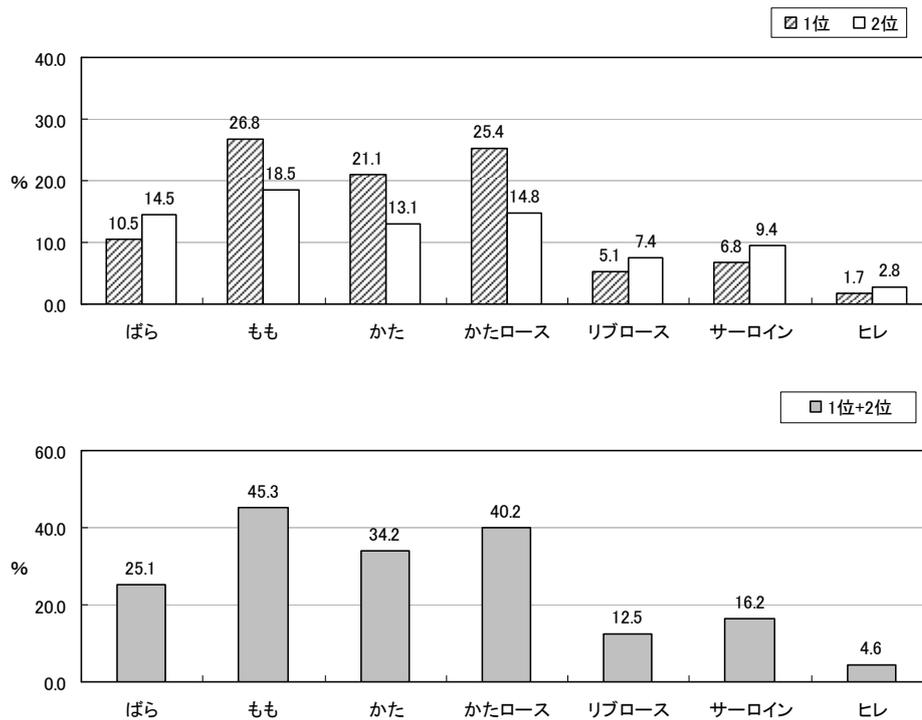


表 4-25 「国産交雑種」の売れ行きのよい部位 (1 位 + 2 位)

	総数	ばら	もも	かた	かた ローズ	リブ ローズ	サーロ イン	ヒレ
【業態別】								
百貨店	14	21.4%	35.7%	35.7%	42.9%	7.1%	35.7%	14.3%
総合スーパー	8	12.5%	50.0%	25.0%	75.0%	12.5%	12.5%	-
食品スーパー	147	26.5%	37.4%	45.6%	51.0%	9.5%	15.0%	2.0%
農協・生協ストア	15	46.7%	46.7%	20.0%	53.3%	-	13.3%	6.7%
食肉専門店	164	22.6%	53.7%	25.6%	28.0%	16.5%	15.9%	6.1%
その他	3	33.3%	-	33.3%	-	33.3%	33.3%	-
【地域別】								
北海道	13	23.1%	38.5%	30.8%	23.1%	23.1%	23.1%	7.7%
東北	23	30.4%	34.8%	60.9%	21.7%	4.3%	13.0%	4.3%
関東	97	17.5%	51.5%	45.4%	45.4%	7.2%	11.3%	1.0%
北陸	36	25.0%	36.1%	27.8%	52.8%	19.4%	16.7%	2.8%
東海	46	21.7%	52.2%	34.8%	34.8%	8.7%	17.4%	8.7%
近畿	35	22.9%	40.0%	28.6%	37.1%	20.0%	25.7%	5.7%
中国	23	34.8%	21.7%	30.4%	43.5%	26.1%	21.7%	8.7%
四国	10	40.0%	70.0%	-	60.0%	20.0%	10.0%	-
九州・沖縄	41	31.7%	48.8%	22.0%	43.9%	2.4%	12.2%	7.3%
不明	27	33.3%	48.1%	22.2%	25.9%	22.2%	22.2%	3.7%

3. 1. 4. 「米国产牛肉」

● 「米国产牛肉」では、「ばら」の売れ行きが最もよく、次いで「かたロース」、「もも」が続く。

売れ行きの良い部位の1位、2位として挙げられものを合算すると、「ばら」53.2%、「かたロース」45.7%、「もも」17.0%という順になった。但し、「かたロース」は1位として39.4%もが挙げられていることから、1位と2位との合算値では劣るものの、実際は「ばら」以上に売れ行きが良くなっていることも考えられる。また、国産牛肉ではどの種類においても「もも」の売れ行きが最も良かったが、輸入牛肉においては3番目のポジションとなった。

業態別に見ると、今回回答を得た「百貨店」、「農協・生協ストア」では、「米国产牛肉」を取り扱っていないことがわかる。

地域別に見ると、「ばら」と「かたロース」の売れ行きがよくなっていることがわかる。

図 4-123 「米国产牛肉」の売れ行きの良い部位 (N=94)

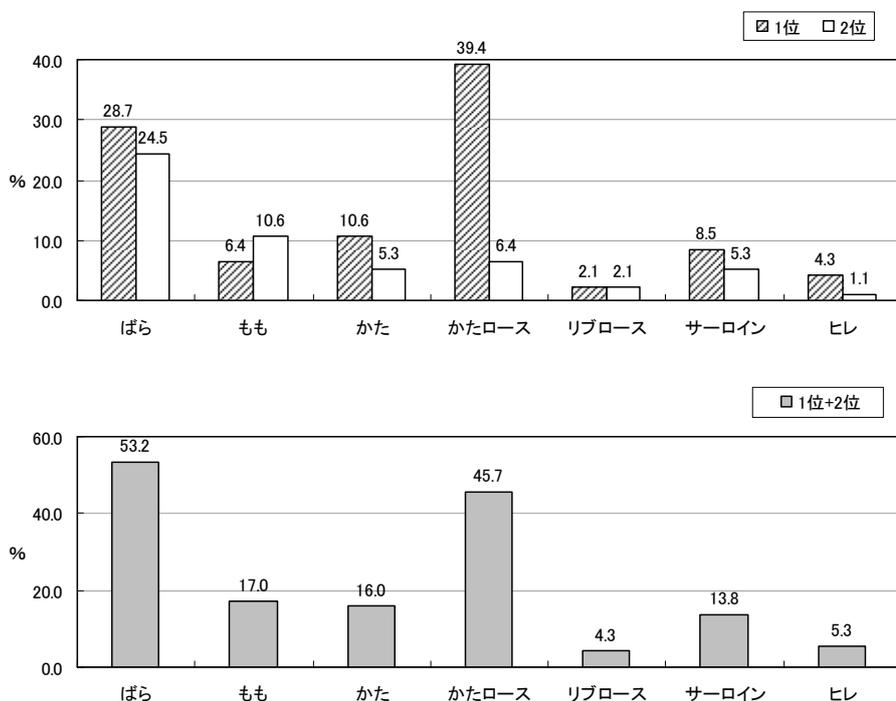


表 4-26 「米国产牛肉」の売れ行きの良い部位 (1位+2位)

	総数	ばら	もも	かた	かた ロース	リブ ロース	サーロ イン	ヒレ
【業態別】								
百貨店	-	-	-	-	-	-	-	-
総合スーパー	7	71.4%	-	-	42.9%	-	14.3%	-
食品スーパー	51	51.0%	17.6%	19.6%	60.8%	2.0%	11.8%	-
農協・生協ストア	-	-	-	-	-	-	-	-
食肉専門店	35	51.4%	20.0%	11.4%	25.7%	8.6%	17.1%	14.3%
その他	1	100.0%	-	100.0%	-	-	-	-
【地域別】								
北海道	10	60.0%	10.0%	10.0%	60.0%	-	20.0%	-
東北	17	70.6%	17.6%	11.8%	29.4%	5.9%	23.5%	-
関東	17	35.3%	23.5%	29.4%	70.6%	-	11.8%	-
北陸	6	66.7%	-	16.7%	33.3%	-	-	33.3%
東海	19	57.9%	10.5%	10.5%	36.8%	15.8%	10.5%	5.3%
近畿	5	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	-	-	-
中国	4	100.0%	-	-	25.0%	-	25.0%	-
四国	-	-	-	-	-	-	-	-
九州・沖縄	12	41.7%	25.0%	16.7%	41.7%	-	16.7%	16.7%
不明	4	-	25.0%	25.0%	75.0%	-	-	-

3. 1. 5. 「豪州産牛肉」

● 「豪州産牛肉」では、「かたロース」の売れ行きが最もよく、次いで「ばら」、「もも」、「かた」が続く。

売れ行きのよい部位の 1 位、2 位として挙げられものを合算すると、「かたロース」38.0%、「ばら」37.5%、「もも」34.7%、「かた」30.6%という順になった。上位 4 つのそれぞれの部位には、大きな売れ行きの違いはない状況であった。

業態別に見ると、売れ行きが最も良い部位は、「百貨店」が「かた」、「総合スーパー」が「サーロイン」、「食品スーパー」と「農協・生協ストア」が「かたロース」、「食肉専門店」が「もも」と業態によって分散する形となった。

地域別に見ると、売れ行きが最も良い部位は、「ばら」、「もも」、「かたロース」に分散した。

図 4-124 「豪州産牛肉」の売れ行きのよい部位(N=216)

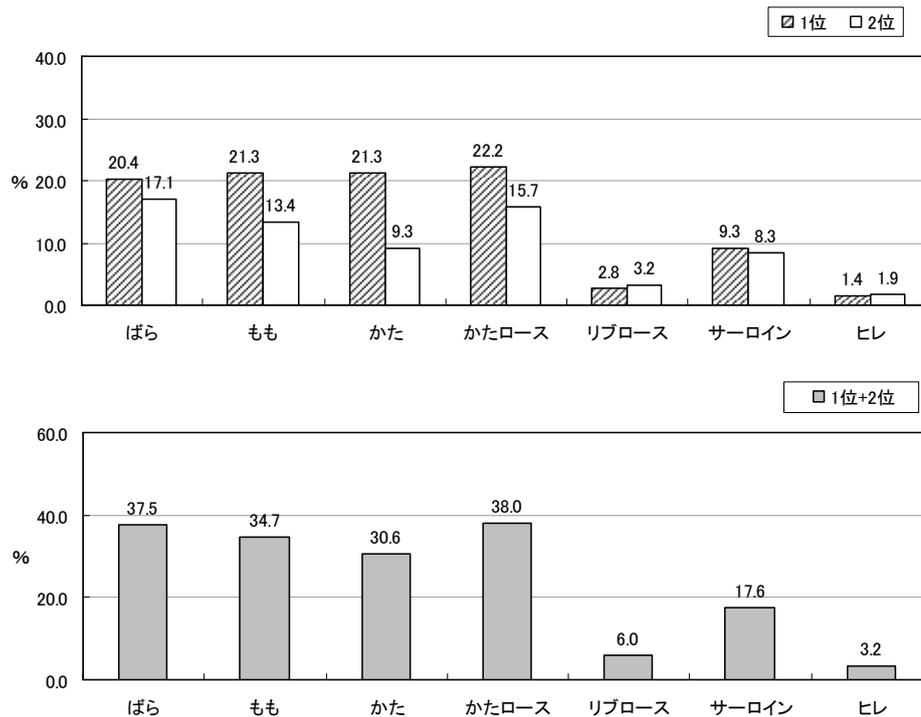


表 4-27 「豪州産牛肉」の売れ行きのよい部位(1 位+2 位)

	総数	ばら	もも	かた	かた ロース	リブ ロース	サーロ イン	ヒレ
【業態別】								
百貨店	3	33.3%	-	66.7%	-	-	33.3%	-
総合スーパー	9	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	11.1%	55.6%	-
食品スーパー	132	39.4%	33.3%	40.2%	43.9%	3.0%	15.2%	0.8%
農協・生協ストア	8	50.0%	12.5%	-	62.5%	-	25.0%	-
食肉専門店	61	34.4%	42.6%	14.8%	24.6%	13.1%	16.4%	9.8%
その他	3	33.3%	100.0%	-	-	-	-	-
【地域別】								
北海道	12	58.3%	25.0%	25.0%	33.3%	8.3%	8.3%	-
東北	22	45.5%	36.4%	22.7%	36.4%	9.1%	9.1%	-
関東	55	32.7%	27.3%	38.2%	49.1%	3.6%	25.5%	-
北陸	23	30.4%	39.1%	17.4%	43.5%	4.3%	4.3%	4.3%
東海	31	41.9%	22.6%	25.8%	45.2%	6.5%	22.6%	6.5%
近畿	20	20.0%	50.0%	30.0%	25.0%	10.0%	35.0%	5.0%
中国	12	33.3%	33.3%	25.0%	41.7%	-	16.7%	8.3%
四国	3	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	-	-	-
九州・沖縄	23	52.2%	39.1%	39.1%	17.4%	4.3%	8.7%	8.7%
不明	15	33.3%	53.3%	40.0%	26.7%	13.3%	13.3%	-

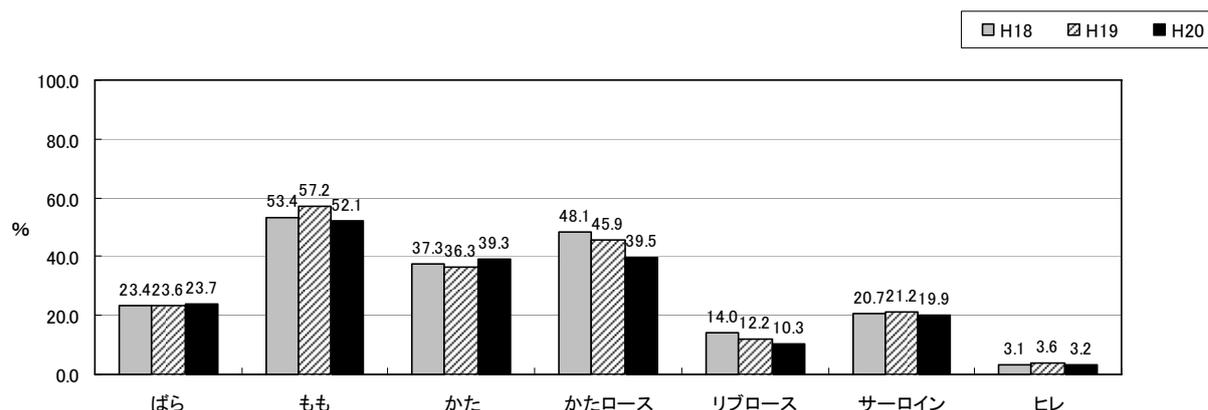
3. 2. 経年比較からみた牛肉の売れ行きのよい部位

3. 2. 1. 「和牛肉」

● 「かた」が微増したが、他の部位は横ばいもしくは減少傾向。

「和牛肉」の売れ行きの良い部位の順位が、「もも」、「かたロース」、「かた」という順は変わらなかった。但し、これまで「かたロース」と「かた」との間に差があったが、今回調査ではほぼ同率となった。

図 4-125 「和牛肉」の売れ行きの良い部位(経年比較)

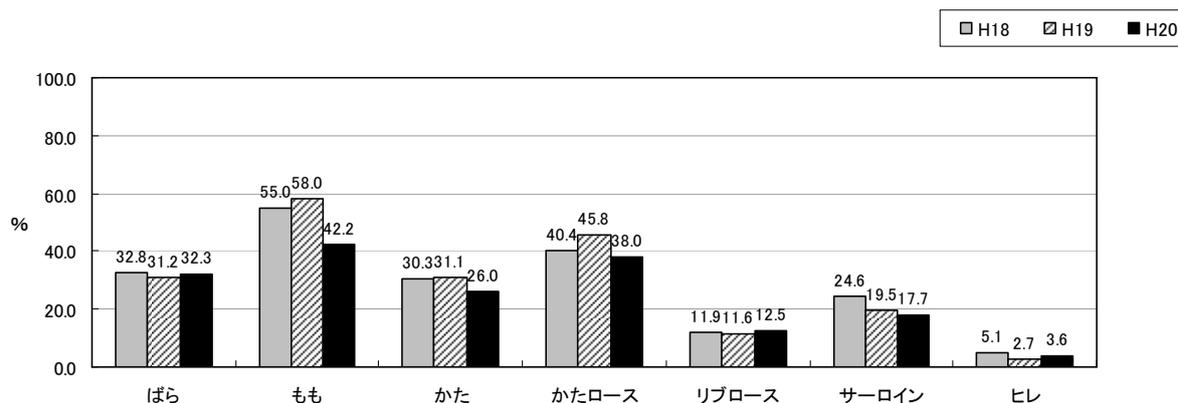


3. 2. 2. 「国産乳用種」

● 「もも」が大きく減少し、「ばら」、「リブロース」、「ヒレ」が微増した。

「国産乳用種」の売れ行きの良い順位は、これまで同様、「もも」、「かたロース」、「ばら」の順で変わりはなかったが、「もも」が前年より大きく落ちて、突出した 1 位のポジションではなくなりつつある。「かた」も前年は、「ばら」とほぼ同率であったが、今回は若干落ち、単独 4 位のポジションとなった。

図 4-126 「国産乳用種」の売れ行きの良い部位(経年比較)

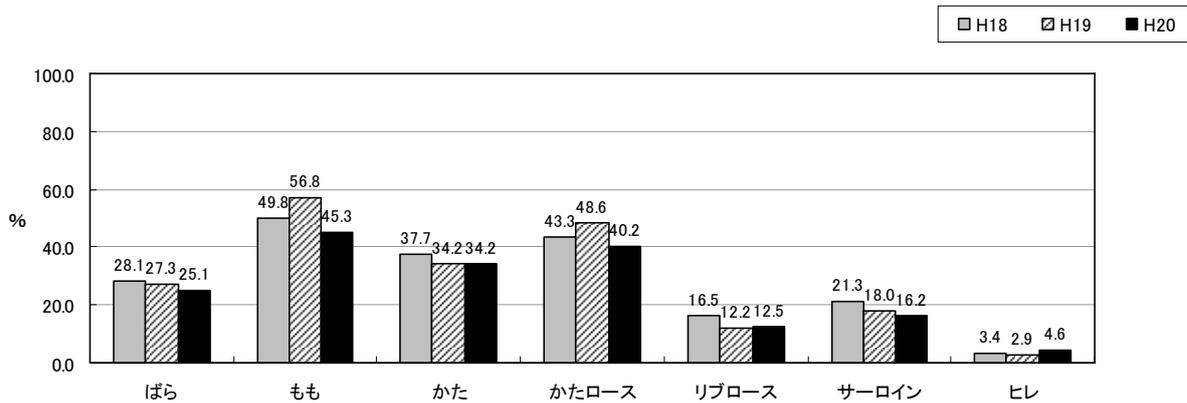


3. 2. 3. 「国産交雑種」

- 「もも」、「かたローズ」が大きく減少し、「リブローズ」、「ヒレ」が微増した。

「国産交雑種」の売れ行きの良い順位も、これまで同様、「もも」、「かたローズ」、「かた」の順で変わりはなかったが、「国産乳用種」同様、「もも」が前年より大きく落ちて、突出した 1 位のポジションではなくなりつつある。

図 4-127 「国産交雑種」の売れ行きのおよ部位(経年比較)

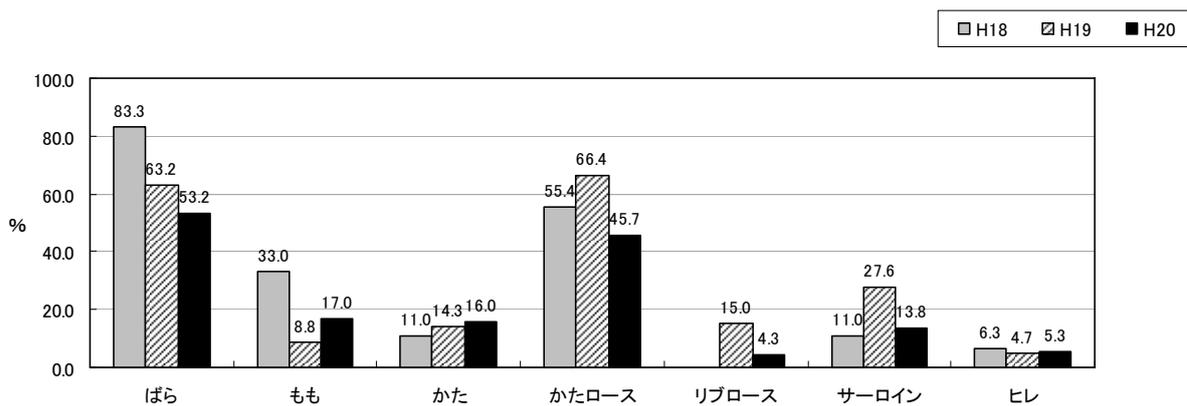


3. 2. 4. 「米国産牛肉」

- 「もも」が増加、「かた」が微増、「ばら」、「かたローズ」、「サーロイン」が大きく減少した。

「米国産牛肉」の売れ行きの良い順位は、これまでの「かたローズ」、「ばら」、「サーロイン」から、今回は「ばら」、「かたローズ」、「もも」と変化した。「ばら」は年々大きく下がってきており、2 年前には 8 割以上もあったが、現在では 53.2%になっている。「サーロイン」は前年のみ突出して 27.6%と高くなったが、今回は 2 年前と同様の水準である 13.8%となった。

図 4-128 「米国産牛肉」の売れ行きのおよ部位(経年比較)

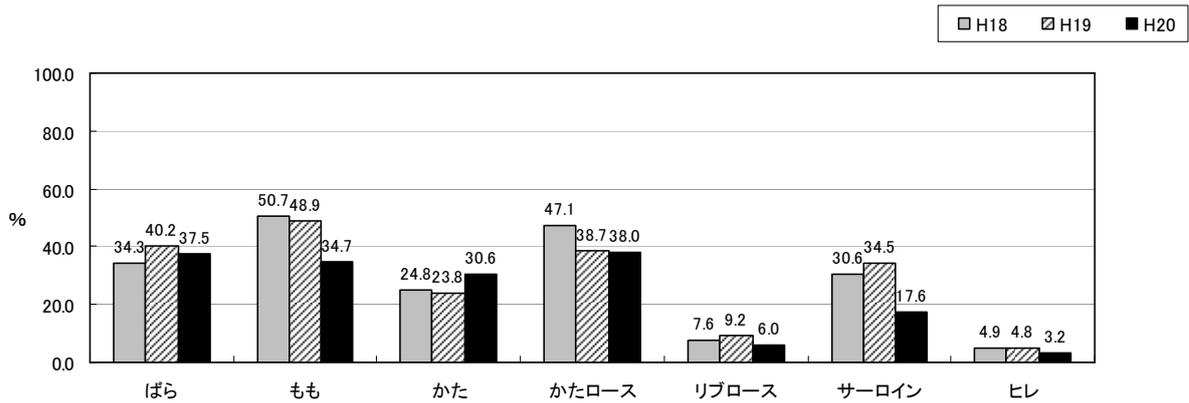


3. 2. 5. 「豪州産牛肉」

- 「かた」が増加したが、他の部位は全て横ばいもしくは減少した。

「豪州産牛肉」の売れ行きの良い順位は、これまでの「もも」、「ばら」、「かたロース」から、今回は「かたロース」、「ばら」、「もも」と変化した。「もも」は今回 14.2 ポイントと大きく下げ、3 位となった。「サーロイン」も 16.9 ポイントと大きく下げた。

図 4-129 「豪州産牛肉」の売れ行きの良い部位(経年比較)



3. 3. 豚肉の売れ行きの良い部位

- 「豚肉」では、「ばら」の売れ行きが最もよく、次いで「ロース」、「かたロース」が続く。

売れ行きの良い部位の 1 位、2 位合算値は、「ばら」58.7%、「ロース」41.8%、「かたロース」39.1%であった。業態別に見ると、「総合スーパー」で「かた」の売れ行きが最も高くなっている点が特徴的であった。地域別に見ると、ほとんどの地域で「ばら」の売れ行きが最も良くなっていた。

図 4-130 「豚肉」の売れ行きの良い部位(N=593)

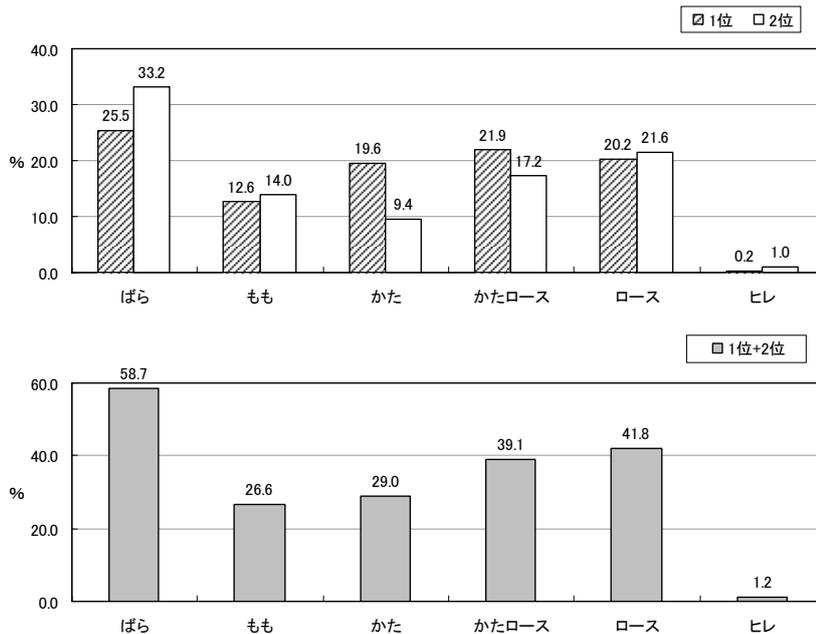


表 4-28 「豚肉」の売れ行きのよい部位(1位+2位)

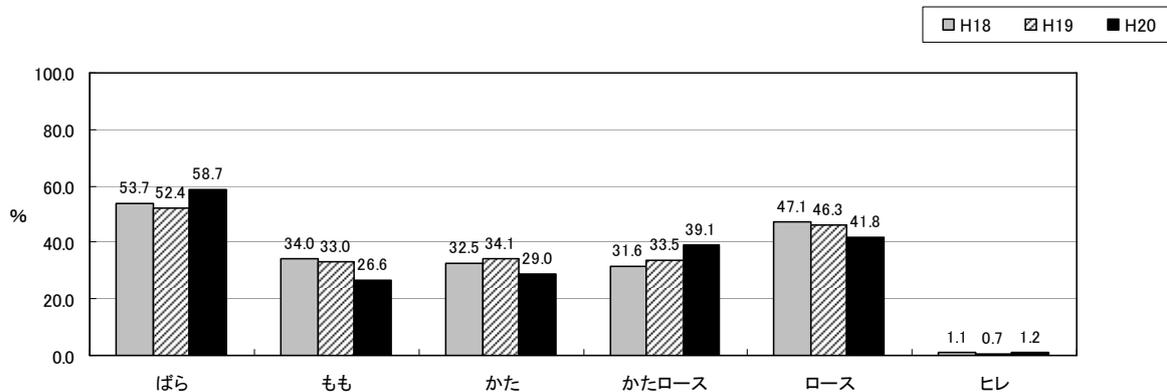
	総数	ばら	もも	かた	かた コース	コース	ヒレ
【業態別】							
百貨店	20	35.0%	10.0%	35.0%	40.0%	80.0%	-
総合スーパー	15	46.7%	33.3%	66.7%	20.0%	33.3%	-
食品スーパー	211	56.4%	32.2%	43.1%	29.9%	36.0%	0.9%
農協・生協ストア	24	75.0%	41.7%	45.8%	8.3%	29.2%	-
食肉専門店	312	61.9%	22.1%	16.7%	49.0%	43.9%	1.3%
その他	11	36.4%	36.4%	9.1%	27.3%	63.6%	9.1%
【地域別】							
北海道	23	73.9%	21.7%	17.4%	43.5%	39.1%	-
東北	51	68.6%	27.5%	31.4%	45.1%	27.5%	-
関東	161	57.8%	21.1%	28.6%	47.2%	41.6%	-
北陸	65	49.2%	40.0%	30.8%	38.5%	33.8%	1.5%
東海	68	61.8%	20.6%	29.4%	35.3%	48.5%	-
近畿	73	54.8%	13.7%	20.5%	39.7%	63.0%	2.7%
中国	38	65.8%	42.1%	28.9%	26.3%	31.6%	2.6%
四国	11	72.7%	27.3%	27.3%	27.3%	36.4%	9.1%
九州・沖縄	58	46.6%	37.9%	39.7%	24.1%	44.8%	3.4%
不明	45	64.4%	31.1%	31.1%	40.0%	33.3%	-

3. 3. 経年変化からみた豚肉の売れ行きの良い部位

● 「ばら」、「かたコース」が増加し、他の部位は減少した。

「豚肉」の売れ行きの良い順位は、これまでの「ばら」、「コース」、「かた」から、今回は「ばら」、「コース」、「かたコース」と変化した。「もも」や「コース」は、年々率が減少しているが、逆に「かたコース」は年々増加しており、近年、「かたコース」売れ行きが良くなってきていることがわかる。

図 4-131 「豚肉」の売れ行きの良い部位(N=593)



3. 4. 鶏肉の売れ行きのよい部位

● 「鶏肉」では、「もも肉」の売れ行きが突出して良い。

売れ行きの良い部位の1位、2位合算値は、「もも肉」99.1%、「むね肉」70.3%であった。
業態別に見ても、地域別に見ても、「もも肉」の売れ行きの良さが圧倒的であった。

図 4-132 「鶏肉」の売れ行きの良い部位 (N=575)

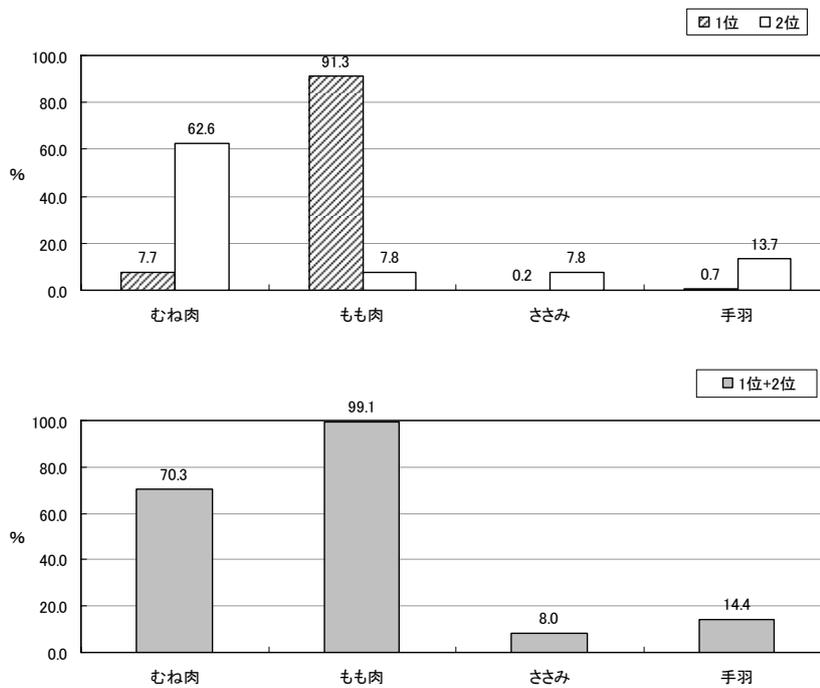


表 4-29 「鶏肉」の売れ行きの良い部位(1位+2位)

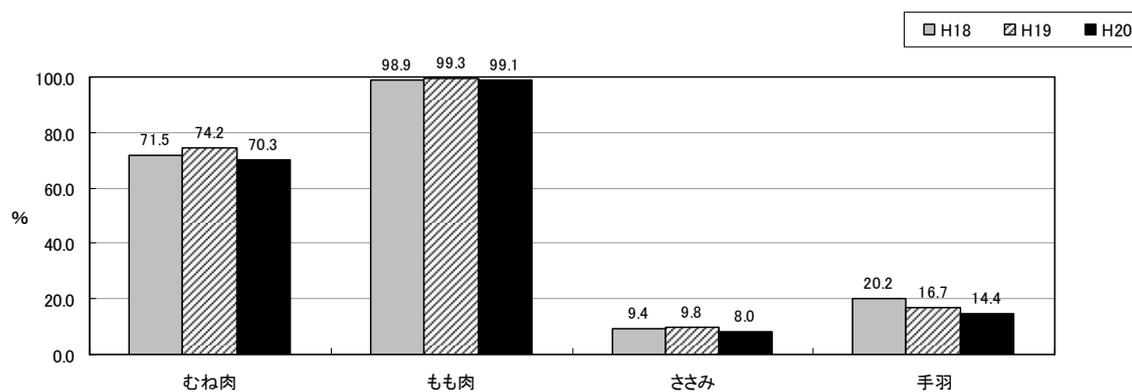
	総数	むね肉	もも肉	ささみ	手羽
【業態別】					
百貨店	15	60.0%	100.0%	20.0%	20.0%
総合スーパー	14	78.6%	100.0%	-	21.4%
食品スーパー	210	79.0%	99.5%	6.2%	14.8%
農協・生協ストア	25	88.0%	96.0%	12.0%	4.0%
食肉専門店	299	62.9%	99.3%	9.0%	14.4%
その他	12	66.7%	91.7%	-	16.7%
【地域別】					
北海道	24	83.3%	95.8%	8.3%	12.5%
東北	52	90.4%	100.0%	1.9%	3.8%
関東	166	77.7%	98.8%	7.8%	7.2%
北陸	63	84.1%	98.4%	6.3%	3.2%
東海	65	63.1%	98.5%	12.3%	20.0%
近畿	46	41.3%	100.0%	13.0%	26.1%
中国	39	56.4%	100.0%	10.3%	25.6%
四国	11	72.7%	100.0%	9.1%	18.2%
九州・沖縄	60	51.7%	100.0%	5.0%	40.0%
不明	49	69.4%	100.0%	8.2%	6.1%

3. 5. 経年変化からみた鶏肉の売れ行きのよい部位

● 「もも肉」は横ばい、他の部位は減少した。

「鶏肉」の売れ行きの良い順位は、これまでの「もも肉」、「むね肉」から変化はなかった。「手羽」は年々率が減少してきている。

図 4-133 「鶏肉」の売れ行きのよい部位 (N=575)



4. 売れ行きのよい種類・JAS 規格品

4. 1. 和牛肉の売れ行きのよい種類

4. 1. 1. 和牛肉各種の現在の売れ行き

- 「よく売れている」という回答率が最も高かったのが「黒毛和種」で、「あまり売れていない」という回答率が最も高かったのが「日本短角種」であった

今回より、和牛肉の種類ごとの売れ行きについても調査することとした。

「よく売れている」を 1 ポイント、「どちらとも言えない」を 0 ポイント、「あまり売れていない」を-1 ポイントとし、加重平均をとった数値を平均ポイントとして表 4-30 に掲載している。いずれの種類もマイナスとなっていることから、現在の和牛肉全体の売れ行きが低迷している状況にあることがわかる。

図 4-134 和牛肉各種の現在の売れ行き

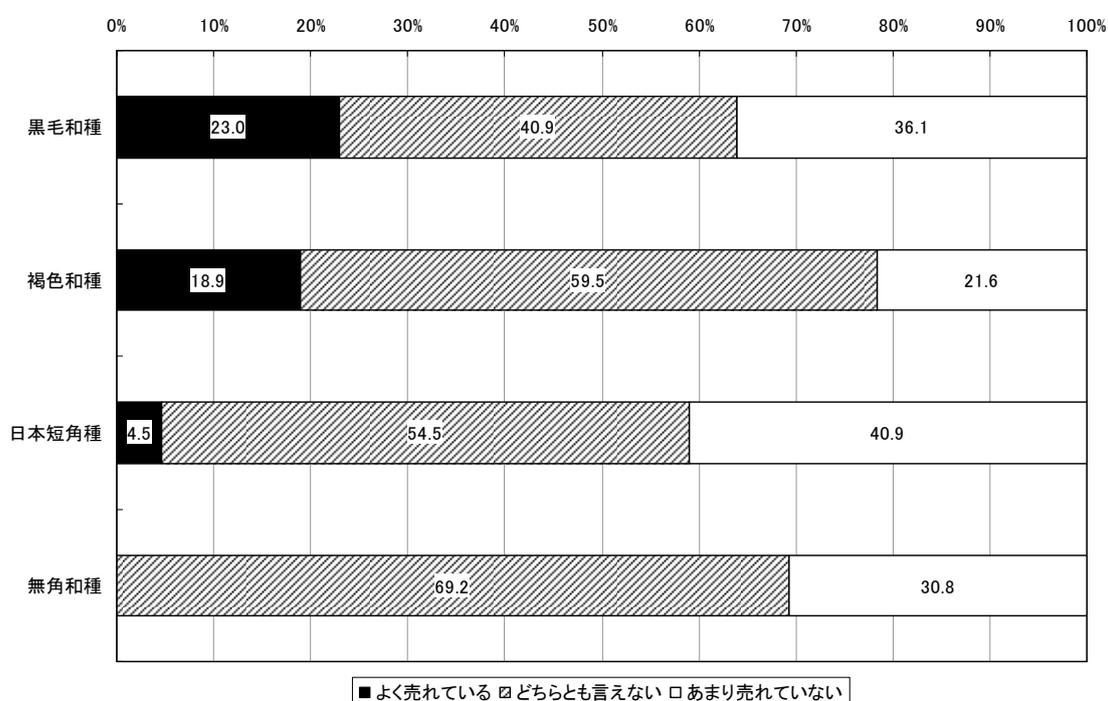


表 4-30 和牛肉各種の現在の売れ行き

(単位: %)

	総数	よく売れている	どちらとも言えない	あまり売れていない	平均ポイント
黒毛和種	443	23.0	40.9	36.1	-0.13
褐色和種	37	18.9	59.5	21.6	-0.03
日本短角種	22	4.5	54.5	40.9	-0.36
無角和種	13	0.0	69.2	30.8	-0.31

4. 1. 2. 和牛肉各種の今後の売れ行き

- 「売上増加の見込み」という回答率が最も高かったのが「褐色和種」で、「売上減少の見込み」という回答率が最も高かったのが「黒毛和種」であった

現在の売れ行き同様、「売上増加の見込み」を1ポイント、「売上変化なしの見込み」を0ポイント、「売上減少の見込み」を-1ポイントとし、加重平均をとった数値を平均ポイントとして表4-31に掲載している。こちらについても、いずれの種類もマイナスとなっていることから、今後の和牛肉全体の売れ行きが低迷していく状況にあることがわかる。

図 4-135 和牛肉各種の今後の売れ行き

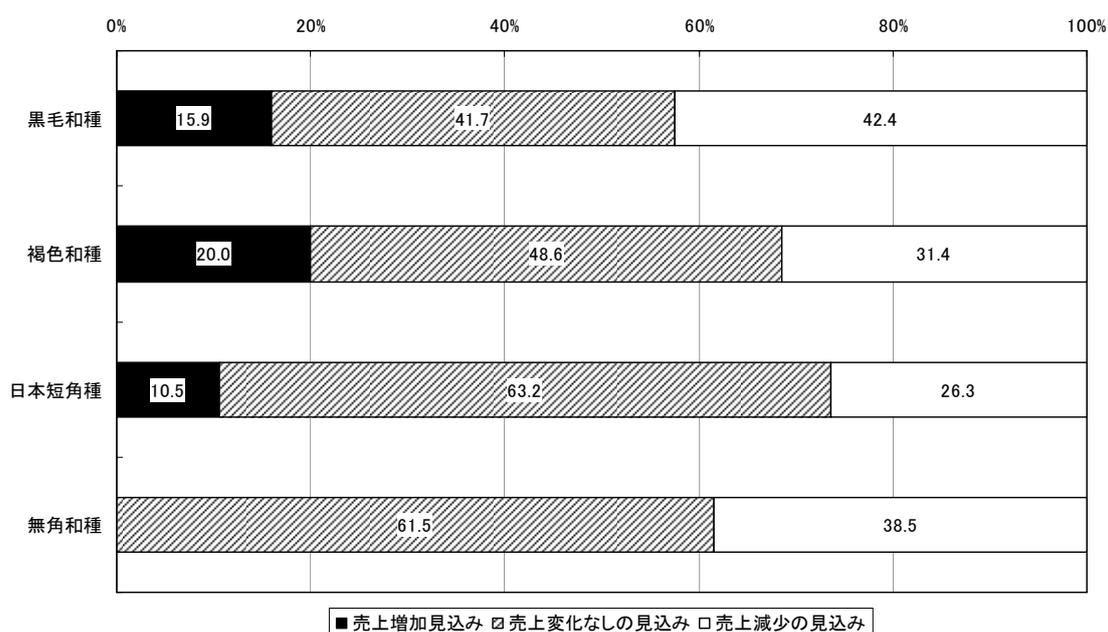


表 4-31 和牛肉各種の今後の売れ行き

(単位: %)

	総数	売上増加見込み	売上変化なしの見込み	売上減少の見込み	平均ポイント
黒毛和種	415	15.9	41.7	42.4	-0.27
褐色和種	35	20.0	48.6	31.4	-0.11
日本短角種	19	10.5	63.2	26.3	-0.16
無角和種	13	0.0	61.5	38.5	-0.38

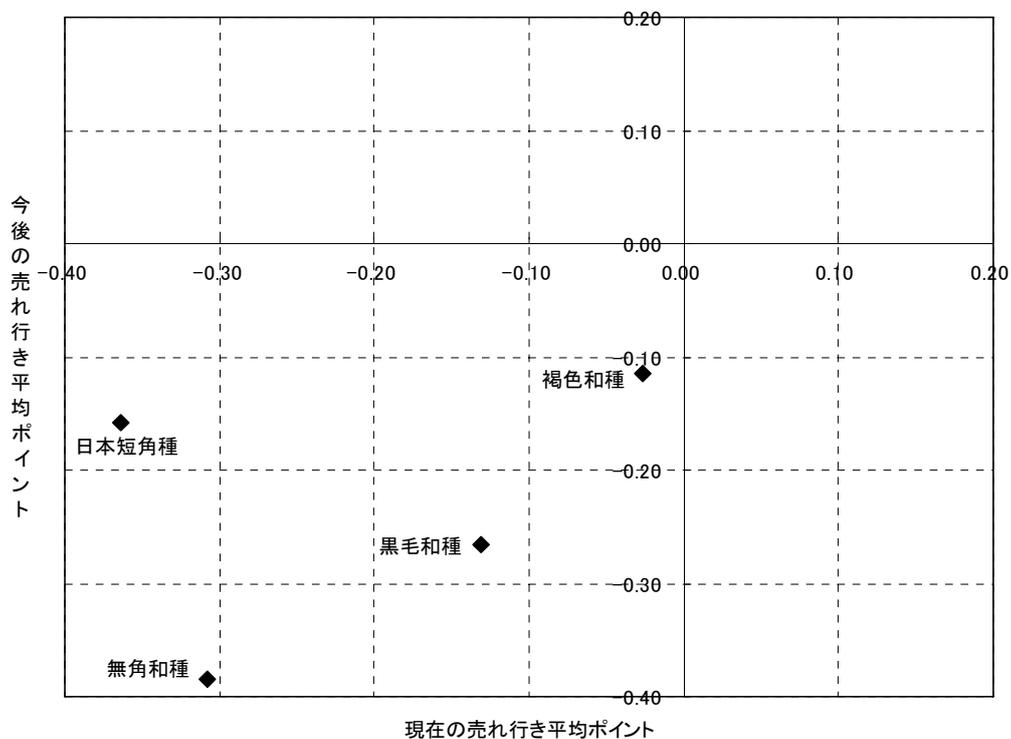
4. 1. 3. 和牛肉各種の現在の売れ行き・今後の売れ行きマトリックス

- 和牛肉は種類に関わらず現在の売れ行きが良くなく、今後の売れ行きも良くなる見込みがないが、「褐色和種」が他の種類と比較すると減少幅が低くなる可能性がある。

前述の和牛肉の種類別現在の売れ行きおよび今後の売れ行きからも明らかなように、種類に関わらず、和牛肉は現在売れ行きが芳しくなく、今後の売れ行きも期待できない悲観的な状況となっている。おそらくは、米国の金融不安に端を発した先行き不透明な不況感が、消費者を低価格志向に走らせていると販売店が判断していることが想定される。

現在の売れ行きをX軸に、今後の売れ行きをY軸に表した和牛肉各種の売れ行きマップを図4-136に示す。マップ上、右上の位置にあるほど、現在の売れ行きが良く、今後も期待できる和牛肉の種類となるが、今回調査では、現在、今後いずれもマイナスの数値となった。よってよいとは明確にいえないものの、相対的には右上のポジションにある「褐色和種」が、今後期待が持てるというよりも、減少が少なくてすみそうと考えることはできる。

図 4-136 和牛肉各種の現在の売れ行き・今後の売れ行きマトリックス



4. 2. JAS 規格品の売れ行き

4. 2. 1. JAS 規格品の認知状況

● 有機 JAS 規格品は食肉の種類に関わらず、認知率が 50%に満たなかった。

今回調査より JAS 規格品の認知状況や売れ行きについても調査することとした。

有機 JAS 規格品の認知率(「詳しく知っている」率+「知っている」率)が、牛肉 36.3%、豚肉 37.4%、鶏肉 35.5%、いずれも半数に満たない認知率となっており、有機 JAS 規格品が浸透していないことが想定された。生産情報公表 JAS 規格品は、牛肉が 60.6%、豚肉が 54.5%といずれも半数は超えたものの、十分とはいえない認知状況となった。特定 JAS 規格品は、地鶏だけが 43.4%と突出して低いが、熟成ハムが 61.0%、熟成ソーセージが 59.8%、熟成ベーコンが 60.6%と他は半数を超えている。こちらも十分とはいえない認知状況である。

図 4-137 JAS 規格品の認知状況

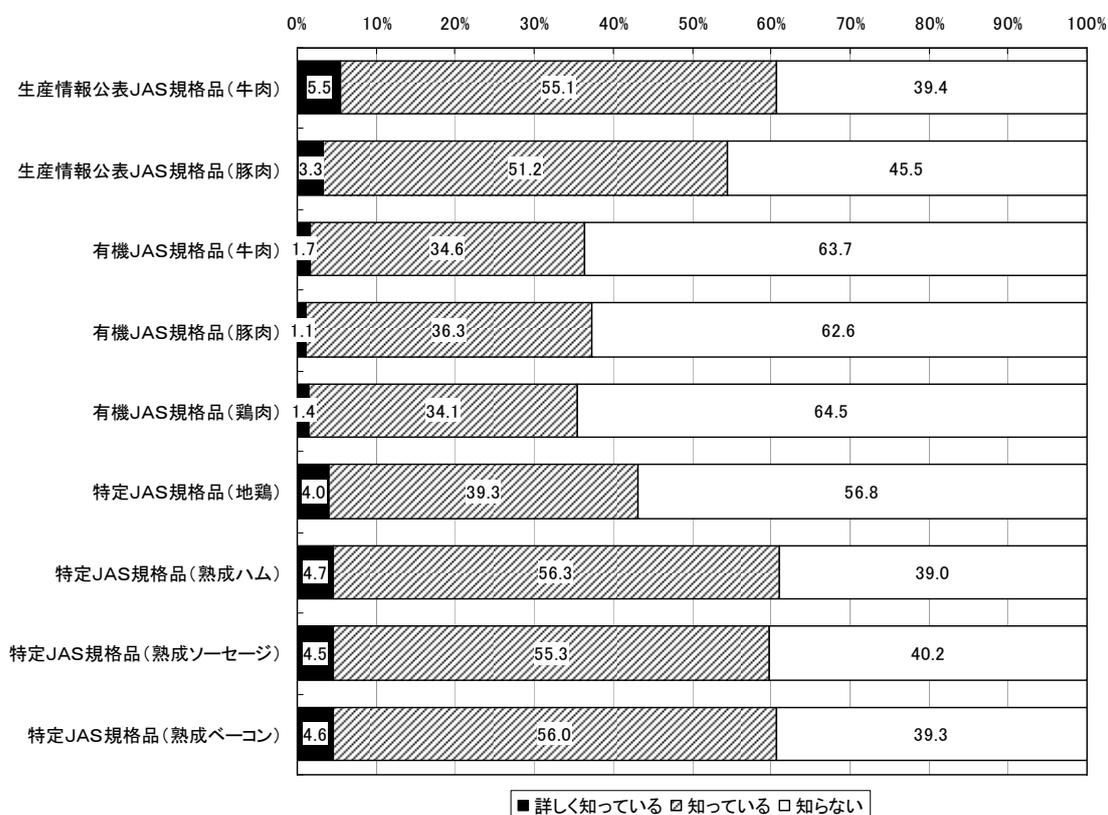


表 4-32 JAS 規格品の認知状況

規格品	(単位:%)			
	総数	詳しく知っている	知っている	知らない
生産情報公表JAS規格品(牛肉)	437	5.5	55.1	39.4
生産情報公表JAS規格品(豚肉)	422	3.3	51.2	45.5
有機JAS規格品(牛肉)	358	1.7	34.6	63.7
有機JAS規格品(豚肉)	364	1.1	36.3	62.6
有機JAS規格品(鶏肉)	358	1.4	34.1	64.5
特定JAS規格品(地鶏)	354	4.0	39.3	56.8
特定JAS規格品(熟成ハム)	387	4.7	56.3	39.0
特定JAS規格品(熟成ソーセージ)	378	4.5	55.3	40.2
特定JAS規格品(熟成ベーコン)	389	4.6	56.0	39.3

4. 2. 2. JAS 規格品の現在の取扱量

● JAS 規格品の中で、最も取扱量が多かったのが生産情報公表 JAS 規格品(豚肉)であった。

現在の取扱量を見ると、「生産情報公表 JAS 規格品(豚肉)」が 680.0kg と最も多く、次いで「特定 JAS 規格品(熟成ソーセージ)」の 534.0kg となった。

一方、量に関わらず、取り扱っている店舗数としては、「特定 JAS 規格品(熟成ハム)」が 55 店舗、「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」が 54 店舗、「特定 JAS 規格品(熟成ベーコン)」が 50 店舗であった。

図 4-138 JAS 規格品の現在の取扱量

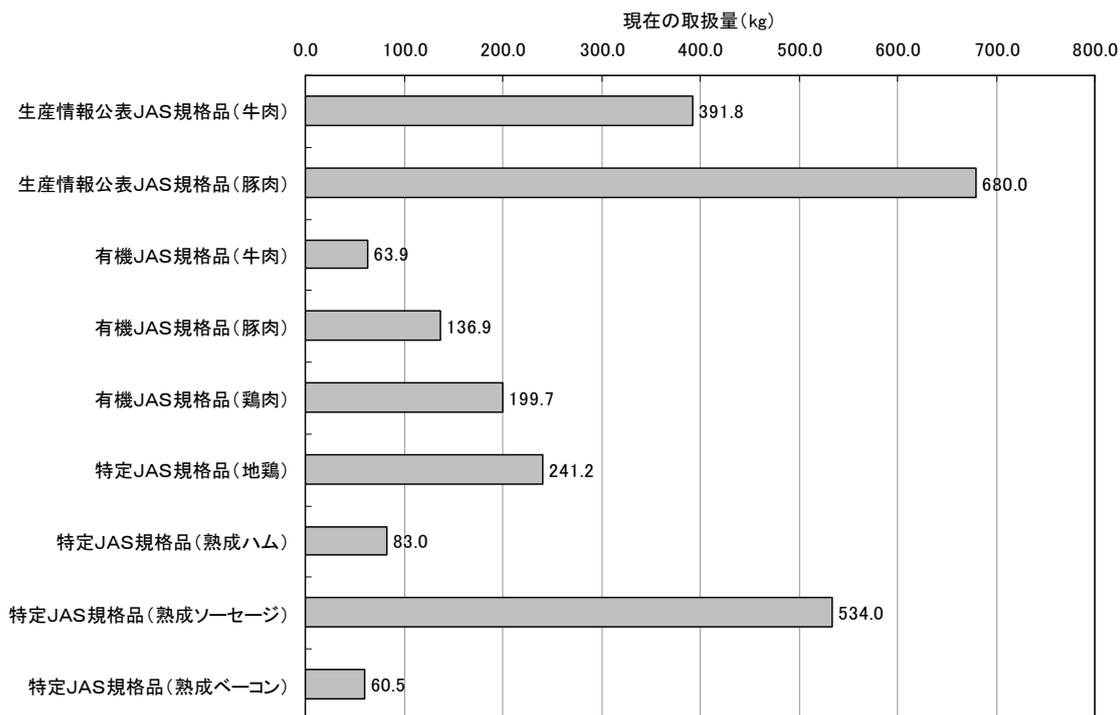


表 4-33 JAS 規格品の現在の取扱量

規格品名	(単位:kg)	
	総数	現在の平均取扱量
生産情報公表JAS規格品(牛肉)	54	391.8
生産情報公表JAS規格品(豚肉)	46	680.0
有機JAS規格品(牛肉)	22	63.9
有機JAS規格品(豚肉)	26	136.9
有機JAS規格品(鶏肉)	36	199.7
特定JAS規格品(地鶏)	34	241.2
特定JAS規格品(熟成ハム)	55	83.0
特定JAS規格品(熟成ソーセージ)	48	534.0
特定JAS規格品(熟成ベーコン)	50	60.5

4. 2. 3. JAS 規格品の今後の取扱量

- JAS 規格品の今後の取扱量は、「変わらない」の回答率がどの商品についても 7 割近くであったが、平均ポイントは全ての商品についてマイナスとなった。

JAS 規格品の今後の取扱量については、いずれの商品においても「変わらない」という回答が最も多かった。「増える」という回答が最も多かったのが、「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」であったが、わずかに 3.2%であった。「やや増える」という回答が最も多かったのは「特定 JAS 規格品(地鶏)」で、12.3%あった。一方、「減る」という回答は、いずれの商品でも 6%以上は存在し、「増える」が最も多かった「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」が 9.5%と最も多くなった。「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」の今後の売れ行きの予測が店舗によって分散していることが想定された。

また、「増える」を 2 ポイント、「やや増える」を 1 ポイント、「変わらない」を 0 ポイント、「やや減る」を-1 ポイント、「減る」を-2 ポイントとして加重平均したものを、平均ポイントとして表 4-34 に示した。全ての平均ポイントがマイナスとなったため、全ての商品の今後の取扱量が減少することを示している。比較して最も平均ポイントが高かったのは、「特定 JAS 規格品(地鶏)」の-0.04 ポイントで、最も低かったのが「生産情報公表 JAS 規格品(牛肉)」の-0.15 ポイントであった。

図 4-139 JAS 規格品の今後の取扱量

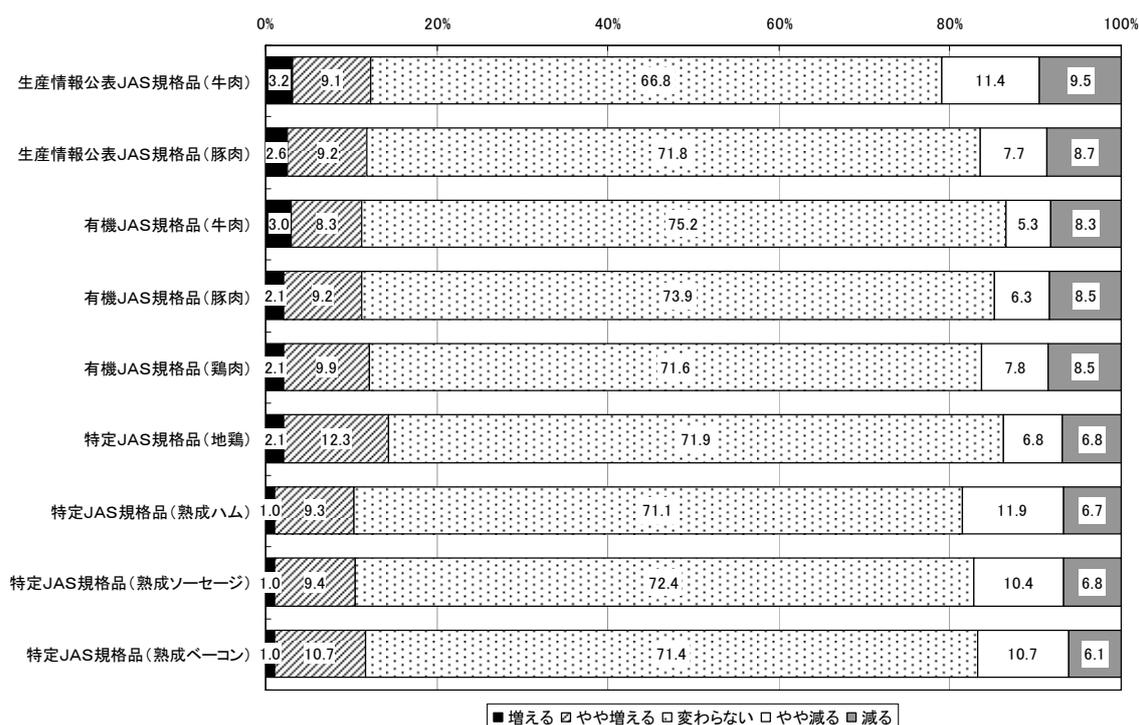


表 4-34 JAS 規格品の今後の取扱量

商品名	総数	（単位：%）					平均ポイント
		増える	やや増える	変わらない	やや減る	減る	
生産情報公表JAS規格品(牛肉)	220	3.2	9.1	66.8	11.4	9.5	-0.15
生産情報公表JAS規格品(豚肉)	195	2.6	9.2	71.8	7.7	8.7	-0.11
有機JAS規格品(牛肉)	133	3.0	8.3	75.2	5.3	8.3	-0.08
有機JAS規格品(豚肉)	142	2.1	9.2	73.9	6.3	8.5	-0.10
有機JAS規格品(鶏肉)	141	2.1	9.9	71.6	7.8	8.5	-0.11
特定JAS規格品(地鶏)	146	2.1	12.3	71.9	6.8	6.8	-0.04
特定JAS規格品(熟成ハム)	194	1.0	9.3	71.1	11.9	6.7	-0.14
特定JAS規格品(熟成ソーセージ)	192	1.0	9.4	72.4	10.4	6.8	-0.13
特定JAS規格品(熟成ベーコン)	196	1.0	10.7	71.4	10.7	6.1	-0.10